

高崎市文化財調査報告書第 244 集

高関高根遺跡

－店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2009

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は店舗建設に伴い実施された、「高岡高根遺跡」（高崎市遺跡番号419）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在は、群馬県高崎市高岡町高根250番地である。
3. 発掘調査は、平成20年6月6日から平成20年9月3日まで実施した。
4. 発掘調査及び整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、株式会社ヤオコーから株式会社シン技術コンサルに委託され実施した。
5. 調査体制は以下のとおりである。

高崎市教育委員会

株式会社シン技術コンサル

山口一郎、佐藤健一

調査担当 菊池康一郎、福井流星、沢田福宏

須山奈保子、角山真也

測量担当 志村将直

6. 本書の編集は、菊池・福井・坂本勝・（株式会社シン技術コンサル）が行った。執筆は第Ⅰ章を田口、第Ⅲ章を福井、第Ⅵ章を株式会社火山灰考古学研究所、他を菊池が行った。
7. 本遺跡の自然科学分析については、株式会社火山灰考古学研究所に依頼した。
8. 石器・石製品の石材鑑定は、飯島静男氏（群馬地質研究会）に委託した。
9. 本調査における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査及び報告書作成に従事した作業員は、以下の通りである。（敬称略・五十音順）
会田 彰、新井かをり、新井正枝、飯塚時司、五十嵐慶三郎、五十嵐久也、石井幸子、岩本公典、小宅泰司、鎌田清美、小林 進、斉藤敏秋、佐藤久美子、猿谷三枝子、静野桂春、島田 悠、鈴木澄江、住谷次雄、関口裕子、善如寺威雄、高八卦幸夫、山口清貴、田口文雄、田口美代子、千葉和枝、富田正義、中沢 孝、大島美樹、原口由美子、星野光雄、堀井エミ子、宇津木有美、宮田節治、村尾 定、森 鐵、山賀利勝、山田千鶴子、大和律子、湯浅洋子、吉田瑠美子、蓬田保伯、六反田達子
11. 発掘調査の実施および本書の刊行にあたり、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略）
井上喜久男、大木紳一郎、坂口 一、橋口定志、柳本照男、山際哲章、有限会社高澤考古学研究所、細谷印刷有限公司、加藤空堀、株式会社火山灰考古学研究所、株式会社リフォーム群馬、株式会社トラスト技研、山下工業株式会社

凡 例

1. 本書掲載の第1図は国土地理院発行 1/25,000 地形図『前橋』・『高崎』を、第2図は高崎市発行 1/2,500 都市計画図を、それぞれ使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は、座標北である。
3. 土層の色調は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所 色票監修2002版）による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SI=堅穴住居跡、SD=溝、SK=土坑、P=ピット、SX=堅穴状遺構・性格不明遺構、SE=井戸跡、SJ=畦畔である。
5. 火山噴出物の表記は略号を用いた。浅間C軽石=As-C、浅間Bテフラ=As-B、浅間A軽石=As-A、榛名二ツ岳渋川テフラ=Hr-FAである。
6. 遺構配置図の座標については、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
7. 写真図版における遺物写真の縮尺は、遺物実測図と同スケールとした。
8. 遺構・遺物実測図において使用しているトーンの凡例は、以下の通りである。

 焼土範囲

 比熱範囲

 磨面

目次

例言	
凡例	
第I章 調査に至る経緯	1
第II章 調査の方法と経過	1
第III章 遺跡の立地と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第IV章 基本層序	7
第V章 検出された遺構と遺物	8
第1節 竪穴住居跡・竪穴状遺構	8
(1) A区第1面	8
(2) A-2区第2面	15
(3) C区	21
第2節 溝状遺構	24
(1) A区第1面	24
(2) A-2区第2面	27
(3) C区	27
第3節 土坑	27
(1) A区第1面	27
(2) A-2区第2面	34
(3) C区	44
第4節 井戸	45
(1) A区第1面	45
(2) A-2区第2面	48
(3) C区	48
第5節 性格不明遺構	49
(1) A区第1面	49
(2) A-2区第2面	50
第6節 ビット	52
第7節 水田跡	52
第8節 その他の遺物	52
第VI章 自然科学分析	82
第1節 高岡高根遺跡の土層とテフラ	82
(1) はじめに	82
(2) 土層の層序	82
(3) テフラ検出分析	83
(4) 屈折率測定	84
(5) 考察	84
(6) まとめ	84

第2節	高岡高根遺跡におけるプラント・オパール分析	87
(1)	はじめに	87
(2)	試料	87
(3)	分析法	87
(4)	分析結果	87
(5)	考察	87
(6)	まとめ	88
第Ⅶ章	ま と め	89
第1節	遺跡の立地	89
第2節	主な遺構と遺物	90
(1)	竪穴住居跡・竪穴状遺構	90
(2)	溝状遺構	90
(3)	土坑	91
(4)	包含層	92
(5)	出土遺物	92
第3節	小 結	94

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	周辺の遺跡	5	第 36 図	SK162 ~ 169	44
第 2 図	調査区位置図	6	第 37 図	SK3・4・9・10	44
第 3 図	グリッド設定図	6	第 38 図	SE1・3、SE1・3 出土遺物	45
第 4 図	基本土層柱状図	7	第 39 図	SE4 ~ 6、SE4・5 出土遺物	46
第 5 図	A-2 区第 2 面 遺構全体図	9	第 40 図	SE7・9、SE6・7・9 出土遺物	47
第 6 図	SI1 (1)	11	第 41 図	SE8、SE8 出土遺物	48
第 7 図	SI1 (2)、SI1 出土遺物	12	第 42 図	SE2	48
第 8 図	SI2	13	第 43 図	SX1 ~ 3	49
第 9 図	SI2 出土遺物、SI4、SI4 出土遺物	14	第 44 図	SX6 ~ 10	50
第 10 図	SI5、SI5 出土遺物	17	第 45 図	SX11 ~ 13	50
第 11 図	SI6、SI6 出土遺物	18	第 46 図	SX14 ~ 21	51
第 12 図	SI7、SI7 出土遺物	19	第 47 図	P6・88	52
第 13 図	SI8、SI8 出土遺物、SI9 (1)	20	第 48 図	A-2 区第 2 面 ビット全体図	53
第 14 図	SI9 (2)、SI9 出土遺物	21	第 49 図	SJ1 ~ 10	55
第 15 図	SI3 (1)	22	第 50 図	その他の遺物 (1)	56
第 16 図	SI3 (2)、SI3 出土遺物、SX4 (1)	23	第 51 図	その他の遺物 (2)	57
第 17 図	SX4 出土遺物、SX5、SX5 出土遺物	24	第 52 図	その他の遺物 (3)	58
第 18 図	SD1 ~ 9・11 ~ 13・16 ~ 24・26 ~ 28	25	第 53 図	その他の遺物 (4)	59
第 19 図	SK1	27	第 54 図	その他の遺物 (5)	60
第 20 図	SK2・5 ~ 8・11 ~ 13・20	28	第 55 図	その他の遺物 (6)	61
第 21 図	SK14 ~ 19・21・22	29	第 56 図	その他の遺物 (7)	62
第 22 図	SK23 ~ 31	30	第 57 図	その他の遺物 (8)	63
第 23 図	SK32 ~ 42	31	第 58 図	その他の遺物 (9)	64
第 24 図	SK43・44・46 ~ 53	32	第 59 図	その他の遺物 (10)	65
第 25 図	SK54 ~ 63	33	第 60 図	調査区西壁の土層柱状図	86
第 26 図	SK64 ~ 71	34	第 61 図	SD1 の土層柱状図	86
第 27 図	SK72 ~ 74	35	第 62 図	SD2 の土層柱状図	86
第 28 図	SK75 ~ 83	36	第 63 図	SD6 の土層柱状図	86
第 29 図	SK84・85・87 ~ 98、P55	37	第 64 図	プラント・オパール分析結果	88
第 30 図	SK99 ~ 103・105 ~ 108・120・135	38	第 65 図	遺跡周辺の地形	89
第 31 図	SK109 ~ 117	39	第 66 図	遺跡内の微地形	90
第 32 図	SK118・119・121 ~ 128	40	第 67 図	第 1 面長方形・方形土坑の規模	91
第 33 図	SK129 ~ 134・136 ~ 139	41	第 68 図	主要出土遺物一覧 (1)	93
第 34 図	SK140 ~ 145・147・149 ~ 151	42	第 69 図	主要出土遺物一覧 (2)	94
第 35 図	SK152 ~ 161	43	第 70 図	城館分布模式図	95

付図 1 A 区第 1 面 遺構全体図

付図 2 B・C 区 遺構全体図

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表 (1)	3	第15表	出土遺物観察表 (1)	72
第2表	周辺遺跡一覧表 (2)	4	第16表	出土遺物観察表 (2)	73
第3表	堅穴住居跡観察表	66	第17表	出土遺物観察表 (3)	74
第4表	溝状遺構観察表	66	第18表	出土遺物観察表 (4)	75
第5表	土坑観察表 (1)	66	第19表	出土遺物観察表 (5)	76
第6表	土坑観察表 (2)	67	第20表	出土遺物観察表 (6)	77
第7表	土坑観察表 (3)	68	第21表	出土遺物観察表 (7)	78
第8表	土坑観察表 (4)	69	第22表	出土遺物観察表 (8)	79
第9表	井戸観察表	69	第23表	出土遺物観察表 (9)	80
第10表	堅穴状遺構・性格不明遺構観察表	69	第24表	出土遺物観察表 (10)	81
第11表	ビット観察表 (1)	69	第25表	テフラ検出分析結果	85
第12表	ビット観察表 (2)	70	第26表	屈折率測定結果	85
第13表	ビット観察表 (3)	71	第27表	プラント・オパール分析結果	88
第14表	ビット観察表 (4)	72			

写真図版目次

PL.1	A区第1面全景、B・C区全景
PL.2	A-2区第1面全景、A-2区第2面全景
PL.3	A区第1面全景、SI1全景、SI2全景、SI4全景、SI6全景
PL.4	SI7全景、SI8全景、SI3全景、SX4全景、SX5遺物出土状況全景、SD1・6全景、SD1・2全景、SD1南壁セクション
PL.5	SD2 Aセクション、SD6 Aセクション、SD3～5全景、SD16全景、SK5全景、SK6全景、SK11全景、SK12全景
PL.6	SK13全景、SK18全景、SK19全景、SK21全景、SK26全景、SK27全景、SK28全景、SK29全景
PL.7	SK33全景、SK35全景、SK39全景、SK40全景、SK41全景、SK42全景、SK43全景、SK52全景
PL.8	SK55全景、SK56全景、SK57全景、SK58全景、SK59全景、SK60全景、SK61全景、SK62全景
PL.9	SK69全景、SK81全景、SK89全景、SK90全景、SK91全景、SK95全景、SK99全景、SK101遺物出土状況全景
PL.10	SK110全景、SK113全景、SK119全景、SK123全景、SK127全景、SK128全景、SK129全景、SK113遺物出土状況全景
PL.11	SK135全景、SK138全景、SK142全景、SK150全景、SK152遺物出土状況全景、SK157セクション、SK161全景、SE1全景
PL.12	SE5全景、SE6全景、SE8全景、SE9遺物出土状況全景、SE2全景、SX20全景、P6遺物出土状況全景、P88遺物出土状況全景
PL.13	出土遺物No.1～29
PL.14	出土遺物No.30～49
PL.15	出土遺物No.50～69
PL.16	出土遺物No.70～104
PL.17	出土遺物No.105～133
PL.18	出土遺物No.134～160
PL.19	出土遺物No.161～185
PL.20	出土遺物No.186～211
PL.21	植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

第Ⅰ章 調査に至る経緯

平成 20 年 3 月、株式会社ヤオコー（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に店舗建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

高崎市教育委員会では、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、文化財保護法第 93 条の届出と試掘調査が必要であり、保存協議についての旨を回答した。

同年 3 月 19 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 4 月 21 ～ 30 日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代の集落跡と平安時代水田跡を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と保存協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、建物建設部分について記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づき指導・監理の下、株式会社シン技術コンサルに委託して実施することとなり、平成 20 年 6 月 5 日付けで高崎市長・事業者・シン技術コンサルの三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 20 年 6 月 6 日付けで事業者とシン技術コンサルの二者で発掘調査委託契約が締結された。

第Ⅱ章 調査の方法と経過

今回の調査は、建物建設予定地 5994.11m²を調査対象としたが、その外側に排水用開渠を掘削したため、最終的な掘削面積は 6214.86m²となった。建設される建物は A ～ C 棟の 3 棟に分かれているため、調査区もそれに合わせて A ～ C 区を設定した。A 区では方形の区画溝が検出され、その外側と内側で土層堆積状況や遺構の展開が異なったため、前者を A-1 区、後者を A-2 区と呼称した。

表土掘削は A 区から開始し、B 区、C 区と行っていった。まずバックホウによって表土から VI 層上面付近まで掘削し、その後ジョレン・移植ゴテなどを用いて、As-B 除去・遺構確認・調査を行った。A-2 区及び C 区の一部では、盛土層（IV 層）や洪水堆積層（VIa 層）が確認されたため、それらの上面で遺構調査を行った後、さらに掘り下げ遺構調査を行った。作図作業は、断面図作成は手実測とトータルステーションによる器械測量を併用し、平面図作成は器械測量と写真測量を併用した。写真記録は 35mm モノクロネガ・同カラーバーサルフィルムの 2 種類を使用し、ラジコンヘリコプターによる空中撮影も実施した。

グリッドの設定にあたっては、世界測地系に基づく平面直角座標第 IX 系の座標軸を用いて 5m の方眼を組んだ。C 区北西隅にあたる X=36565.000、Y=72645.000 を B4 グリッドとし、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとして各々の組み合わせで表示した。各グリッドは北西隅を基点とした。

調査の経過は、以下に掲げる。

平成 20 年

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 6 月 6 日 | プレハブ設置。機材搬入。 |
| 6 月 9 ～ 18 日 | A 区表土掘削。10 日から遺構検出・調査開始。 |
| 6 月 19 ～ 24 日 | B 区表土掘削。併行して人力による As-B 除去作業。 |
| 6 月 25 ～ 27 日 | C 区表土掘削。併行して人力による As-B 除去作業。 |
| 7 月 9 日 | C 区遺構調査開始。 |

7月10～14日	C区洪水堆積層（Ⅵa層）掘削。
7月24日	B・C区空中撮影。
7月30日	C区において確認トレンチを掘削。B・C区遺構調査終了。
8月8日	A区空中撮影。
8月9日	A-2区重機による盛土層（Ⅳ層）掘削。
8月10日	A-2区2面目遺構調査開始。
8月21日	A-1区において確認トレンチ掘削。A-1区遺構調査終了。
8月31日	A-2区空中撮影。遺構調査終了。
9月1日	プレハブ撤去。
9月3日	機材搬出。

第三章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

高崎市は榛名山、妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背にした、関東平野の北西端に位置する。市内には浅間隠山、鼻曲山を水源とする烏川が、碓氷川・鎗川・井野川等の支流を集めながら北西より南東方向へ流れ、玉村町・伊勢崎市域で利根川と合流する。高崎市の地形をみると、烏川右岸には八幡台地・観音山丘陵、左岸には相馬ヶ原扇状地末端の沖積地、その南方に前橋台地が広がっており、碓氷川・烏川・井野川流域には河川の侵食によって、小規模な低地と微高地が入り組んだ地形が形成されている。

本遺跡が所在する高岡町高根は、前橋台地西部の微高地に位置し、標高は91～92mである。南西約2kmには烏川、北東約2kmには井野川が流れる。高岡町の歴史を語る上で外せないものに、烏川から取水され沖町から始まる灌漑用水路である、長野堰が挙げられる。これは戦国時代に長野氏によってその基礎が作られたと伝承されており、大橋町で一貫堀川に分流し、高岡町で倉賀野堰・矢中堰・地獄堰に分流し、各々井野川や烏川に注ぎ込んでいる。遺跡の南75mには地獄堰が、300mには矢中堰が東流しており、この地域の農業に大きな役割を果たしている。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺にて旧石器時代の遺跡はこれまで確認されていない。高崎市において縄文時代の遺跡は観音山丘陵・八幡台地に多く分布し、周辺では高岡村前遺跡（5）、高岡東沖・村前遺跡（3）、城南小学校校庭遺跡（56）、下中居条里遺跡（18）が所在する。遺構は下中居条里遺跡で縄文時代中期後半の堅穴住居跡1軒、土坑5基が確認されているのみで、他は中～後期の土器、石器が出土する程度で不明な点が多い。

弥生時代の遺跡は、烏川左岸段丘上に土器型式の指標遺跡である竜見町遺跡（55）や高崎城遺跡（67）、城南小学校校庭遺跡、烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地には高崎競馬場遺跡（21）、高岡村前遺跡、高岡堰村遺跡（4）、高岡東沖・村前遺跡等が所在する。これらの多くは中・後期の遺物包蔵地もしくは集落遺跡で、生産遺跡は確認されていない。

古墳時代になると遺跡数が増加する。集落遺跡は前時代と同様に烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地に多く立地する。生産遺跡は東町Ⅲ遺跡（28）でAs-Cに覆われた水田跡とHr-FA・Hr-FPを含む洪水層に覆われた水田跡が確認されている。古墳は5世紀後半に築造されたと推定される越後塚古墳（22）、5世紀後半～6世紀前半に築造され、市内では類例の少ない凝灰岩の板材を組み合わせた石棺をもつとされる聖

天山古墳 (59)、6世紀後半、井野川中流域における中核をなす首長墓と考えられている五雲神社古墳 (60)・浜尻犬王山古墳 (51) 等が周辺に所在する。

奈良・平安時代になると条里制の導入から土地制の整備が進み、多くの田地が開発される。本遺跡周辺においても高岡北沖遺跡 (2)、上中居平塚Ⅱ遺跡 (15) 等数多くの遺跡で As-B に覆われた水田跡が確認されている。これらが帰属する集落も近辺の微高地に営まれ、高岡村前遺跡、新後関寺遺跡 (53) 等で当該期の住居跡等が確認されている。

中世になると寺尾・山名・倉賀野・綿貫・嶋名・和田・長野の各氏が高崎域に拠点を築き、多くの城館・環濠屋敷が造営されるようになる。本遺跡周辺は和田氏の領域に含まれ、和田氏に属する一族の環濠屋敷が地獄堀、矢中堀に沿うように分布する。下中居新井屋敷 (71)、高尾屋敷 (72) はそれぞれ和田氏騎馬衆の新井大学、高尾佐渡守の屋敷と推定されており、これらの武士団が和田氏の軍勢力を構成していたと考えられている。

近世になると高崎市は中山道と三国街道が走る交通の要衝で、城下町・宿場町として栄える。周辺では高岡塚村遺跡で掘立柱建物跡等が、上中居辻薬師遺跡 (9)、上中居辻薬師Ⅱ遺跡 (10)、高岡村前遺跡では中世から継続する反町屋敷の一部が調査され、近世の陶磁器が出土している。

第1表 周辺遺跡一覧表 (1)

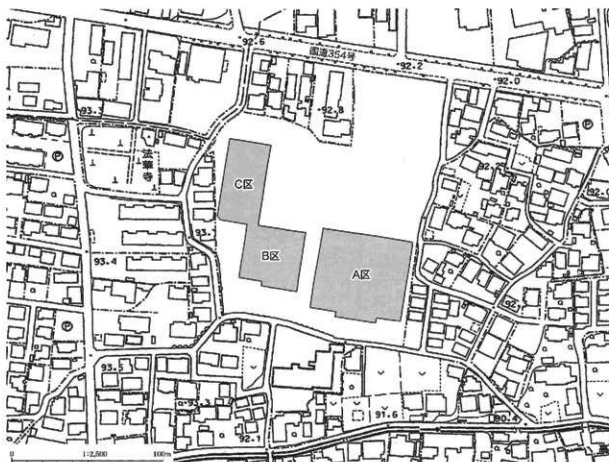
No.	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献
1	高岡古墳遺跡	縄文～近世	古墳住居、古代住居・井戸、B下田、中世前期土坑・土坑、井戸	—
2	高岡北沖遺跡	古代	B下水田等	1991年度市教委調査、報告書発行
3	高岡東沖・村前遺跡	弥生～近世	弥生中期住居、古墳後期住居、古代水路、中世以降竪立・井戸等	1993・94年度市教委調査、報告書発行
4	高岡東村前遺跡	弥生・中～近世	弥生中期竪立、中～近世環濠屋敷	1991年度市教委調査、報告書発行
5	高岡村前遺跡	弥生～中世	弥生後期住居、古墳住居・竪立、中世竪立・土坑・溝等	1992年度市教委調査、報告書発行
6	高岡村前Ⅱ遺跡	古代・中世	B下水田、中世竪立・井戸・水路等	1993年度市教委調査、報告書発行
7	高岡塚田遺跡	古代	B下水田等	1991年度市教委調査、報告書発行
8	高岡東沖Ⅱ遺跡	古代	B下水田等	1995年度市教委調査、報告書発行
9	上中居辻薬師遺跡	古代・中世	B下水田、中世環濠屋敷等	1988年度市教委調査、報告書発行
10	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	古墳～中世	古墳前期周溝墓・住居・水路、中世環濠屋敷・竪立等	1992・93年度市教委調査、報告書発行
11	上中居西堀遺跡	古代	B下水田等	1993年度市教委調査、報告書発行
12	上中居西堀Ⅱ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧跡等	1996年度市教委調査、報告書発行
13	上中居西堀Ⅲ遺跡	古代	B下水田等	1997年度市教委調査、報告書発行
14	上中居平塚Ⅰ遺跡	古代	B下水田等	1995年度市教委調査、報告書発行
15	上中居平塚Ⅱ遺跡	古代	B下水田等	1995年度市教委調査、報告書発行
16	上中居平塚Ⅲ遺跡	古代	B下水田等	1996年度市教委調査、報告書発行
17	上中居高尾遺跡	古代	B下水田等	1988年度市教委調査、報告書発行
18	下中居東型遺跡	縄文・古墳～中世	縄文住居、古墳住居、古代住居・土坑・B下水田、中世前期	1996年度市教委調査、報告書発行
19	岩村Ⅰ遺跡	古代	B下水田、A下水田復旧跡等	1993年度市教委調査、報告書発行
20	岩村Ⅱ遺跡	古代	B下水田等	1995年度市教委調査、報告書発行
21	高岡東堀遺跡	弥生	弥生中期住居等	1999年度市教委調査
22	越後堀古墳	古墳	前方後円墳	『新編 高崎市史 資料1 基址古代1』
23	栄町Ⅰ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧跡等	1995年度市教委調査、報告書発行
24	栄町Ⅱ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧跡等	1998年度市教委調査、報告書発行
25	栄町Ⅲ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧跡等	2003年度市教委調査、報告書発行
26	栄町Ⅳ遺跡	古代・近世	B下水田、近世土坑・溝等	1988年度市教委調査、報告書発行
27	栄町Ⅴ遺跡	古代	B下水田等	1991年度市教委調査、報告書発行
28	栄町Ⅵ遺跡	弥生～古代・近世	弥生期・C下水田、FA・FPを含む洪水層下水田、B下水田、A下水田	1993年度市教委調査、報告書発行
29	栄町Ⅶ遺跡	弥生～近世	弥生土坑・溝、FA・FPを含む洪水層下水田・B下水田、中～近世溝等	1994年度市教委調査、報告書発行
30	栄町Ⅷ遺跡	古代・近世・近代	B下水田、A下水田復旧跡等、近代工堀跡	1995年度市教委調査、報告書発行
31	栄町Ⅸ遺跡	古代	B下水田等	1999年度市教委調査、報告書発行
32	旭町Ⅰ遺跡	古代	9C洪水層下水田、B下水田等	1995年度市教委調査、報告書発行
33	真町Ⅰ遺跡	古代・近世	9C洪水層下水田・B下水田、A下水田復旧跡、城下町・遺構等	1995年度市教委調査、報告書発行

第2表 周辺遺跡一覧表(2)

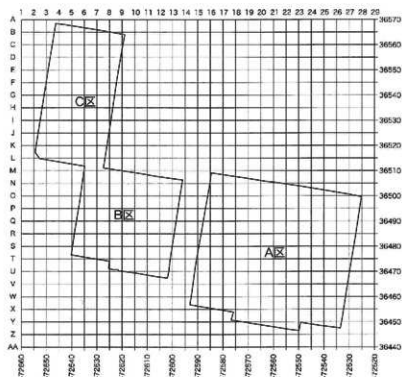
№	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献
34	江本諏訪西遺跡	古墳・近世	古墳群・B下水田・近世遺構等	1994年度市調査会調査、報告書発行
35	岡久保遺跡	古代	B下水田等	1987年度市調査会調査、報告書発行
36	上大部北寄地遺跡	弥生～古代	弥生住居・溝跡等、古墳周防墓等	1981・1982年度市調査会調査、報告書発行
37	上大部南寄地遺跡	弥生～古代	弥生遺物出土、古墳住居、古代住居等	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
38	飯塚大田代遺跡	古代	B下水田等	1990年度市調査会調査、報告書発行
39	飯塚十二所遺跡	古代	B下水田等	1987年度市調査会調査、報告書発行
40	飯塚金井1・B遺跡	古代	B下水田等	1992年度市調査会調査、報告書発行
41	飯塚郡金井遺跡	古代	B下水田等	1993年度市調査会調査、報告書発行
42	兵衛1遺跡	古墳	埴田遺構?	1993年度市調査会調査、報告書発行
43	兵衛天神遺跡	古墳	住居	1991・1992年度市調査会調査、報告書発行
44	飯大領村南東遺跡	縄文～中世	縄文土器、弥生住居、古墳住居、古代住居等	1986年度市調査会調査、報告書発行
45	天田・川井遺跡	古代・中世	古代住居・墓・水田、中世館・墓・井戸等	1982年度市調査会調査、報告書発行
46	新井八坂遺跡	古代	B下水田等	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
47	日光町1・B遺跡	古墳・古代	住居・B下水田	1995年度市調査会調査、報告書発行
48	新井町B遺跡	古墳	円墳	1995年度市調査会調査、報告書発行
49	飯王1・B遺跡	古代	B下水田等	1991年度市調査会調査、報告書発行
50	河尻市橋後遺跡	古墳	住居・円墳	1991年度市調査会調査、報告書発行
51	新井犬王山古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
52	新井南原遺跡	中世	中世御蔵跡	「群馬県歴史散歩」
53	新井南原寺遺跡	古墳・古代	円墳等	1990年度市調査会調査、報告書発行
54	新井中道遺跡	古代	B下水田等	1988年度市調査会調査、報告書発行
55	新井町遺跡	弥生	弥生土器	1935年度東京考古学会研究発表会
56	城南小学校校庭遺跡	縄文～弥生	縄文土器、弥生中～後期住居等	1973年度市調査会調査、報告書発行
57	上野野崎遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田版目版等	1994年度群馬県調査会調査、報告書発行
58	友成町1遺跡	古代・近世	古墳後周住居・溝、B下水田、近世溝・壁穴状遺構	1995年度市調査会調査、報告書発行
59	堀天山古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
60	水産神社古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
61	西馬郡1遺跡	弥生～中世	弥生住居・溝、古代住居・土坑等、中世井戸・溝等	1990年度市調査会調査、報告書発行
62	茂町城	中世	中世城	「上・中田比奈町・同B遺跡」
63	岡田屋敷	中世	中世御蔵跡	「高崎散歩」1989年
64	新橋屋	中世	中世御蔵	「群馬県古墳遺址の研究」下巻1972年
65	高崎城跡	近世	近世城下町跡	「高崎1遺跡」
66	高崎城跡	近世	近世城跡跡	1990年度市調査会調査、報告書発行
67	高崎城跡	弥生・中～近世	中～近世城	「高崎城1～XIV遺跡」等
68	和日下之城	中世	中世城	1981年度市調査会調査「下之城村集落跡」
69	江本南原遺跡	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
70	高崎屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
71	下中坂新井屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
72	高崎屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
73	下中坂新井屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
74	下中坂新井屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
75	高崎屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
76	丸尾屋敷	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
77	宇田南原遺跡	中世	中世御蔵跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」



第1図 周辺の遺跡



第2図 調査区位置図



第3図 グリッド設定図 (S=1/1,500)

第IV章 基本層序

本遺跡では、I～VII層の基本土層を確認した。I層は現代の砕石成土層である。IIa層は近世～現代の水田耕作上で、IIc層はAs-A混土である。III層はAs-B混土である。IV層はA-2区で確認された中世以降の盛土層で遺構確認面である。V層はAs-B純層である。VI層は遺構確認面である。VIc層はAs-Cが混入する黒色土層で、その上位にVIa・VIb層が堆積している。VIa・VIb層は時期の異なる洪水堆積層で、VIa層はC区の一部、VIb層は旧水田部分にのみ堆積している。VII層は井野川泥流（高崎泥流）層である。

遺構確認面は基本的にはVIc層上面であるが、C区の一部やA-2区で盛土層や洪水堆積層が確認されたため、部分的に2面調査を行う形となった。A-2区はIV層上面を第1面、VIc・VII層上面を第2面として調査した。C区西側ではVIa層上面の遺構調査を行った後、VIc層上面まで掘削し、遺構調査を行った。それ以外ではVIbないしVIc層上面で遺構調査を行った。遺物包含層は、III・IV・VIa～VIc層である。IV層の遺物は、5世紀代の遺物が中心であった。VIb・VIc層は上層を中心に遺物を包含しており、古墳時代～平安時代の遺物が中心であった。しかし第VI章にもあるように、奈良・平安時代の遺物は混入と考えられる。

I層 砕石層。

IIa層 灰色土（10YR6/1）締まり強、粘性やや弱。

IIb層 黄橙色土（10YR7/8）締まり強、粘性弱。

IIc層 ぶい黄橙色土（10YR6/3）As-A混土。締まりやや強、粘性弱。

IIIa層 褐灰色土（10YR4/1）As-B混土。締まり強、粘性弱。

IIIb層 ぶい黄褐色土（10YR5/3）As-B混土。締まりやや強、粘性弱。

IV層 黒褐色土（10YR2/2）砂質。焼土・VII層土微量含む。締まりあり、粘性弱。

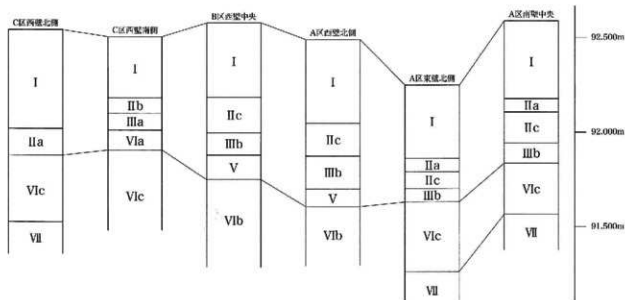
V層 黄灰色（2.5Y5/1）As-B純層。締まりやや強、粘性弱。

VIa層 黒褐色土（10YR2/2）白色軽石中量、橙色土微量含む。締まりあり、粘性強。

VIb層 黒褐色土（10YR3/1）砂質シルト。黄橙色砂中量含む。締まりやや強、粘性やや弱。

VIc層 黒色土（10YR2/1）砂質シルト。白色軽石少量含む。締まりやや弱、粘性あり。

VII層 明黄褐色土（10YR7/6）砂質。井野川泥流（高崎泥流）層。礫少量含む。締まりやや弱、粘性あり。



第4図 基本土層柱状図 (S-1/20)

第V章 検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、竪穴住居跡9軒、竪穴状遺構2基、溝28条、土坑164基、井戸9基、性格不明遺構20基、ピット253基、As-B下水用1面である。遺構確認面は基本的にはVlc層上面で行ったが、A-2区(SD1内側)ではIV層土が堆積しており、その上で遺構調査を行った。IV層土は、SD1掘削に先立って整地された盛土層である。第VI章で後述するが、SD1覆土からAs-Bが検出されていることから、IV層は中世以降の盛土と考えられる。そのため、A-2区第1面の遺構は、おおむね中・近世のものと判断した。A-1区では一部を除き、Vlc層上面でのみ遺構を確認したため、異なった時代の遺構が同時に検出された。C区においても、一部ではあるがVla層の上下で遺構調査を行った。

このA区における第1・2面という呼称は、盛土層(IV層)が部分的に堆積していたため、発掘調査の進行上発生した便宜的なものである。そのため、これが遺構の年代の新旧に、そのままあてはまるものではないことに注意されたい。また詳細は後述するが、遺構出土遺物の大半は遺構の年代を示すものではなかった。そのため第8節において、包含層出土遺物と同様に扱い、報告する。遺構観察表・遺物観察表は、紙幅の都合上、章末にまとめて掲載している。

第1節 竪穴住居跡・竪穴状遺構

(1) A区第1面

A区第1面では3軒の竪穴住居跡が検出され、いずれもA-1区内であった。A区で検出された竪穴住居跡は、出土遺物が少なく、遺構の年代を特定することは難しい。

SI1 (第6・7図 PL.3・13)

位 置 A区北東、Q25・26、P25・26グリッドで検出された。遺構確認面はVlc層上面である。

形状・規模 主軸はN-29°-Wを示し、平面形は方形である。南北4.77m、東西4.65mを測る。確認面から0.30m程掘り下げたところで、床面が確認された。壁はやや外側に開き、壁溝はカマド南側から西壁南側にかけて断続的に確認された。

柱 穴 確認されなかった。

カ マ ド 東壁中央に位置する。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.70m、幅0.38mである。覆土中には焼上が多量に含まれていたが、カマド・煙道使用面には明瞭な被熱は見られなかった。煙道は長さ1.04m、幅0.42mで、燃焼部との高低差はほとんどない。カマド構築材は黒褐色土などが主体で、粘土・袖石などは確認されなかった。

貯 蔵 穴 SI1-SK1が該当する。住居南東隅に位置する。出土遺物はない。

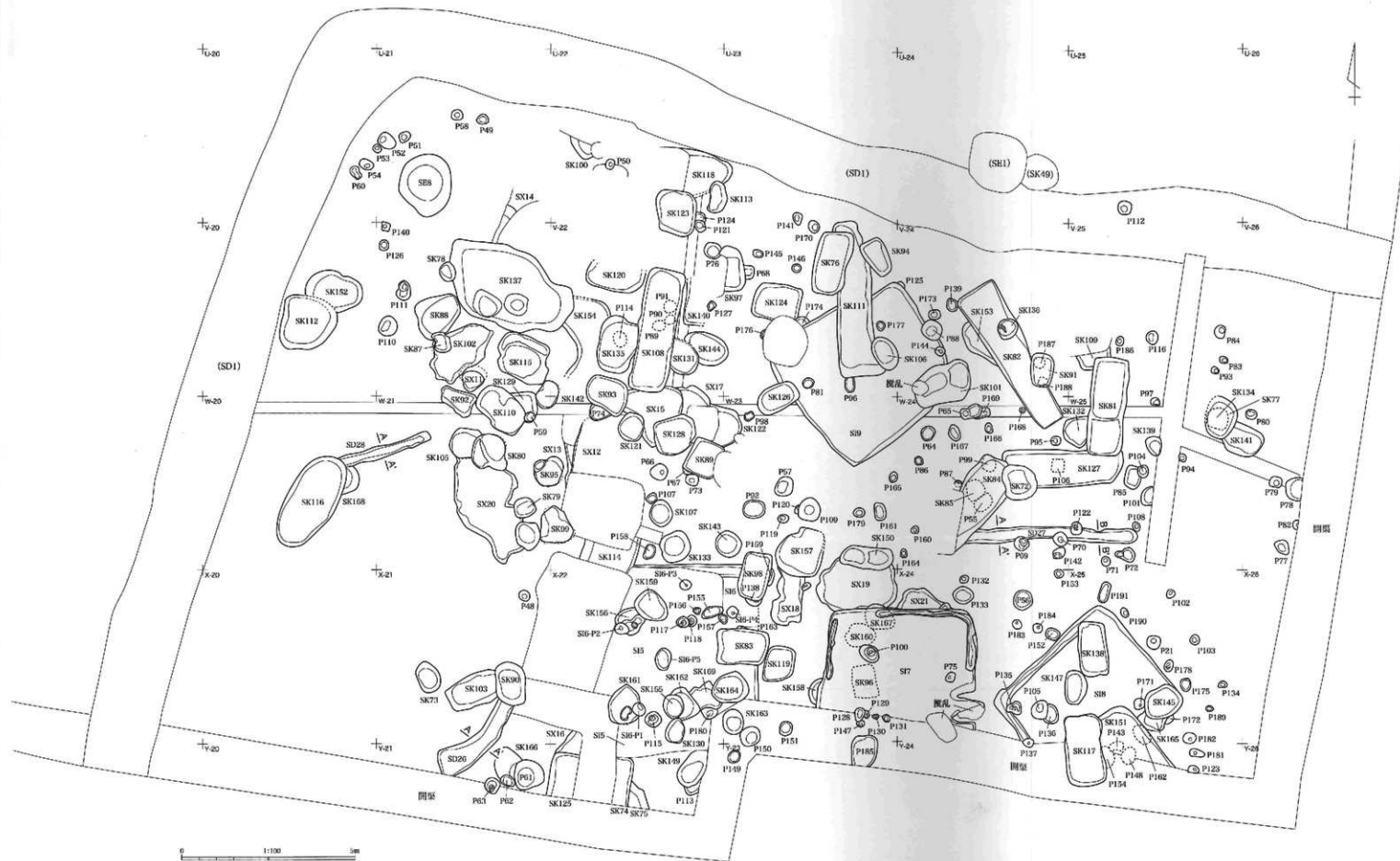
出 土 遺 物 土師器の壺・甗、石製品の管玉などが出土した。

時 期 出土遺物は5世紀後半頃のものが主体だが、検出面から6世紀以降と考えられる。

SI2 (第8・9図 PL.3・13)

位 置 A区北東、Q25・26、R25・26グリッドで検出された。南側を掘削によって破壊されている。遺構確認面はVlc層上面である。

形状・規模 主軸はN-15°-Wを示し、平面形は方形である。東西4.65m、南北3.81m以上を測る。確認面から0.15m程掘り下げたところで、床面が確認された。壁はやや外側に開き、壁溝は確認



第5图 A-2区第2面 遺跡全体図

されなかった。

柱 穴 確認されなかった。

カ マ ド 東壁中央に位置する。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.98m、幅0.32mである。燃焼部奥が若干高くなっており、そこから煙道部にかけて、壁面・使用面とも明瞭に被熱している。燃焼部内中央付近から、台付甕の台片が出土しており、支脚として用いられたものと思われる。煙道は長さ0.72m、幅0.21mで、燃焼部との高低差はほとんどない。カマド構築材は灰黄褐色土主体で、粘土・柏石などは含まれなかった。

貯 蔵 穴 確認されなかった。

出土 遺 物 須恵器の坏、土師器の甕・壺・甔などが出土した。

時 期 検出面から6世紀以降と考えられ、4などから9世紀代まで下る可能性もある。

SI4 (第9図 PL.3・13)

位 置 A区東、S24・25グリッドで検出された。北側を掘乱によって破壊されている。遺構確認面はVic層上面である。

形状・規模 主軸はN-20°-Wを示し、平面形は方形ないし長方形である。東西5.97m、南北5.13m以上を測る。確認面から0.16m程掘り下げたところで、床面が確認された。壁はやや外側に開き、壁溝は確認されなかった。

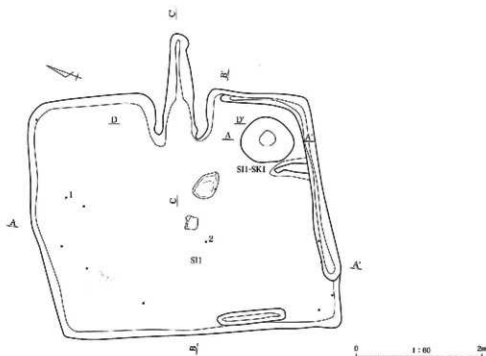
柱 穴 確認されなかった。

カ マ ド 確認されなかったが、東壁北側で焼土がやや集中して検出されており、その近くにあったものと推測される。

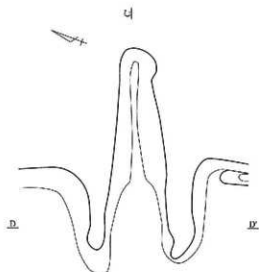
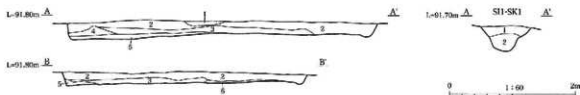
貯 蔵 穴 確認されなかった。

出土 遺 物 土師器の坏・甔などが出土した。

時 期 検出面から6世紀以降と考えられ、10などから9世紀代まで下る可能性がある。



第6図 SI1 (1)



SI1

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰中炭、白色軽石散見含む。締まりやや強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。軽石・白色軽石散見含む。締まりあり、粘性弱。
3. 灰褐色砂 (10YR4/2) 白色砂多量含む。締まりやや強、粘性弱。
4. 黒色土 (10YR2/1) 粘土・白色軽石散見含む。締まり・粘性強。
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。白・黄色軽石散見含む。締まり・粘性弱。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。炭・灰土・軽石土少量含む。締まり・粘性弱。

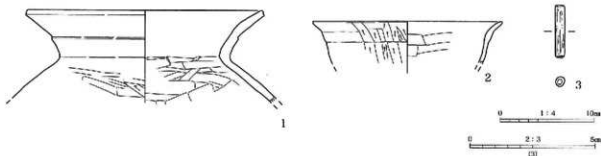
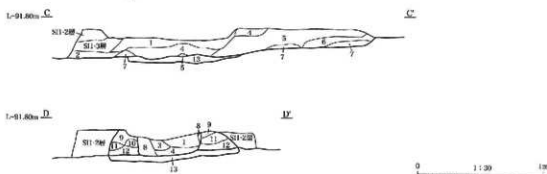
SI1-カマド

1. 灰褐色土 (10YR4/2) 砂質。粘土・白色軽石散見含む。締まりあり、粘性弱。
2. 灰褐色土 (10YR4/2) 締まり・粘性やや強。
3. 灰褐色土 (10YR4/2) 砂質。粘土・ブロック多量含む。締まりやや強、粘性弱。
4. 緑色土 (2.5YR5/6) 粘土・炭・白色軽石散見含む。締まり強、粘性強。
5. 灰褐色土 (7.5YR5/3) 粘土・炭・白色軽石散見含む。締まりやや強、粘性弱。
6. 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土・炭・白色砂多量含む。締まりあり、粘性弱。
7. 黒色土 (10YR2/1) 灰多量含む。締まり強、粘性やや強。
8. 灰褐色土 (7.5YR3/2) 粘土多量含む。締まりやや強、粘性やや強。
9. 灰褐色土 (10YR4/1) 白色軽石散見含む。締まり強、粘性弱。
10. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘土・ブロック多量含む。締まり強、粘性弱。
11. 黒褐色土 (10YR3/1) 砂質。白色軽石少量含む。締まり強、粘性弱。
12. 黒褐色土 (10YR4/1) 白色軽石多量含む。締まり強、粘性弱。
13. 黒褐色土 (10YR3/1) 灰土・軽石土少量含む。締まりあり、粘性弱。

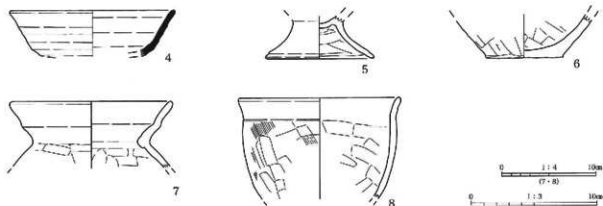
SI1-SK1

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。白色軽石散見。灰土・ブロック少量含む。締まりやや強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 砂質。灰土・軽石土少量含む。締まり・粘性やや強。

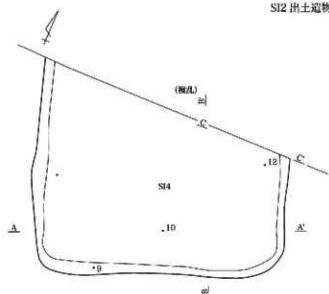
カマド



第7図 SI1 (2)、SI1出土遺物



SI2 出土遺物



L=01.70m A A'

L=01.70m B B' (SE/L)

L=01.70m C C'

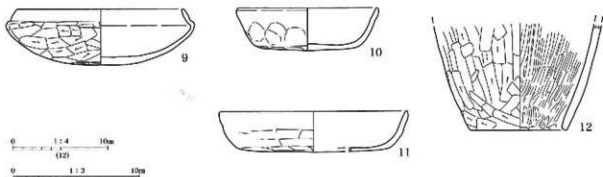
SI4 (A・Bセクション)

I. 黒色土 (10YR2/1) 白色軽石散見含む。締まりやや強、易脆断。

SI4 (Cセクション)

I. 濃い褐色土 (2.5YR5/4) 灰主体。締まりあり、堅固やや質。

0 1:60 10m



第9図 SI2 出土遺物、SI4、SI4 出土遺物

(2) A-2 区第 2 面

A-2 区第 2 面では、竪穴住居跡 5 軒が検出された。SI5・6 はほぼ同じ位置で検出されており、同一住居の可能性もある。SI8・9 は掘方だけの検出であったため、遺構の時期など、詳細は不明である。

SI5 (第 10 図 PL.13)

位置 A-2 区中央南側、W22、X22・23、Y22 グリッドで検出された。貼り床のみの検出で、南東部は調査区外に位置する。第 2 面で検出され、遺構確認面はⅦ層上面である。SI6 とほぼ同一位置にあり、SI6 の建て替えの可能性もある。

形状・規模 主軸は N-2°-W を示し、平面形は方形である。南北 5.28m、東西 2.85m 以上を測る。深さは一番残りの良いところで、0.06m 程を測る。壁・壁溝は確認されなかった。

柱 穴 確認されなかった。

カ マ ド 確認されなかった。重複遺構に破壊された可能性もある。

貯 蔵 穴 確認されなかった。

出土 遺 物 土師器の坏・甕・壺、板状石器などが出土した。

時 期 不明。SI6 出土の 18 から、10 世紀以降の可能性がある。

SI6 (第 11 図 PL.3・13)

位置 A-1 区中央南側、W22・23、X22・23、Y22 グリッドで検出された。ほぼ貼り床のみの検出で、南東部は調査区外に位置する。第 2 面で検出され、遺構確認面はⅦ層上面である。SI5 とほぼ同一位置にあり、SI5 の建て替え前の可能性もある。

形状・規模 主軸は N-2°-W を示し、平面形は方形である。南北 5.37m、東西 4.77m 以上を測る。深さは一番残りの良いところで、0.06m 程を測る。壁は南東隅で一部確認された。壁溝らしき掘り込みが、北側で確認された。

柱 穴 5 基検出された。P1～P4 は五角形状に配置された柱穴と思われる。P5 は覆土が他のビットとは異なっており、性格不明である。

カ マ ド 確認されなかった。重複遺構に破壊された可能性もある。

貯 蔵 穴 確認されなかった。

出土 遺 物 床面から須恵器の高台付碗など、床下から土師器の甕・壺・甔などが出土した。

時 期 不明。18 から、10 世紀以降の可能性がある。

SI7 (第 12 図 PL.4・13)

位置 A-1 区中央南側、X23・24 グリッドで検出された。遺存状態は悪く、南部は調査区外に位置する。第 2 面で検出され、遺構確認面はⅦ層上面である。

形状・規模 主軸は N-2°-W を示し、平面形は方形である。東西 4.86m、南北 3.27m 以上を測る。確認面から 0.12m 程掘り下げたところで、床面が検出された。壁はやや外側に開き、貼り床掘削後に壁溝が確認された。壁溝は掘方調査時に検出されたため、断続的にしか確認できなかったが、ほぼ全周していたものと推測される。

柱 穴 明確に住居に伴うと判断されるビットは、確認されなかった。

カ マ ド 東壁やや南寄りに位置する。掘削によって南側半分が破壊されている。燃焼部は壁内にあり、奥行き約 0.70m である。壁面は非常によく被熱しており、使用面には炭化物が広がっていた。

覆土はⅦ層土が主体で、カマド構築材の崩落土と思われる。攪乱のため燃焼室と煙道の境界が不明瞭であるが、煙道は0.30m程残存していると思われる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 床面から土師器の壺など、床下から土師器の壺などが出土した。また崩落したカマド構築土から土師器の坏が出土した。

時期 不明。カマド構築材出土の土師器坏(23)から、7世紀以降と思われる。

SI8 (第13図 PL.4・13)

位置 A-1区南東、X24・25グリッドで検出された。掘方だけの検出で、南部は調査区外に位置する。第2面で検出され、遺構確認面はⅦ層上面である。

形状・規模 主軸はN-47°-Eを示し、平面形は方形である。北西辺4.44m、北東辺3.78mを測る。南西辺及び北西辺で壁溝が確認できた。軸方では不明瞭であったが、壁溝は全周していたものと推測される。

柱穴 住居内では確認されなかったが、北西壁に沿う形で、壁外にピット列が確認された。1辺のみしか確認できなかったため、上屋構造については不明である。

カマド 確認されなかった。上記のピット列があるため、少なくとも北西壁には存在しなかったものと思われる。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 覆土から土師器の壺などが出土した。

時期 不明。

SI9 (第13・14図 PL.13)

位置 A-1区中央北側、V23・24、W23・24グリッドで検出された。掘方だけの検出である。第2面で検出され、遺構確認面はⅦ層上面である。

形状・規模 主軸はN-37°-Wを示し、平面形は方形である。南西辺4.38m、北西辺4.14mを測る。壁溝は確認されなかった。

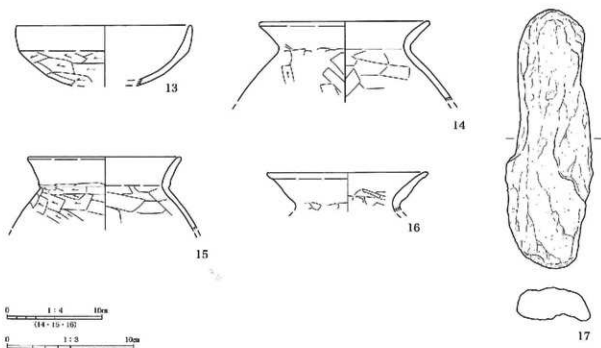
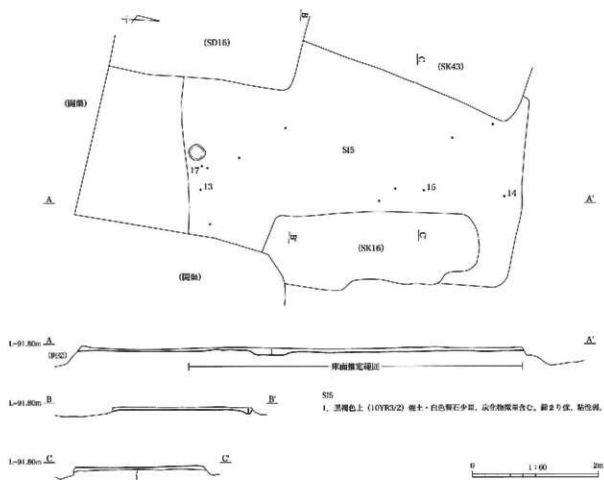
柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

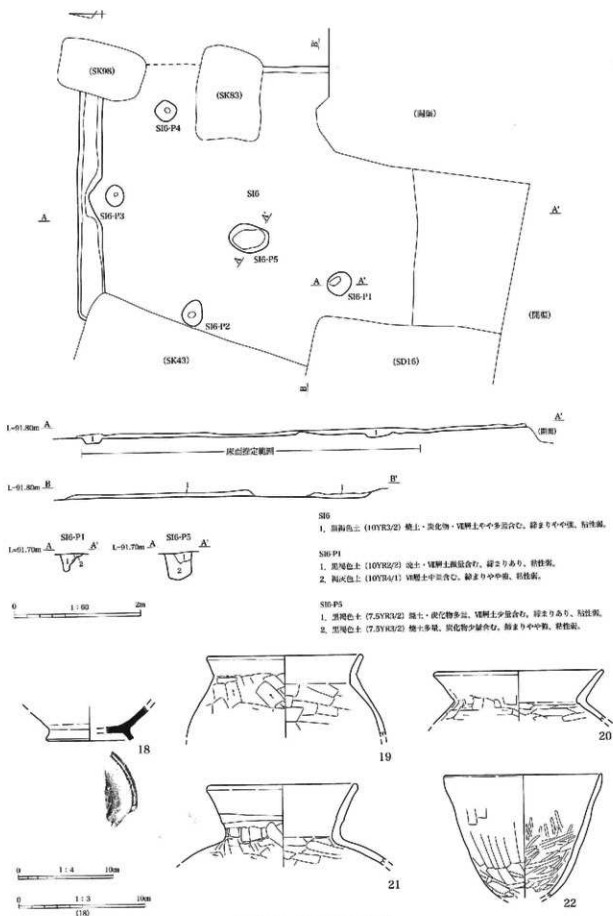
貯蔵穴 確認されなかった。SK101の西側が一段低くなっており、位置的に見て、そこに貯蔵穴があった可能性がある。

出土遺物 床面から土師器の鉢などが、床下から土師器の高坏などが出土した。

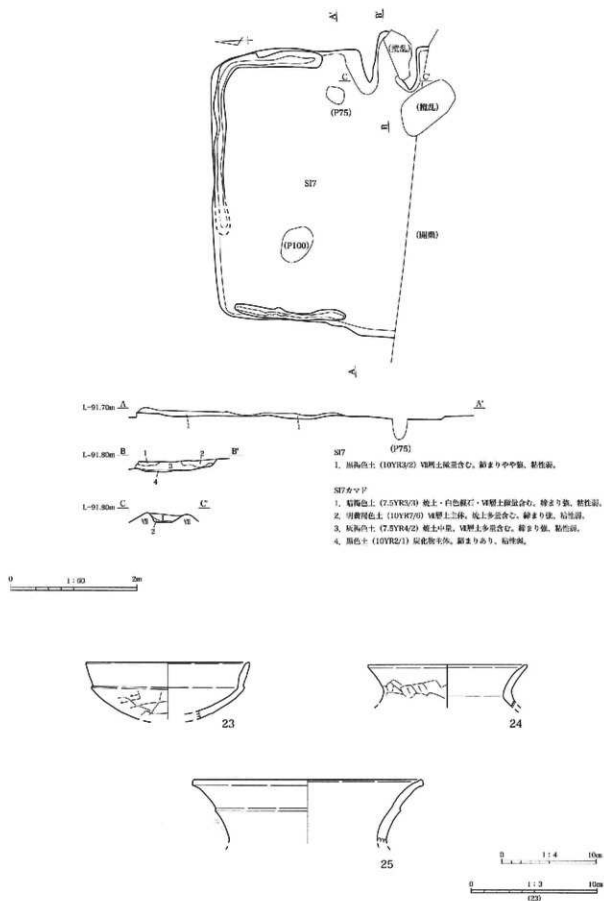
時期 不明。



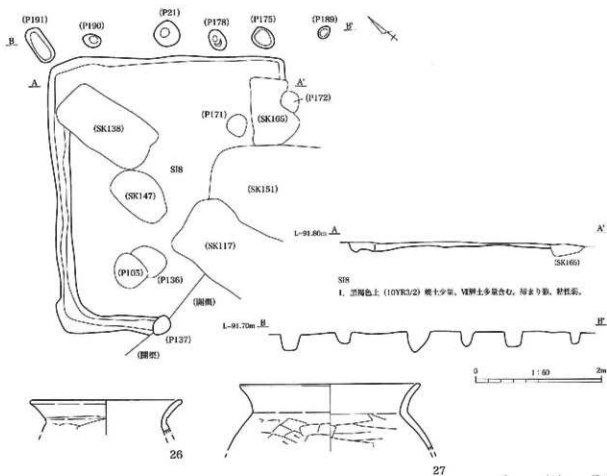
第10図 SI5、SI6出土遺物



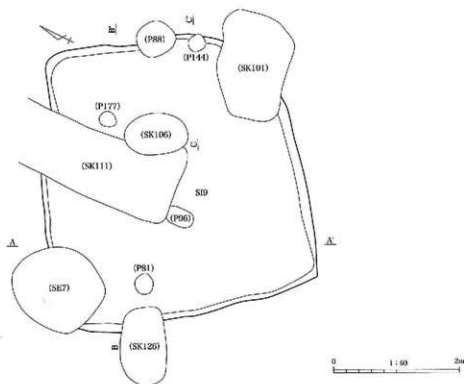
第11図 SI6、SI6出土遺物



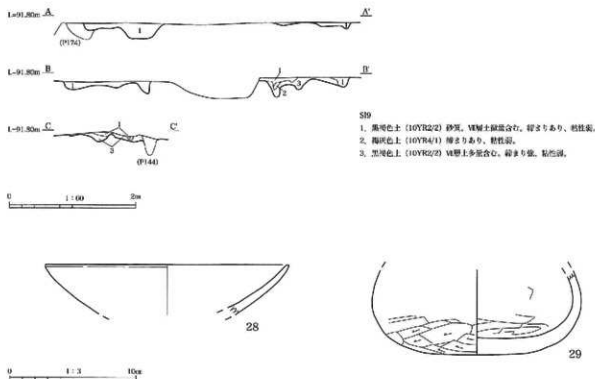
第12図 SI7、SI7a 出土遺物



S18、S18 出土遺物



第13図 S18、S18 出土遺物、S19 (1)



第14図 SI9 (2)、SI9 出土遺物

(3) C区

C区では、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構2基が検出された。いずれも比較的上上遺物が多く、およそ8世紀代の年代が考えられる。

SI3 (第15・16図 PL.4・14)

位置 C区北、A4・5、B4・5グリッドで検出された。北半分は調査区外に位置し、遺構確認面はVIc層上面である。

形状・規模 主軸はN-6°-Eを示し、平面形は方形ないし長方形である。東西4.62m、南北3.01m以上を測る。確認面から0.18m程掘り下げたところで、床面が確認された。壁はやや外側に開き、深さ0.10m程の壁溝が確認された。掘方の深さは0.06m程であった。また南西隅の床面上で、にぶい黄橙色土が約1mの範囲で検出されたが、性格は不明である (SI3-SX1)。

柱 穴 確認されなかった。

カ マ ド 東壁南側に位置する。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.60m、幅0.38mである。使用面・壁面ともに被熱は見られず、覆土中にも焼土は少量しか含まれていなかった。煙道は確認されなかった。カマド構築材はにぶい黄橙色土主体で、締まり・粘性ともに非常に強かった。

貯 蔵 穴 確認されなかった。

出土遺物 カマド周辺から多量の土器が出土しており、土師器の杯・甕・甗などが出土した。

時 期 出土遺物から、8世紀代と思われる。

SX4 (第17図 PL.4・14)

位置 C区南西、H3、I3・4グリッドで検出された。遺構確認面はVIc層上面で、VIa層に覆われていた。

形状・規模 主軸はN-88°-Wを示し、平面形は長方形である。東西4.36m、南北2.46m、深さ0.14mを測る。

明確な床面・柱穴・カマドが確認されなかったため、竪穴状遺構とした。

カマド 確認されなかった。東壁にカマド状の張り出し部があり、焼土も検出されたが、カマドであるという確証は得られなかった。

出土遺物 土師器の環などが出土した。

時期 不明。出土遺物から9世紀代か。

SX5 (第17図 PI.4・14)

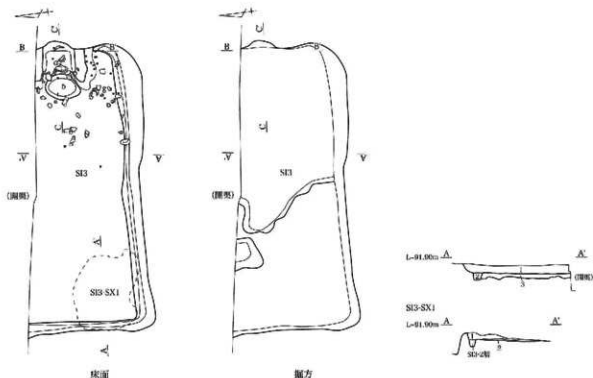
位置 C区南西、J2グリッドで検出された。西端は調査区外に位置する。遺構確認面はVIc層上面で、VIa層に覆われていた。

形状・規模 主軸はN-15°-Eを示し、平面形は方形である。南北2.14m、東西1.86m以上、深さ0.14mを測る。明確な床面・柱穴・カマドが確認されなかったため、竪穴状遺構とした。

柱穴 遺構底面でSX5-P1が検出されたが、重複遺構の可能性も残る。

出土遺物 須恵器の鉢、土師器の環などが出土した。

時期 8世紀代。



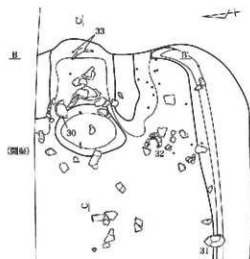
SI3

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色砂が少量、褐色土混入含む。締まり・粘性あり。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 褐色土少量含む。締まり・粘性やや弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土質。白色砂石少量、褐色土少量含む。締まり弱、粘性弱。

SX3-SX1

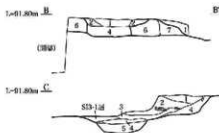
1. に近い、黄褐色土 (10YR6/4) 灰白色土少量含む。締まりあり、粘性強。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 褐色土やや多量含む。締まり・粘性やや弱。

第15図 SI3 (1)



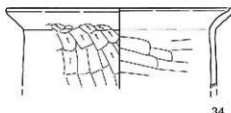
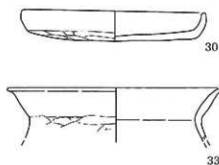
カマド

0 1:30 1m



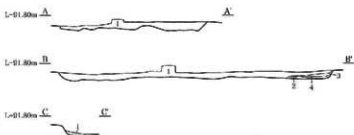
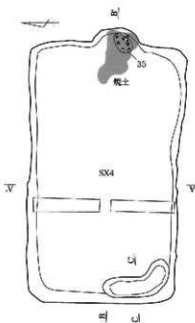
SI3 カマド

1. 黒褐色土 (10YR4/1) 粘土やや多量、黒褐色土多量含む。締まり・粘性あり。
2. 黒褐色土 (5YR5/1) 締まりやや弱、粘性あり。
3. にぶい赤褐色土 (5YR5/3) 締まり強、粘性弱。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土多量含む。締まりやや弱、粘性弱。
5. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土・灰多量、炭化物やや多量、灰白色土多量含む。締まり弱、粘性弱。
6. にぶい黄褐色土 (10YR7/4) 灰褐色土多量含む。締まり・粘性弱。
7. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 締まりやや弱、粘性弱。



0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

SI3 カマド、SI3 出土遺物

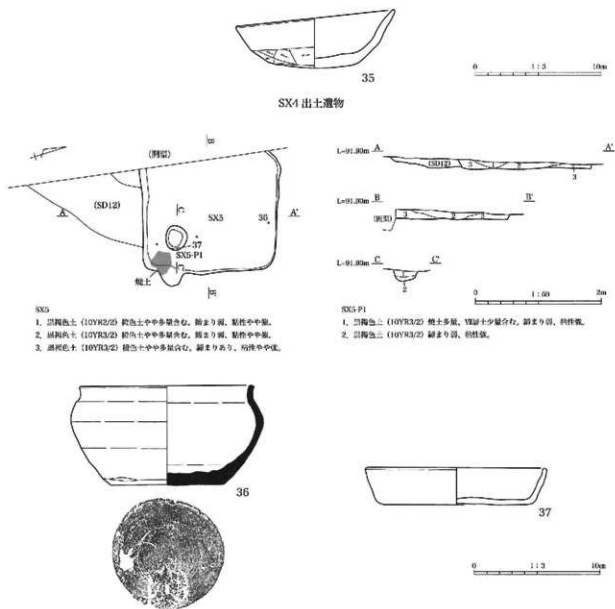


0 1:60 2m

SI3

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色粘土少量含む。締まりやや弱、粘性あり。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土多量含む。締まりあり、粘性やや弱。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量含む。締まりやや弱、粘性あり。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色粘土少量含む。締まりやや弱、粘性やや弱。

第16図 SI3 (2)、SI3 出土遺物、SX4 (1)



第 17 図 SX4 出土遺物、SX5、SX5 出土遺物

第 2 節 溝状遺構

(1) A 区第 1 面 (第 18・50・51 図 PL.4・5・15・16)

A 区第 1 面では、18 条の溝状遺構が検出された。溝状遺構のうち、SD16 は平面形 L 字を呈しており、溝というよりは土坑の様な形状であった。

溝状遺構は、その形状・規模によって大きく 2 つに分類できる。一つは A-2 区を構成する、大型の方形区両溝 (SD1・2・6) である。もう一つは C 区でも検出された、旧水田域とそれ以外との境界部分に掘削されている、幅・深度ともに小規模な細長い溝 (SD3 他) である。SD2・6 と SD19 は、覆上の観察から、ほぼ同時に埋没したと考えられるため、これら 2 種類の溝は同時期に機能していたと推測される。

前者の大型区両溝は、掘り込みも深く、A-2 区を方形に区画することを意図されて掘削されたものである。SD2 は他の 2 条に比べて浅く、SD6 を迂回する形で SD19 へと移行しているところに特色がある。

A区 (第1面)

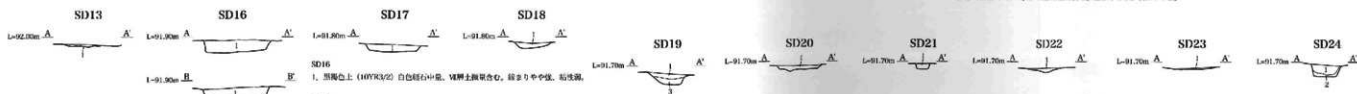
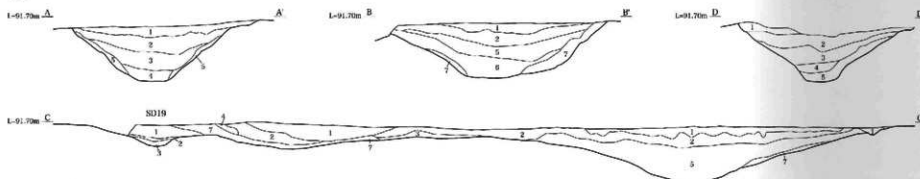
SD1



SD4

1. 黒褐色土 (10YR5/2) 中砂質。白色砂石・黒色土層を含む。締まりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR5/2) 中砂質。黒色土少量含む。締まりあり。粘性中弱。
3. 灰褐色土 (10YR6/4) 砂質。黒色土・黄褐色土層を含む。締まりあり。粘性弱。
4. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石層。灰褐色土中砂多量。黄褐色土少量含む。締まり中弱。粘性あり。
5. 灰褐色土 (10YR6/4) 黄褐色土少量含む。締まり中弱。粘性中弱。
6. 灰褐色土 (10YR6/4) 褐色土中砂多量。黄褐色土層を含む。締まり・粘性あり。

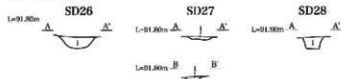
SD6



SD13

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石中砂。黄褐色土層を含む。締まり中弱。粘性弱。

A区-2 (第2面)



SD26

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石・黄褐色土層を含む。締まり中弱。粘性弱。

SD27

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石中砂。黄褐色土層を含む。締まり中弱。粘性弱。

SD28

1. 灰褐色土 (7.5YR6/3) 白色砂石・黄褐色土層を含む。締まりあり。粘性弱。

C区



SD7

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石・黄褐色土層を含む。締まり中弱。粘性弱。

SD8

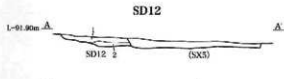
1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石中砂多量含む。締まり中弱。粘性あり。

SD9

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石中砂多量。黄褐色土層を含む。締まりあり。粘性弱。

SD11

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石中砂多量含む。締まり中弱。粘性弱。



SD12

1. 灰褐色土 (10YR6/4) 白色砂石中砂。黄褐色土層を含む。締まり中弱。粘性中弱。
2. 灰褐色土 (10YR6/4) 褐色土中砂含む。締まり中弱。粘性中弱。

後者の小規模な溝 (SD3 ~ 5・13 ~ 15・20 ~ 23) は、旧水田域との境界に断続的に掘削されており、これらの溝から東側には As-B は堆積していない。溝は A 区東側を大きく囲い込むような形で走行しているが、溝状の擾乱も同様の走行をしているのが特徴的である。溝から西側には、堅穴住居などの遺構は展開していない。

出土遺物は遺構の年代を特定するものがみられないため、第 8 節に掲載した。

(2) A-2 区第 2 面 (第 18・51 図 PL16)

A-2 区第 2 面では、3 条の溝状遺構を検出した。いずれも主軸方位に共通性はなく、他遺構との関連もないと思われる。出土遺物は遺構の年代を特定するものがみられないため、第 8 節に掲載した。

(3) C 区 (第 18・51 図 PL16)

C 区では 5 条の溝状遺構が検出された。SD8 ~ 11 は C 区中央南から北東にかけて、断続的に検出された。

A-1 区で検出された細長い溝と同様、旧水田域との境界に掘削されており、溝から西側には As-B の堆積はみられなかった。遺構確認面は VIa 及び VIc 層上面で、覆土に As-B がみられないことから、中世以降の掘削と思われる。SD12 は VIc 層上面の溝である。SX5 に切られていることから、8 世紀以前の可能性が高い。

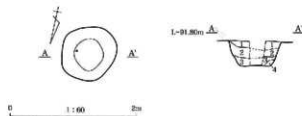
出土遺物は遺構の年代を特定するものがみられないため、第 8 節に掲載した。

第 3 節 土坑

(1) A 区第 1 面 (第 19 ~ 26・51・52 図 PL5 ~ 9・16・17)

A 区第 1 面調査時に検出された土坑は、全部で 66 基である。そのうち 58 基が A-2 区内に位置するが、SK44 だけは SD1 の底面近くで検出されたため、第 2 面の遺構に該当する可能性もある。A-1 区に位置する土坑は、概ね平面円形の土坑で、性格は不明である。A-2 区に位置する土坑の大半は長方形の土坑で、長方形・方形に類する形状の土坑は、A-2 区内の約 8 割を占める。長方形土坑の主軸方位は、南北方向のものと東西方向のものに 2 分されるが、22 ~ 23 ラインを境に西側と東側で微妙に異なる。西側の土坑は、南北方向に主軸をもつ大型土坑が多いのが特徴で、主軸方位は SD1 とほぼ一致している。遺構密度も、北側を中心に密集している。東側の土坑は、西側に比べて小規模なものが散在しており、主軸方位は方位に合わせて規則性があるような印象を受ける。この 2 つの土坑群は互いに近接しており、両者の間を区分するような溝やピット列は存在しない。なお 26 ライン付近にある SK27・56・59 などは再び主軸が東に傾いており、ここから更に東側の土坑群は、A-2 区西側の土坑群と同様の主軸方位を持つ可能性がある。

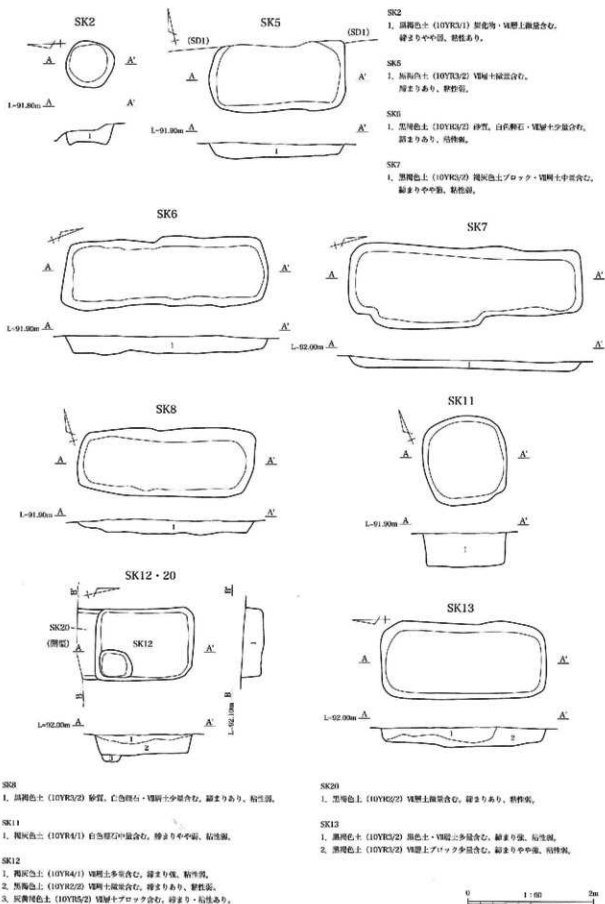
土坑からは、古墳時代 ~ 中・近世の遺物が出土しているが、いずれも遺構の年代を確実に示すものとはいえないため、第 8 節に掲載している。遺構の年代は、SD6 と SK26 から出土した陶器の壺が遺構間接合していることや、前述のように SD1・2・6 と主軸方位が近似していることから、方形・長方形の土坑に関しては中世以降の年代が考えられる。ただし、SK11 は他の土坑に比べ、覆土に白色軽石が多く含まれており、As-A 以降まで下る可能性がある。



SK1

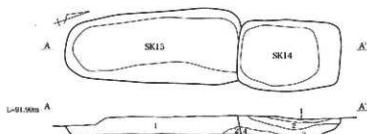
1. 黄褐色土 (10YR3/2) 砂質。白色硬石混入。跡ありあり。粘性弱。
2. 黄褐色土 (10YR2/2) 砂質。白色硬石少量混入。跡あり。粘性弱。
3. 黄褐色土 (10YR2/2) 白色硬石混入。跡あり。粘性弱。
4. 黄褐色土 (10YR3/1) 砂質。黄褐色土混入。跡ありあり。粘性弱。

第 19 図 SK1



第20図 SK2・5～8・11～13・20

SK14・15



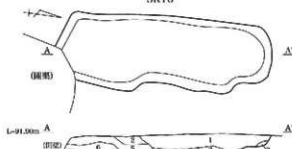
SK14

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴土ブロック多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 陶片土多量含む。締まりあり、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) 陶片土多量含む。締まりやや中、粘性弱。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴土多量含む。締まりやや中、粘性弱。

SK15

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 白色砂石・埴土多量含む。締まりやや中、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴土多量含む。締まりやや中、粘性弱。

SK16



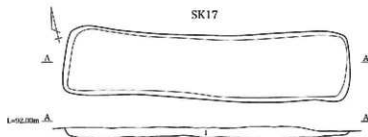
SK16

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 白色砂石・埴土多量含む。締まりやや中、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴土多量含む。締まりやや中、粘性やや中。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴土多量含む。締まりあり、粘性やや中。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴土多量含む。締まりやや中、粘性弱。
5. 黒褐色土 (10YR3/1) 埴土多量含む。締まり強、粘性弱。
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴土多量含む。締まりあり、粘性やや中。

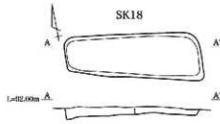
SK17

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色砂石やや多量。埴土多量含む。締まりあり、粘性弱。

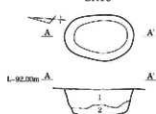
SK17



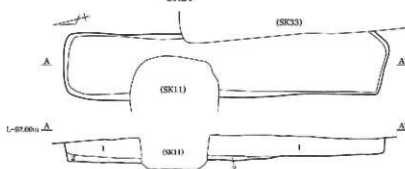
SK18



SK19



SK21



SK18

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色砂石やや多量。埴土多量含む。締まり強、粘性弱。

SK19

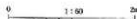
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色砂石やや多量。埴土多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 灰化土・埴土多量含む。締まりやや中、粘性弱。

SK21

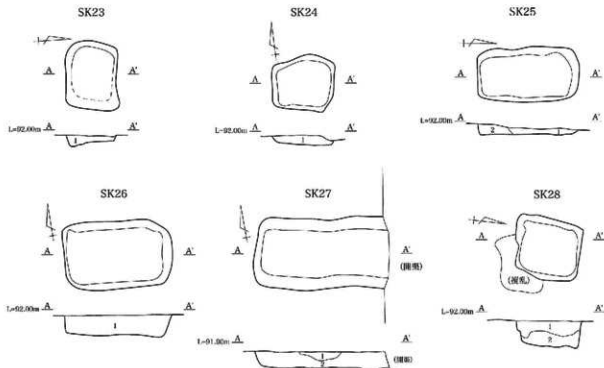
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色砂石・埴土多量。埴土多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴土多量含む。締まりあり、粘性やや中。

SK22

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質。白色砂石多量含む。締まりやや中、粘性弱。



第21図 SK14～19・21・22



SK23

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色軽石中等多量、埴輪・多量含む、締まり強、粘性弱。

SK24

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 赤褐色土少量、白色軽石中量含む、締まり強、粘性弱。

SK25

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色軽石中量、埴輪土少量含む、締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色軽石中量、埴輪土やや多量含む、締まり強、粘性弱。

SK26

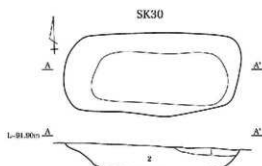
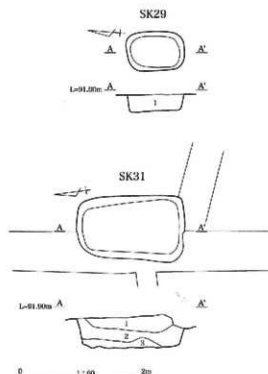
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色軽石・埴輪土中量含む、締まり強、粘性弱。

SK27

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土ブロック多量含む、締まり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色軽石・埴輪土中量含む、締まり強、粘性弱。

SK28

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰化層・白色軽石微量、埴輪土少量含む、締まりあり、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土中量含む、締まりあり、粘性弱。



SK29

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色軽石微量、灰白色土少量含む、締まり強、粘性弱。

SK30

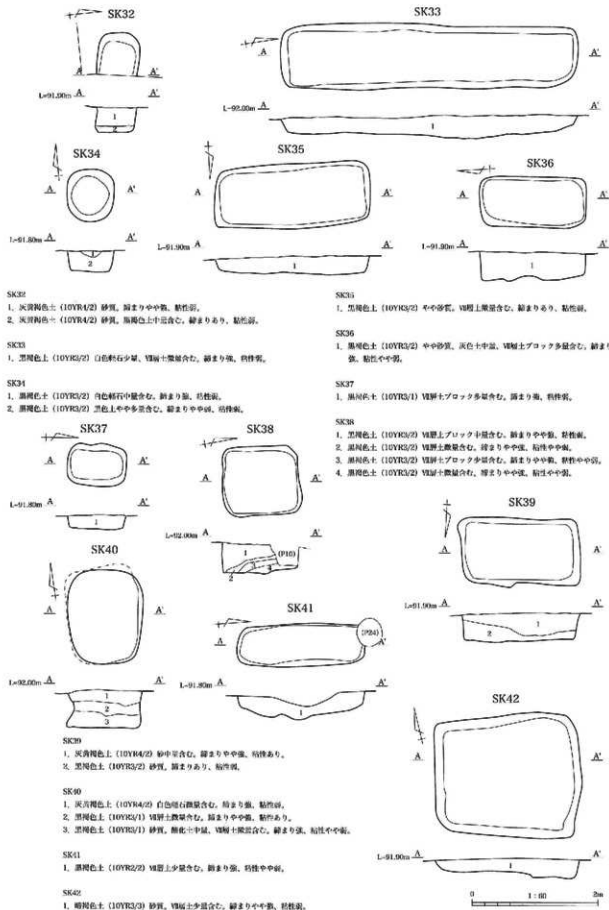
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土少量含む、締まりやや弱、粘性やや弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土多量含む、締まり・粘性あり。

SK31

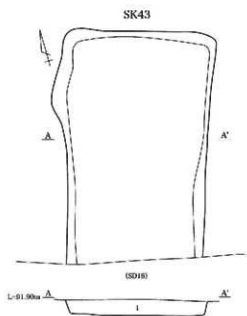
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質、埴輪土少量含む、締まりあり、粘性やや弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/1) 砂質、埴輪土少量含む、締まりやや弱、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) 埴輪土ブロック多量含む、締まり・粘性あり。

0 1:60 2m

第22図 SK23～31



第23図 SK32～42

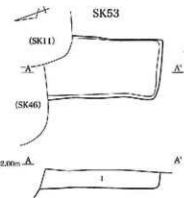
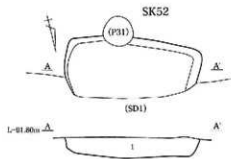
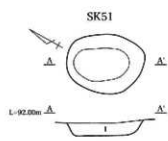
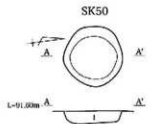
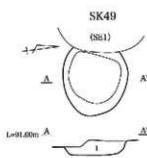
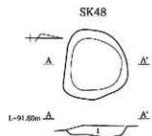
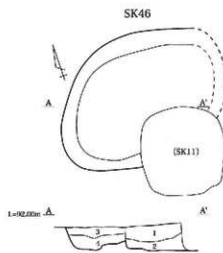


SK43

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 砂質、珪砂土少量含む。腐りやや中強、粘性弱。

SK44

1. 黒色土 (10YR2/1) やや砂質、珪砂土中量含む。腐りあり、粘性弱。
2. 黒色土 (10YR2/1) やや砂質、珪砂土微量含む。腐りやや中強、粘性あり。
3. 黒褐色土 (10YR3/3) 珪砂土少量含む。腐り弱、粘性あり。
4. 黒褐色土 (10YR3/3) 珪砂土ブロック多量、珪砂土少量含む。腐り弱、粘性あり。
5. 黒褐色土 (10YR4/1) 珪砂土少量含む。腐り弱、粘性やや中強。



SK46

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 白色軽石中量、珪砂土少量含む。腐り弱、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/3) 白色軽石少量、珪砂土やや多量含む。腐り・粘性あり。
3. 黒褐色土 (10YR3/3) 白色軽石・珪砂土少量含む。腐り・粘性やや中強。
4. 黒褐色土 (10YR3/3) 珪砂土やや多量含む。腐りあり、粘性やや中強。

SK47

1. 黒褐色土 (10YR3/3) やや砂質、珪砂土・珪砂土微量含む。腐り・粘性やや中強。

SK48~50

1. 黒褐色土 (7.5YR3/1) 白色軽石・珪砂土微量含む。腐りやや中強、粘性やや中強。

SK51

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 白色軽石中量含む。腐りやや中強、粘性弱。

SK52

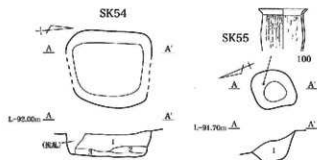
1. 黒褐色土 (10YR3/3) やや砂質、珪砂土ブロック多量含む。腐り弱、粘性やや中強。

SK53

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 珪砂土ブロック多量含む。腐り弱、粘性弱。

0 1:60 2m

第24図 SK43・44・46~53

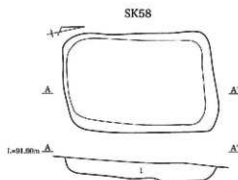


SK54

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 埴輪土ブロック多量含む。跡あり、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) 埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。

SK55

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土少量含む。跡あり、粘性あり。



SK58

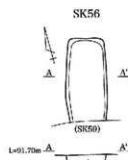
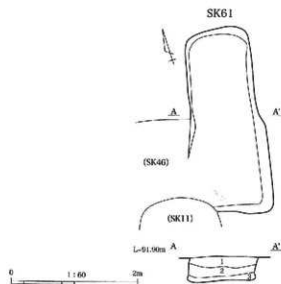
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土少量含む。白色粘土・埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。

SK59

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 白色粘土・埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。

SK60

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土ブロック多量含む。跡あり、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。

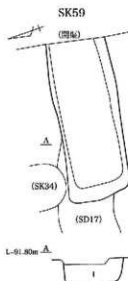


SK56

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色粘土少量。埴輪土多量含む。跡あり、粘性弱。

SK57

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色粘土少量。埴輪土中量含む。跡あり、粘性弱。



SK61

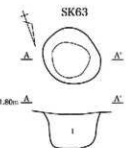
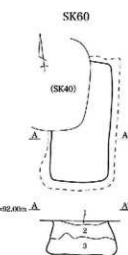
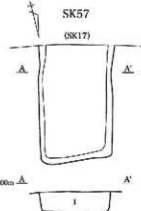
1. 黒褐色土 (10YR3/3) 白色粘土少量。埴輪土中量含む。跡あり、粘性弱。
2. 明褐色土 (10YR7/6) 埴輪土中量含む。跡あり、粘性弱。
3. 明褐色土 (10YR3/3) 埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。

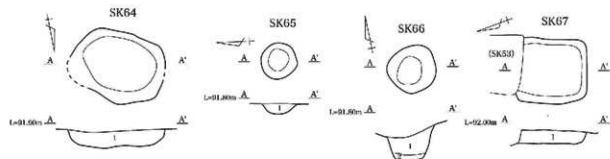
SK62

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色粘土少量。埴輪土少量含む。跡あり、粘性中。

SK63

1. 明褐色土 (10YR7/6) 白色粘土中量。埴輪土少量含む。跡あり、粘性弱。





SK64

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白内照石中量、珪砂土微量含む。締まり・粘性弱。

SK65

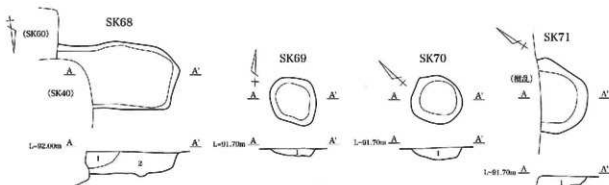
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物微量、珪砂土少量含む。締まり強、粘性弱。

SK66

1. 黒褐色土 (10YR2/1) 白色珪砂土少量、珪砂土微量含む。締まりやや弱、粘性あり。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質。珪砂土微量含む。締まり・粘性弱。

SK67

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色珪砂土少量、珪砂土微量含む。締まりやや強、粘性弱。



SK68

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色珪砂土少量、珪砂土やや多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色珪砂土・珪砂土少量含む。締まり強、粘性弱。

SK70

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色珪砂土・珪砂土少量含む。締まりあり、粘性弱。

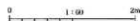
SK71

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物・灰中量含む。締まりやや強、粘性あり。

SK69

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物・珪砂土微量含む。締まりやや強、粘性やや弱。

第26図 SK64～71



(2) A-2区第2面 (第27～36・52～55図 PL.9～11・17・18)

A-2区第2面では、94基の土坑が検出された。遺構の分布範囲は、A-2区の中央付近に密集しており、東西端のVIc層が遺存しているところでの遺構密度は薄かった。土坑の平面形をみると、円形・楕円形の土坑が半数を超え、不整形のものも1割強存在した。方形・長方形の土坑も3割程存在し、そのうちの約半分は1面目の土坑群に似ている印象を持った。以下、特徴的な遺構について述べる。

SK101はSI9と重複する土坑で、底面から土師器の甕が1個体出土した。2～3基の土坑が重複したような形状をしており、SI9の貯蔵穴がその中に含まれている可能性がある。SK152は他遺構と重複した結果、VII層上面で検出された遺構である。遺構底面で縄文時代中期の浅鉢片が出土しており、縄文時代の遺構の可能性が指摘できる。その他の上坑については、以下のように分類した。

円形・楕円形の性格不明土坑

SK72・73・75・77・78・84・90・93・94・103・106・107・112・116・120・121・130・131・134
 ～136・139・141・144・145・149・153～155・158・160・162～164・166・168・169

方形・長方形の性格不明土坑

SK74・79・85・97・109・119・125・133

平面形不明・不整形の性格不明土坑

SK100・122・132

I 面口の土坑に類似した土坑

SK76・81～83・89・91・96・98・108・111・114・127・138・140・143・151

採土坑の可能性のある土坑

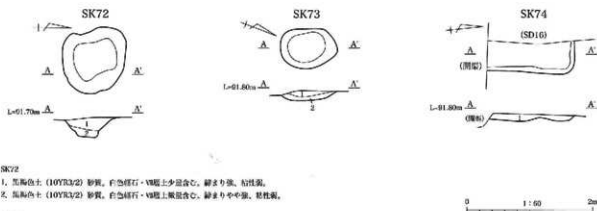
SK80・87・88・92・95・99・102・105・110・113・115・117・118・123・124・126・128・129・
 137・142・147・150・156・157・159・161・165・167

大半の土坑は性格不明だが、採土坑の可能性のある土坑（以下、採土坑）が多いことが特徴である。土坑の壁面が部分的にでもオーバーハングしているものや、底面が不整形であるものを、このように分類した。性格不明土坑と分類した中にも、土取り行為の痕跡であるものが含まれている可能性はある。Ⅴc層土が遺存していない範囲に土坑群が密集していることも、この可能性を補強する材料となるかもしれない。

長方形の土坑は、SK82・151 などのように明らかに第1面の土坑群とは主軸方位の異なる遺構もあるが、およそ第1面に近い主軸方位を示している。これはⅤ層土が盛土される以前から、A-2区において同様の土地利用がなされていた可能性が考えられる。採土坑と長方形土坑には重複関係がほとんどないため、これらの遺構が同時期に構築されたものか、時間差があるのかは不明である。

遺構の年代であるが、覆土にはAs-Bなどのテフラは確認されなかったため、土坑の掘削・埋没年代は不明である。SK160・167はSI7よりも古いことから、一部の採土坑に関しては古墳時代まで遡る可能性はある。長方形土坑に関しては、第1面の土坑群との類似性から、中世以降の可能性が高い。少なくとも、年代は不明であるが、SI8・9などよりは新しいことは確実である。

遺物は古墳時代のものが大半で、奈良・平安時代のものも若干出土しているが、これらは遺構の年代をそのまま示すものとは言えない。そのため、出土遺物は第8節に記載した。



SK72

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。白色砂粒・Ⅴ層土少量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。白色砂粒・Ⅴ層土微量含む。締まりやや強、粘性弱。

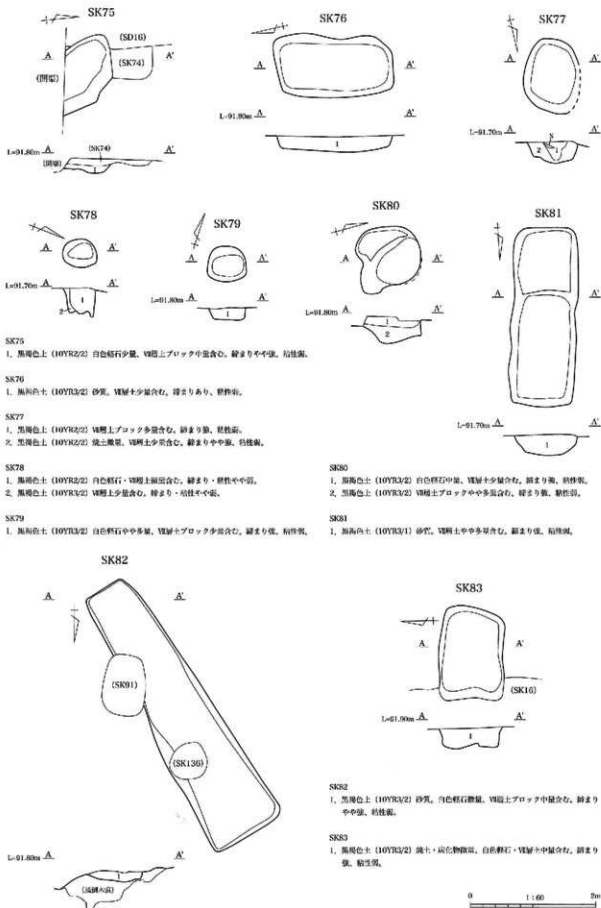
SK73

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白濁砂粒やや多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅴ層土ブロック多量含む。締まり弱、粘性あり。

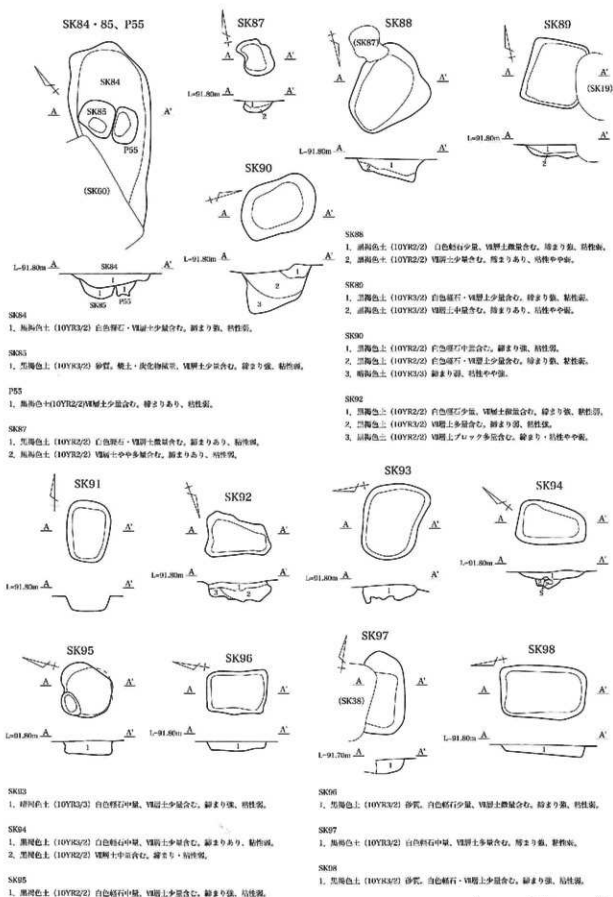
SK74

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色砂粒少量。Ⅴ層土ブロックやや多量含む。締まり強、粘性弱。

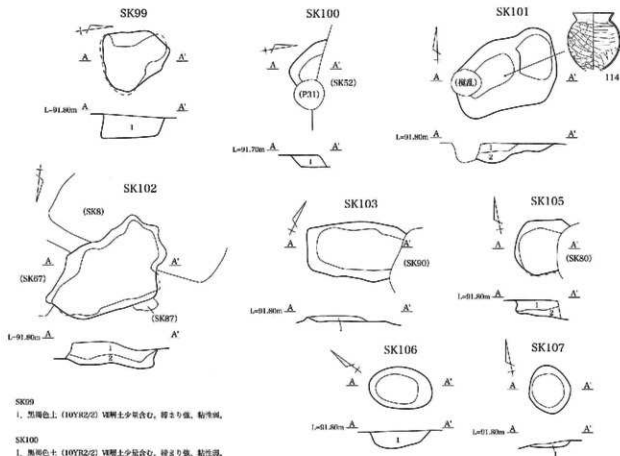
第27図 SK72～74



第28図 SK75～83



第29圖 SK84・85・87～98・P55



SK99

1. 黒褐色土 (10YR2/2) V層土少量含む。締まり強。粘性弱。

SK100

1. 黒褐色土 (10YR2/2) V層土少量含む。締まり強。粘性弱。

SK101

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰白物・白内層石・V層土少量含む。締まり強。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 灰土層土。V層土少量含む。締まりやや強。粘性弱。

SK102

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色細石中量。V層土やや多量含む。締まり強。粘性弱。
2. 褐色土 (10YR4/1) V層土多量含む。締まり強。粘性弱。

SK103

1. 黒褐色土 (10YR2/2) V層土ブロック状混入。締まり強。粘性弱。

SK105

1. 黒褐色土 (10YR3/2) V層土少量含む。締まりあり。粘性弱。
2. じぶい・黒褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土少量。V層土少量含む。締まりあり。粘性弱。

SK106

1. 黒褐色土 (10YR3/2) V層土少量含む。締まり強。粘性弱。

SK107

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色細石・V層土やや多量含む。締まり強。粘性弱。

SK108

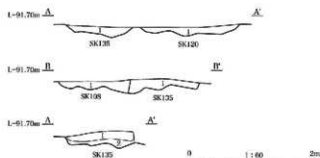
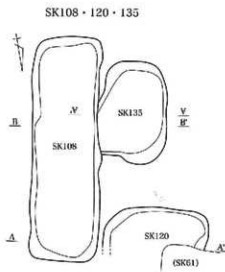
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色細石・V層土少量含む。締まり強。粘性弱。

SK120

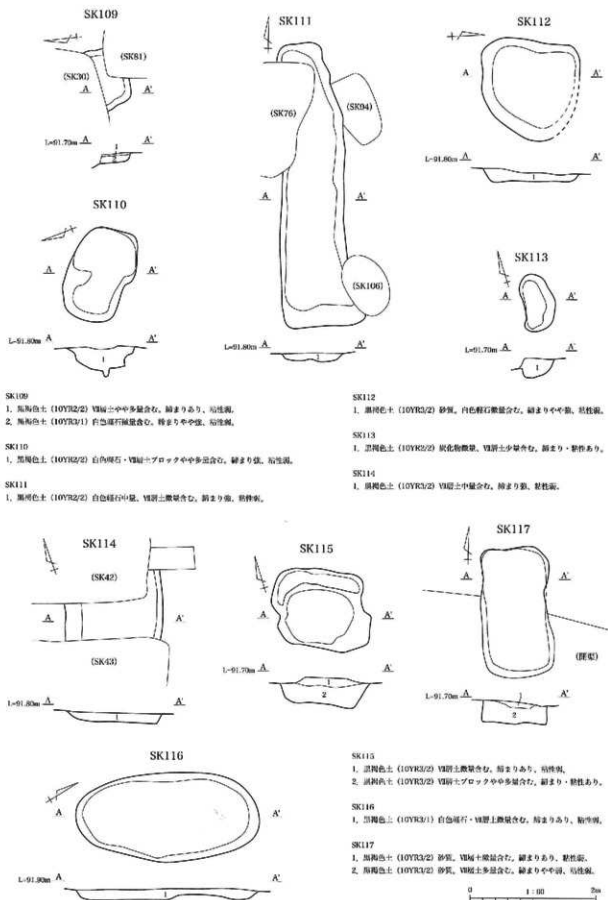
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりあり。粘性弱。

SK135

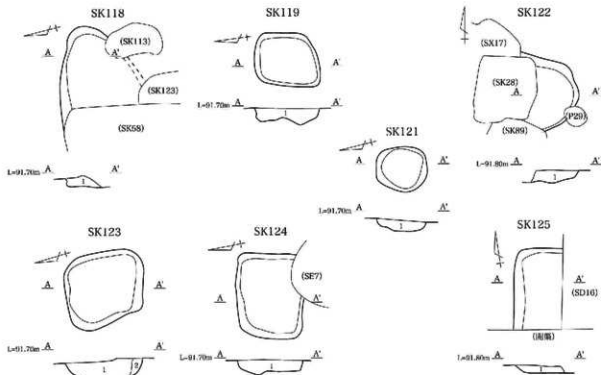
1. 黒褐色土 (10YR3/2) V層土ブロック状混入。締まり強。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) V層土ブロック状混入。締まり強。粘性弱。



第30図 SK99～103・105～108・120・135



第31図 SK109～117



SK118

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴輪土少量含む。跡まり強。粘性弱。

SK119

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土ブロックやや多量含む。跡まりあり。粘性弱。

SK121

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 埴輪土中量含む。跡まり・粘性あり。

SK122

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴輪土少量含む。跡まりやや強。粘性弱。

SK123

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴輪土ブロック多量含む。跡まりあり。粘性強。
2. 黒褐色土 (10YR4/1) 埴輪土少量含む。跡まりあり。粘性強。

SK124

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴輪土ブロックやや多量含む。跡まりやや強。粘性やや強。

SK125

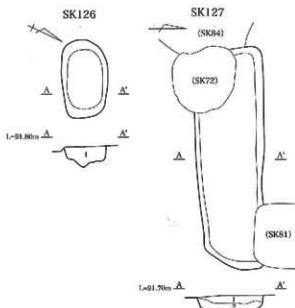
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色軽石・埴輪土やや多量含む。跡まり強。粘性弱。

SK126

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴輪土中量含む。跡まり強。粘性弱。

SK127

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質。埴輪土少量含む。跡まりやや強。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR4/1) 砂質。埴輪土多量。埴輪土少量含む。跡まりやや強。粘性弱。

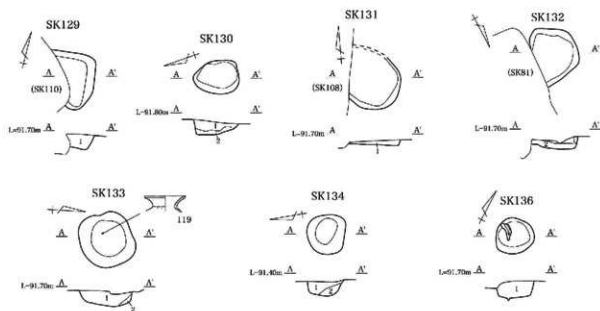


SK128

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色軽石中量含む。跡まり強。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 埴輪土ブロック多量含む。跡まりあり。粘性強。



第32図 SK118・119・121～128



SK129

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 珪土ブロックや多量含む。締まり強、粘性弱。

SK130 (56Aセクション内)

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土多量含む。締まりあり、粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土多量含む。締まりあり、粘性弱。

SK131

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 珪土中量含む。締まりあり、粘性弱。

SK132

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性やや弱。
2. 黒色土 (10YR2/1) 珪土ブロック多量含む。締まりあり、粘性弱。

SK133

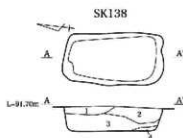
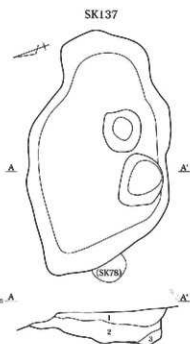
1. 暗褐色土 (10YR3/3) 白色礫石・珪土多量含む。締まりあり、粘性弱。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 珪土・珪土多量含む。締まりあり、粘性弱。

SK134

1. 黒色土 (10YR2/1) 珪土・珪土多量含む。珪土中量含む。締まりやや弱、粘性あり。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 珪土・珪土多量含む。珪土中量含む。締まりやや弱、粘性やや強。

SK136

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 珪土ブロック多量含む。締まりあり、粘性弱。



SK138

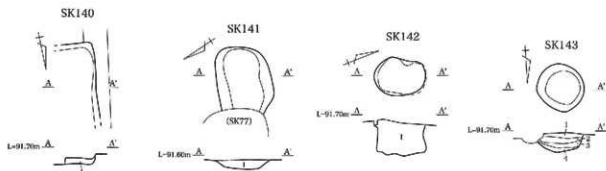
1. 暗褐色土 (10YR4/1) 白色礫石多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 珪土多量含む。締まり強、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 珪土・珪土中量含む。締まりやや弱、粘性やや強。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 珪土多量含む。締まり強、粘性弱。

SK139

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土・白色礫石少量含む。締まりあり、粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 焼土少量、珪土ブロック多量含む。締まりやや弱、粘性やや強。
3. 黒褐色土 (10YR2/1) 珪土・珪土少量含む。締まりあり、粘性やや弱。



第33図 SK129～134・136～139



SK140

1. 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅷ層土少量含む。締まり強、粘性弱。

SK141

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色硬石・Ⅷ層土少量含む。締まりあり、粘性弱。

SK142

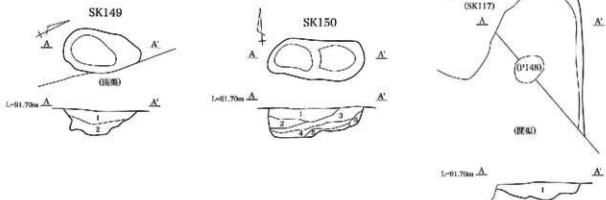
1. 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅷ層土少量含む。締まり強、粘性弱。

SK143

1. 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅷ層土ブロックやや多量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土・灰化層・Ⅷ層土混在含む。締まり強、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅷ層土多量含む。締まり強、粘性弱。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色硬石混在含む。締まり強、粘性弱。

SK144

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 白色硬石・Ⅷ層土ブロック少量含む。締まり強、粘性弱。



SK145

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色硬石・Ⅷ層土少量含む。締まり強、粘性弱。
2. 明灰褐色土 (10YR7/6) Ⅷ層土ブロック主部。黒褐色土少量含む。締まり強、粘性弱。

SK147

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土・灰化土・Ⅷ層土中量含む。締まりあり、粘性弱。

SK149

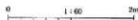
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色硬石・Ⅷ層土少量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅷ層土やや多量含む。締まりやや強、粘性弱。

SK150

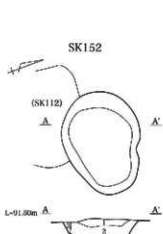
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色硬石・Ⅷ層土ブロック少量含む。締まり強、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土・灰化層・Ⅷ層土多量含む。締まり強、粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土・灰化層・Ⅷ層土混在含む。締まり強、粘性弱。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土・灰化層・Ⅷ層土多量含む。締まり強、粘性弱。
5. 灰色・黄褐色土 (10YR7/4) 黒褐色土少量含む。締まり強、粘性弱。
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色硬石・Ⅷ層土ブロック少量含む。締まり強、粘性弱。

SK151

1. 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅷ層土ブロック多量含む。締まり強、粘性弱。



第34図 SK140～145・147・149～151

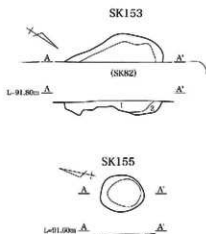


SK152

1. 黒色土 (10YR2/1) 砂質シルト。白色炭石少量含む。跡まじりやや強。粘性あり。Vc 粘土の読み込み。
2. 黒褐色土 (7.5YR3/1) 炭化物・白色炭石少量含む。跡まじりやや強。粘性やや強。
3. ばい土 (10YR4/5) Vc層上多量含む。跡まじりやや強。粘性弱。透れた地山か。

SK153

1. 黒褐色土 (10YR2/2) Vc層上少量含む。跡まじりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) Vc層上やや多量含む。跡まじりあり。粘性弱。

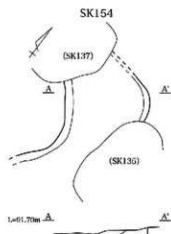


SK154

1. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上ブロック多量含む。跡まじり・粘性あり。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) Vc層上少量含む。跡まじり・粘性あり。

SK155

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土・炭化物少量、Vc層上多量含む。跡まじり強。粘性あり。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土・炭化物少量含む。跡まじり・粘性あり。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上ブロック多量含む。跡まじり強。粘性あり。



SK156

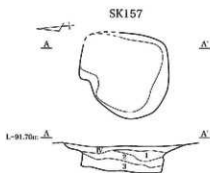
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土層。Vc層上ブロックやや多量含む。跡まじりやや強。粘性あり。

SK157

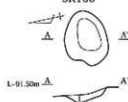
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。Vc層上少量含む。跡まじり強。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上ブロック多量含む。跡まじり強。粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上ブロック多量含む。跡まじりやや強。粘性弱。

SK158

1. 黒色土 (10YR2/1) Vc層上少量含む。跡まじりあり。粘性弱。



SK160



SK159

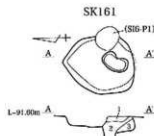
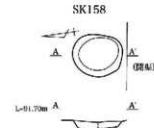
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。粘土少量。炭化物・Vc層上多量含む。跡まじりやや強。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土・炭化物・Vc層上少量含む。跡まじりやや強。粘性弱。

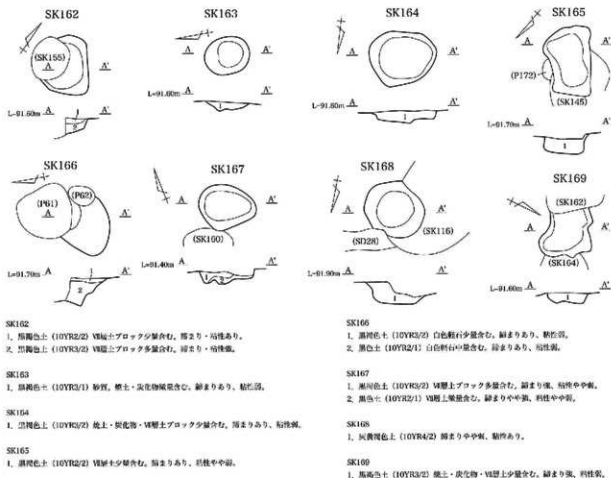
SK161

1. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上少量含む。跡まじりやや強。粘性やや強。

SK160

1. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上ブロック多量含む。跡まじりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) Vc層上ブロック多量含む。跡まじりあり。粘性弱。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土・炭化物・Vc層上少量含む。跡まじり・粘性あり。

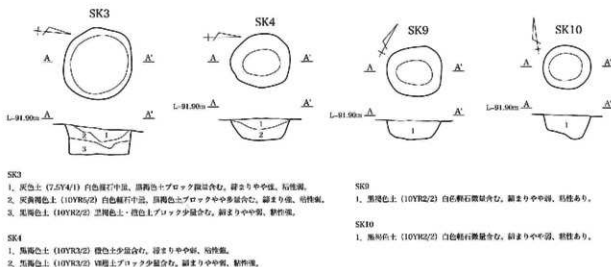




第36図 SK162～169

(3) C区 (第37図)

上坑は4基検出された。SK3・4はⅥa層上面の遺構、SK9・10はⅥc層上面で確認された遺構である。前者は中世以降の遺構と判断されるが、後者については遺物もなく、時期は不明である。



0 1:50 2m

第37図 SK3・4・9・10

第4節 井戸

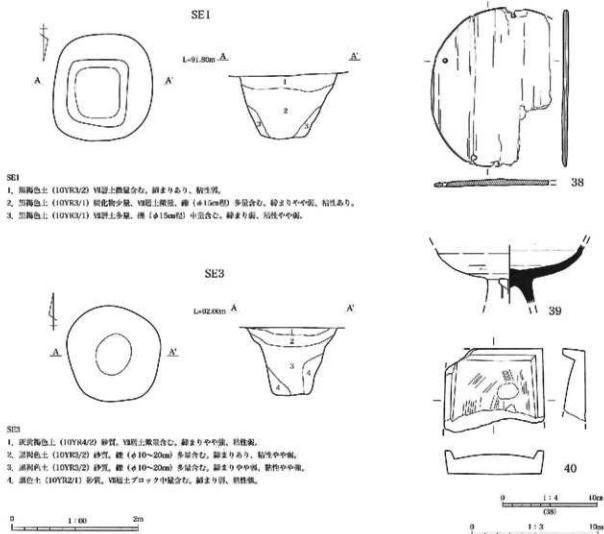
(1) A区第1面 (第38～40 図 PL.11・12・14・15)

A区第1面では、7基の井戸跡を検出した。遺構確認面としては、SE4・5がIV層上面、SE1・3・6がVIc層上面、SE9がVII層上面である。SE5は重複十坑の底面で確認されたため、第2面の遺構である可能性もある。SE7は第2面のVII層上面で確認されたが、覆土がAs-B混土であることから、第1面の遺構とした。

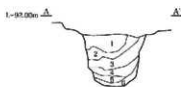
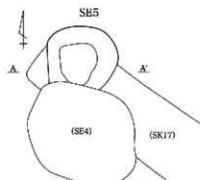
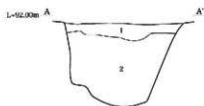
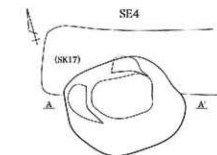
SE9は確認トレンチ内で検出され、判断は難しかったが、VIc層下VII層上面の遺構とした。しかし第VII章にもあるように、VIc層中位から掘り込まれた遺構の可能性もある。

SE1は本遺跡で唯一、平面隅丸方形を呈する井戸跡である。覆土上層に、礫がまとまって投棄されているのが特徴である。SD1との重複関係から、中世以降の井戸である。SE3は平面円形の井戸跡だが、覆土上層に礫が投棄されているところは、SE1と共通している。SE1・3は、C区のSE2と同様、近世まで下る可能性もある。SE7は第2面調査時に確認され、出土遺物も5世紀代のものがほとんどであった。しかし覆土がAs-B混土であることから中世以降の遺構と判断し、第1面の遺構とした。

出土遺物は、いずれも古墳時代のものが多く、確実に遺構の年代を示すものは少ない。SE5では、遺構底面から土師器の甕が1個体出土しており、IV層上面調査時に検出はしたが、遺構の年代としては5世紀代の可能性が高い。SE9は、遺構底面から土師器の甕が1個体出土しており、5世紀前半頃の遺構と考えられる。

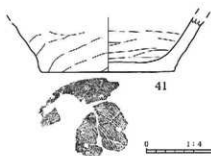
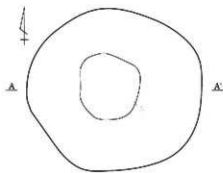


第38図 SE1・3、SE1・3出土遺物



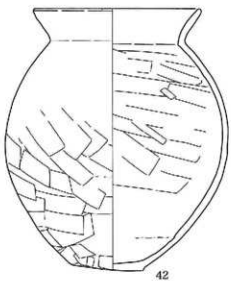
SE5

1. 黒褐色土 (10YR5/2) 白色軽石や多量、砂 (φ5cm程度) 散見含む。締まりあり、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR5/2) 砂質土ブロック中混含む。締まり・粘性あり。
3. 灰褐色土 (10YR6/2) 黒褐色土少量。砂質土ブロック中混含む。締まりあり、粘性やや弱。
4. 灰褐色土 (10YR6/2) 黒褐色土ブロック・砂質土少量含む。締まりやや弱、粘性あり。
5. にぶい黄褐色土 (10YR7/0) 砂質。締まり・粘性弱、粘性弱。
6. にぶい黄褐色土 (10YR7/0) 砂質。黒褐色土多量含む。締まり弱、粘性あり。

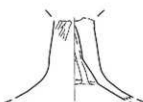


SE4

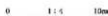
1. 黒褐色土 (10YR5/2) 白色軽石少量含む。締まり弱、粘性弱。
2. 黒褐色土 (10YR5/2) 砂質土・砂 (φ10cm程度) 散見含む。締まりやや弱、粘性弱。



42



43



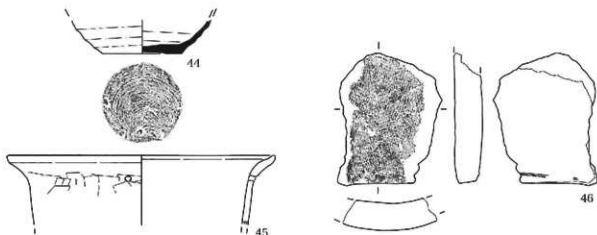
SE6



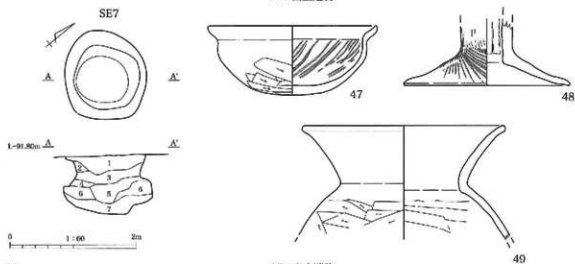
SE6

1. 黒褐色土 (7.5YR5/2) 白色軽石・砂質土少量含む。締まり弱、粘性あり。
2. 黒褐色土 (7.5YR5/2) 砂質。褐色土・砂質土多量含む。締まり・粘性弱。

第39図 SE4～6、SE4・5出土遺物

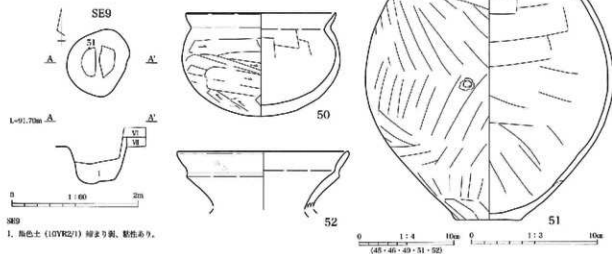


SE6 出土遺物



SE7 出土遺物

- SE7
1. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。緑まり強、黒色面。
 2. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。黒土ブロック中混含む。緑まり強、黒色面。
 3. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。緑まりやや弱、粉状面。
 4. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。黒土少量含む。緑まりやや弱、粉状面。
 5. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。緑まりあり、粉状面。
 6. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。砂・黒土中混含む。緑まりあり、粉状面。
 7. 黒褐色土 (10YR3/1) As-B底土。砂・黒土中混含む。緑まりあり、粉状面。

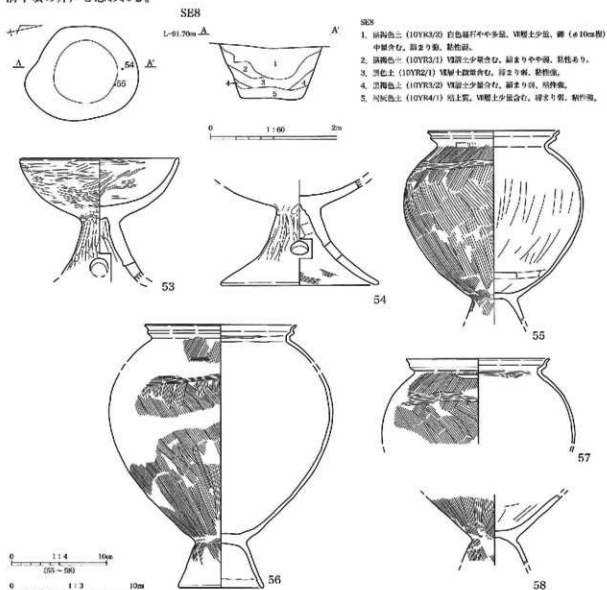


- SE9
1. 黒褐色土 (10YR2/1) 緑まり強、粉状面。

第40図 SE7・9、SE6・7・9 出土遺物

(2) A-2区第2面(第41図 PL.12・15)

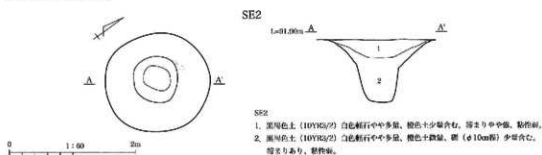
A-2区第2面では、VII層上面でSE8が検出された。遺構底面付近から53～58が出土しており、4世紀前半頃の井戸と思われる。



第41図 SE8、SE8出土遺物

(3) C区(第42図 PL.12)

C区では、VIa層上面でSE2が検出された。出土遺物も少ないため年代は不明だが、確認面から、中世以降の可能性が高い。



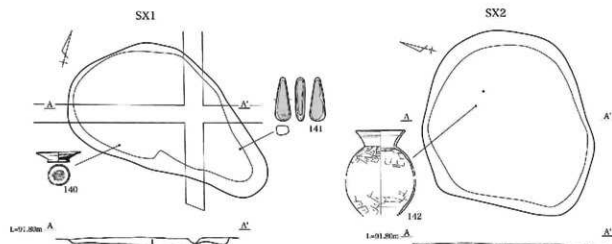
第42図 SE2

第5節 性格不明遺構

(1) A区第1面 (第43・44・55図 PL.18)

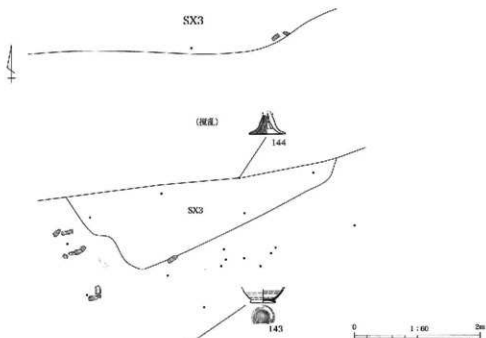
A区第1面で検出された性格不明遺構は7基で、全てVIc層上面で確認された。平面形は円形もしくは不整形形で、深度も浅いものが多い。SX1・2は浅い窪地状の遺構で、比較的遺物が多く出土したため、遺構と認定した。特にSX2では、土師器の壺が潰れたような状態で出土した。SX3は硬化面範囲で、平面形は方形ないしは長方形の可能性がある。硬化面範囲内及びその周辺から遺物や炭化物がまともて出土しており、一括してSX3の遺物として扱った。遺物の年代幅が広いため、大半は包含層(VIc層)の遺物の可能性がある。SX6～8は、覆土に焼土・炭化物・灰を多く含んでいる。遺構の性格は不明だが、出土遺物は9世紀代のものが多い。

出土遺物は土坑と同様に、遺構の年代を示すものとは言い難いため、第8節に掲載した。

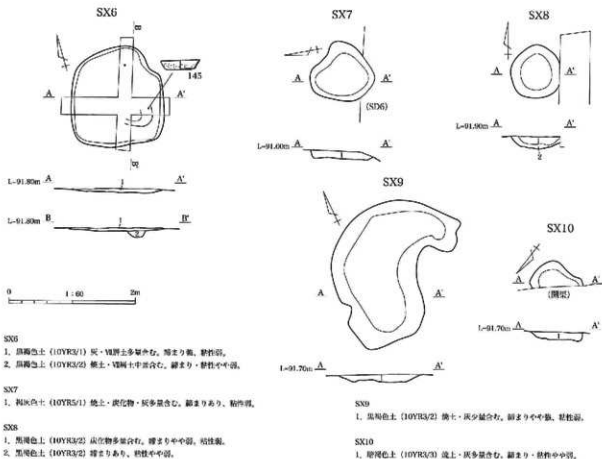


SX1
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。白・灰色軽石散在。跡まりやや強。黏土質。

SX2
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質。白・灰色軽石散在。跡まりやや強。黏土質。



第43図 SX1～3

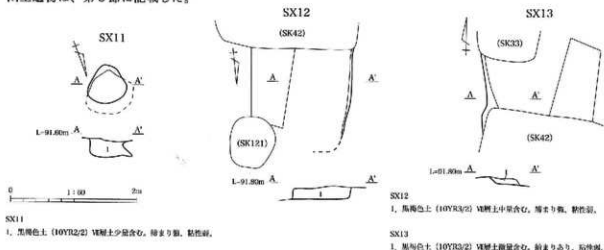


第44図 SX6～10

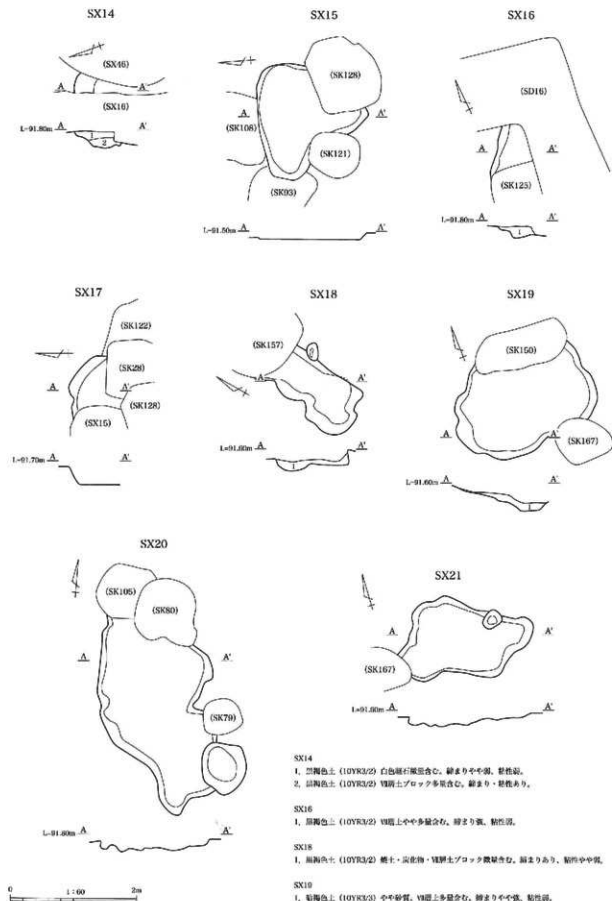
(2) A-2区第2面 (第45・46・56図 PL.18)

A-2区第2面では、11基の性格不明遺構を検出した。遺構として確認できたのは11基であるが、A-2区では不整形の小穴や凹凸が多く、それらを含めると無数の性格不明遺構があった可能性がある。遺構の性格としては、前述の土坑と同様、採土坑の可能性が高い。断面形状が、部分的ながらも袋状を呈するものがあることも、その根拠として挙げられる。

出土遺物は少なく、またあったとしても遺構の性格上、包含層 (IV層) 遺物との識別は難しい。そのため、出土遺物は、第8節に記載した。



第45図 SX11～13



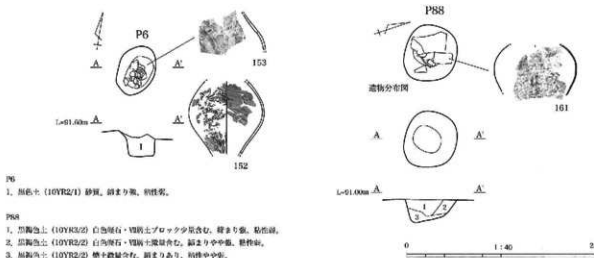
第46図 SX14～21

第6節 ビット (第47・48・56・57図 PL.12・18・19)

A-1区では16基のビットを検出した。A-2区では第1・2面合わせて236基のビットを検出し、その内172基については名称を付けて調査することができた。ここでは紙幅の都合もあり、特徴的なもののみ記述する。

A-1区で検出されたビットは、SI1、SX1・2の西側に集中しているが、掘立柱建物などは確認できなかった。

A-2区で検出されたビット群は237基で、その内29基が第1面の遺構として確認できた。P21・175・178・189～191は、SI8に伴う柱穴列と考えられる。それ以外では、多数のビットを検出したにもかかわらず、土坑等との重複が激しいこともあり、掘立柱建物や柱穴列を抽出することはできなかった。また全てのビットについて土層断面を観察することはできなかったが、柱痕を確認することができたビットは、8基のみであった。特徴的なビットとしては、P6とP88が挙げられる。P6は、底面に弥生土器の壺片が敷き詰められていた。P88は、底面に須恵窯の甕の胴部片が敷き詰められていた。各々の性格は不明であるが、単純な柱穴ではない可能性がある。出土遺物は、第8節に記載した。



第47図 P6・88

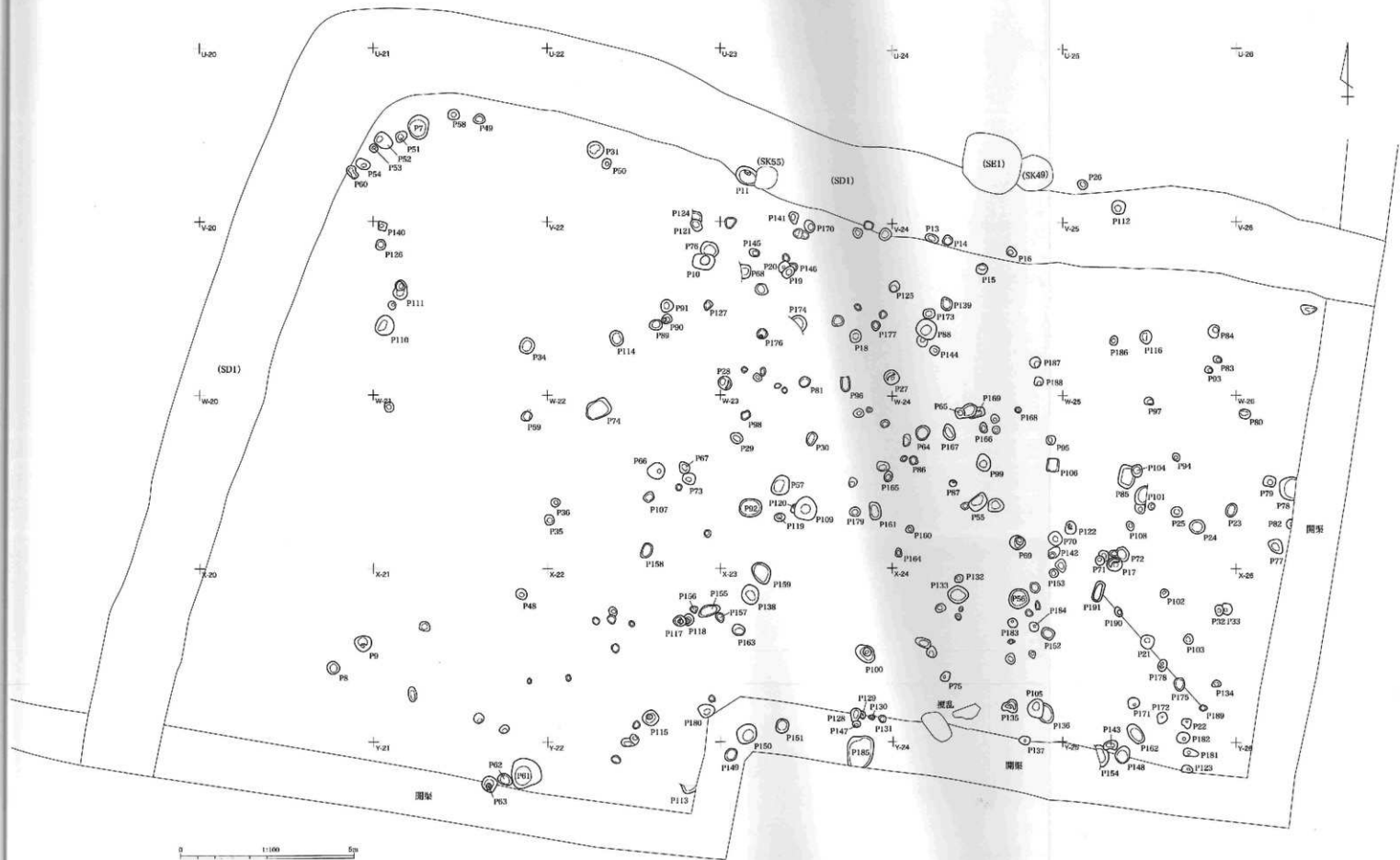
第7節 水田跡 (第49図)

本遺跡では、As-B下水田1面が検出された。水田は、洪水堆積層であるVIb層上面に築かれている。VIb層土は旧水田域にしか存在しておらず、耕作の影響も多分に受けているものと考えられる。VIb層土が部分的にしか堆積していないことは、水田構築前の旧地形に関係するものと推測される。また今回の調査範囲では、旧水田であったと思われる場所のみにAs-Bが堆積しており、それ以外ではAs-Bは検出されなかった。

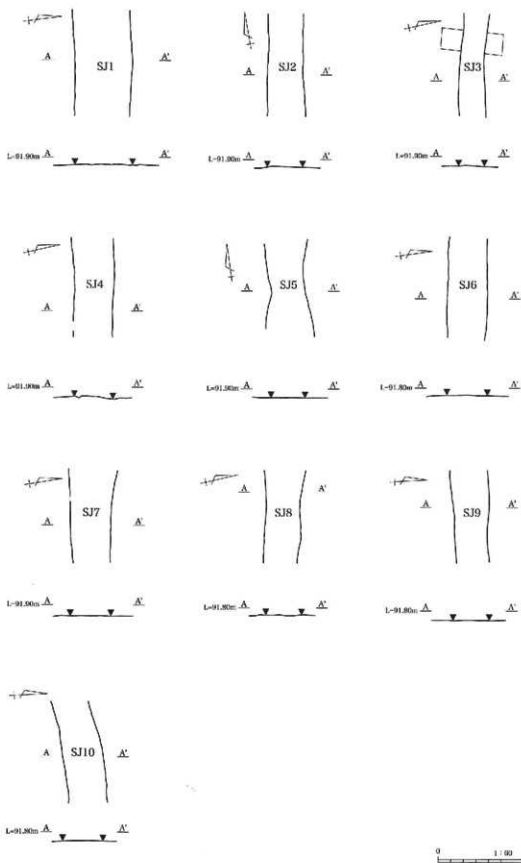
B区では畦畔約4本、C区では約6本検出され、A区では畦畔を確認することができなかった。畦畔はいずれも低く不明瞭で、大畦畔も確認されなかった。水田面では、足跡や耕作具痕などもほとんど確認されなかったことから、As-B降下直前は水田としての機能は停止していた可能性が高い。

第8節 その他の遺物 (第50～59図 PL.19・20)

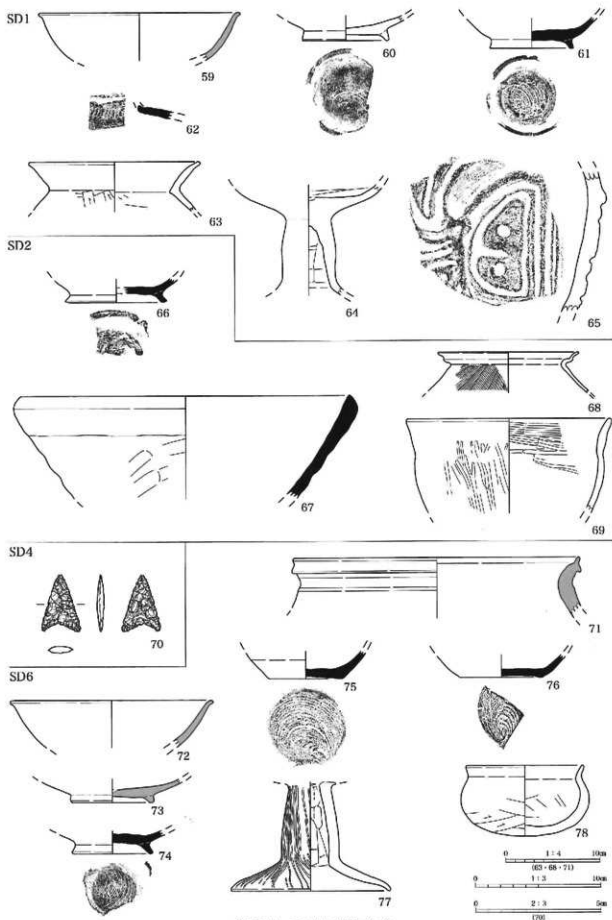
高岡高根遺跡で出土した遺物の多くは、IV～VI層出土遺物である。それ以外では、SD1・2・6や土坑群から多くの遺物が出土している。出土遺物は古墳時代のものが大半で、他には縄文・弥生・奈良・平安時代のものが少量みられ、中・近世の遺物はごく僅かであった。



第48図 A-2区第2面 ピット全体図



第49圖 SJ1 ~ 10

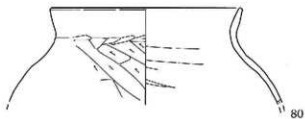


第 50 図 その他の遺物 (1)

SD9



79



80

SD17



81

SD18



82

SD23



83

SD28

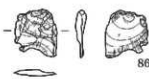


84

SK6

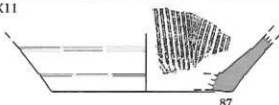


85



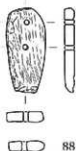
86

SK11



87

SK15



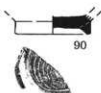
88

SK16



89

SK19



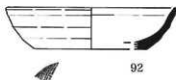
90

SK22



91

SK27



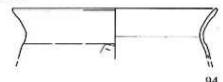
92

SK33



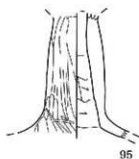
93

SK34



94

SK40



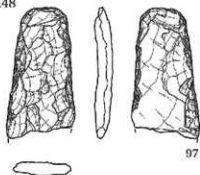
95

SK46



96

SK48

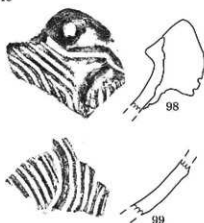


97

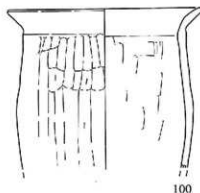


第51図 その他の遺物(2)

SK49



SK55



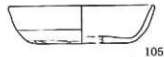
SK59



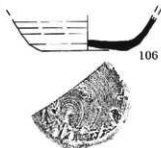
SK60



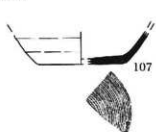
SK69



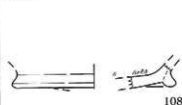
SK71



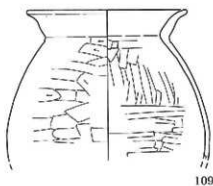
SK76



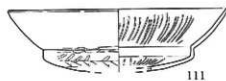
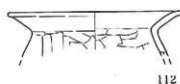
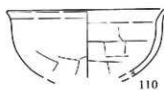
SK81



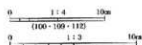
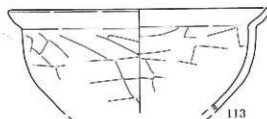
SK82



SK84

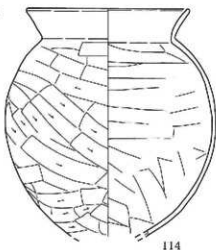


SK88



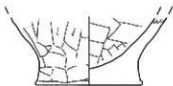
第52図 その他の遺物(3)

SK101



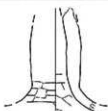
114

SK103



116

SK117

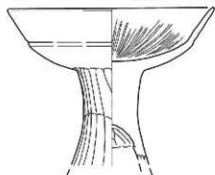


117

SK137



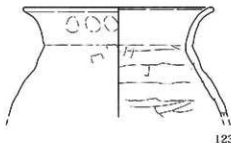
120



121

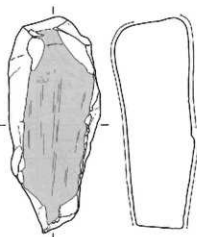


122



123

SK102



115

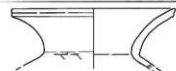


SK130



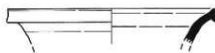
118

SK133

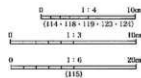


119

SK138

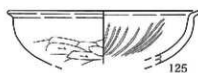


124



第 53 図 その他の遺物 (4)

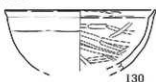
SK141



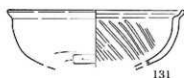
SK145



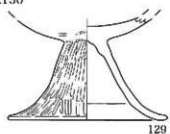
SK151



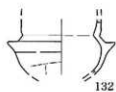
SK156



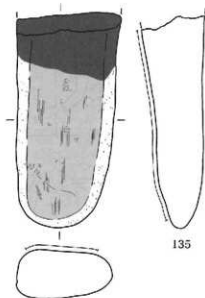
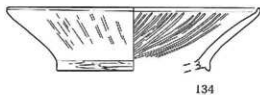
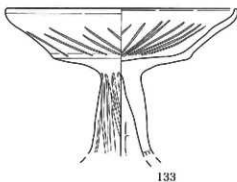
SK150



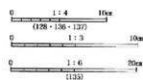
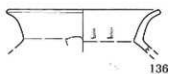
SK153



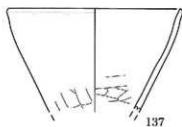
SK157



SK160

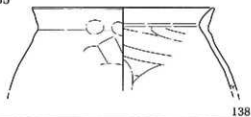


SK161

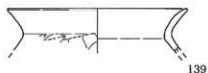


第54図 その他の遺物(5)

SK165

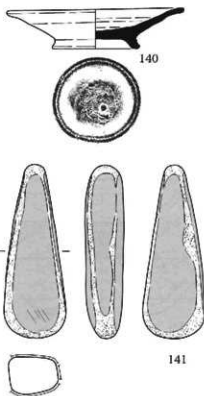


138



139

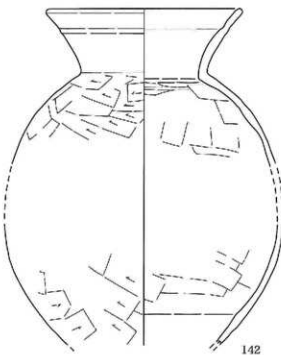
SX1



140

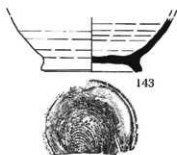
141

SX2

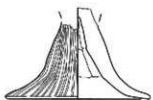


142

SX3



143



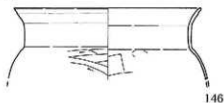
144

SX6



145

SX7

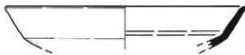


146

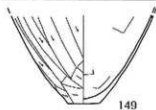
SX9



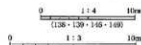
147



148

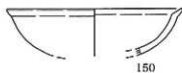


149

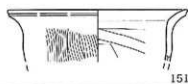


第 55 図 その他の遺物 (6)

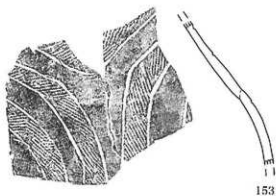
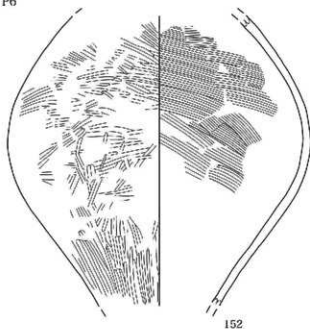
SX18



SX19



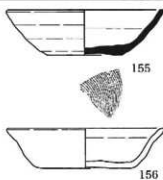
P6



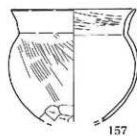
P9



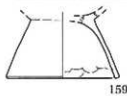
P16



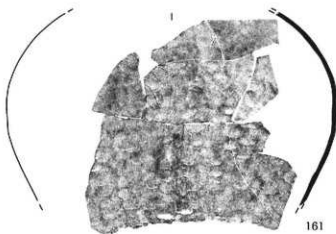
P37



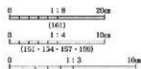
P38



P88



P76



第56図 その他の遺物 (7)

P92



162

P100



163

P109



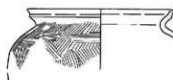
164

IV層



166

P158



165



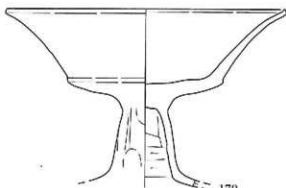
167



168



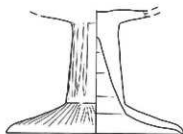
169



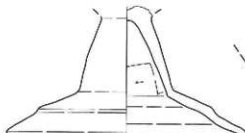
170



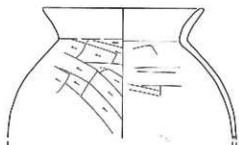
171



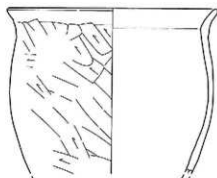
172



174



175



176

0 1:3 10cm

0 2:3 5cm
(1662)

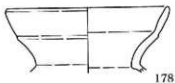
0 1:4 10cm
(175・176)

第57図 その他の遺物(8)

IV層



177



178



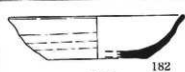
179



180



181



182



183



VI層 (A区)



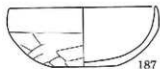
184



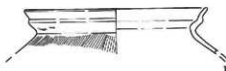
185



186



187



188



189



190



191



192



193



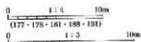
194



195

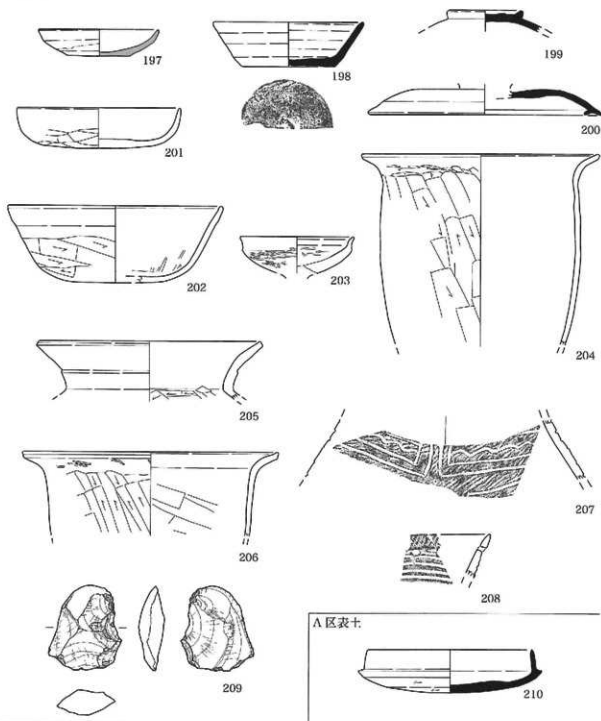


196



第58図 その他の遺物(9)

IV層 (C区)

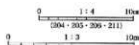


A区表土

A区概観



第59図 その他の遺物 (10)



第3表 堅穴住跡観察表

No.	グリッド	検出面	平面形状	断面形状	規模 (m)			重層関係・備考
					長	短	深さ	
1	O25・26, P25・26	Vic側	方形	竪状	4.77	4.65	0.50	
2	Q25・26, R25・26	Vic側	方形	竪状	4.65	(3.81)	0.15	
3	A4・5, B4・5	Vic側	方形	竪状	4.62	(3.01)	0.18	
4	S24・25	Vic側	方形	竪状	5.97	(5.13)	0.16	SK0より古。
5	W22, X22・23, Y22	Vic側	方形	不明	5.28	(2.85)	0.06	SK6, SK74・114より新。SK8と同一遺構か。
6	W22・23, X22・23, Y22	Vic側	方形	不明	5.37	(4.77)	0.06	SK5より古。SK5と同一遺構か。SK83・08・114より古。SK19・156・161より新。
7	X23・24	Vic側	方形に近い方形	不明	4.86	(3.27)	0.12	P73・100より古。SK95・158・160・167。SK19・21より新。
8	X24・25	Vic側	方形	不明	4.44	3.78	0.12	SK138・145, P135より古。P137と並列。
9	Y23・24, W23・24	Vic側	方形	不明	4.38	4.14		SK101・106・111・128, P88・144より古。P125・174より新。

第4表 溝状遺構観察表

No.	グリッド	検出面	断面形状	主軸方位	規模 (m)			重層関係・備考
					長さ	幅	深さ	
1	T20~22, U20~26, V19~20, W19~20, X19~20, Y19	IV側	総台形	N-77°W, N-18°E	53.20	2.51	0.99	SK2, SK1より古。SK5・44・40・52・55, P11・13・14・16より新。
2	T19~20, U19, V18~10, W18~19, X18	Vic側	竪状	N-19°E	23.50	2.45	0.45	SD18, SK66より新。SD6・19と同時存在か。
3	N22・23, O21・22, P21・22	Vic側	竪状	N-30°E	12.30	0.55	0.05	SD4・5と111同時存在か。
4	N24・26, O22~25, P21・22	Vic側	竪状	N-71°E	22.00	0.58	0.22	P2・5・6より古。SD3・5と同時存在か。
5	O22・23	Vic側	竪状	N-84°E, N-19°E	7.20	0.70	0.12	SD3・4と同時存在か。
6	S20~22, T20~26, U24~27	Vic側	逆台形	N-76°W, N-31°E	38.80	2.97	0.87	SK7より新。SD2・19と同時存在か。
7	E5・6, F5, G4・5, H-14	Vic側	竪状	N-28°E	19.40	0.85	0.00	
8	K-14	Vic側	竪状	N-4°W	4.71	0.72	0.08	
9	H7・8, C6~8, D6	Vic側	竪状	N-43°E	15.60	0.89	0.16	一部傾いた溝が平行・重複する。
10	E3・6	Vic側	竪状	N-33°E	2.27	0.36	0.06	
11	D-16	Vic側	竪状	N-3°E	3.33	0.65	0.06	
12	E2	Vic側	竪状	N-38°E	3.62	0.89	0.32	SK5より古。
13	U18, V15・16・18, W16~18	Vic側	竪状	N-50°W, N-17°E	27.40	1.00	0.03	SD14と重複。
14	T18, U17・18, V17	Vic側	竪状	N-52°E	9.10	0.63	0.03	SD13, SK63と重複。
15	U17, V16・17	Vic側	竪状	N-50°E	5.30	0.44	0.03	
16	X21・22, Y22	IV側	竪状	N-75°W, N-7°E	7.50	1.08	0.10	SK43より新。
17	V25・26, W26	Vic側	竪状	N-76°W	3.65	0.88	0.11	SK34より古。SK36・39より新。
18	J・V18	Vic側	竪状	N-4°W	3.70	0.69	0.09	SD2より古。
19	S19・20, T19・20	Vic側	半円状	N-21°E	5.18	1.12	0.17	SD23と同一。SD2・6と同時存在か。
20	S・T19	Vic側	竪状	N-33°E	3.00	0.74	0.10	SD21と重複。
21	S19, T18・19	Vic側	竪状	N-37°E	7.55	0.25	0.08	SD20と重複。
22	R20, S19・20	Vic側	竪状	N-33°E	5.50	0.79	0.07	
23	Q21, R20・21, S20	Vic側	竪状	N-25°E	2.57	0.75	0.03	SD19と同一。
24	W25・26	Vic側	竪状	N-82°W	1.95	0.49	0.18	SK41より古。
25						欠番		
26	X・Y21	Vic側	竪状	N-20°E	2.72	0.75	0.19	SK00より古。
27	W24・25	Vic側	竪状	N-89°E	5.05	0.43	0.06	SK84, P09・70・122より古。
28	W20・21	Vic側	竪状	N-73°E	3.54	0.35	0.19	SK116より古。SK168より新。

第5表 土坑観察表 (1)

No.	グリッド	検出面	平面形状	断面形状	規模 (m)			重層関係・備考
					長さ	短	深さ	
1	O26	Vic側	円形	U字状	0.86	0.83	0.39	
2	V25	IV側	円形	竪状	0.77	0.74	0.28	SD1より新。
3	E3・4	Vic側	円形	竪状	1.14	1.07	0.44	
4	H2	Vic側	楕円形	半円状	0.94	0.85	0.35	
5	U21	IV側	楕円状方形	竪状	2.16	(1.10)	0.26	SD1より古。
6	U・V21	IV側	長方形	竪状	3.24	1.11	0.30	
7	V・W20	Vic側	不規則方形	竪状	3.70	1.35	0.12	
8	V・W21	IV側	楕円状方形	竪状	2.85	1.09	0.23	
9	B4	Vic側	円形	半円状	0.86	0.70	0.31	
10	A4	Vic側	円形	竪状	0.76	0.69	0.37	
11	V21・22	IV側	楕円状方形	竪状	1.41	1.33	0.53	SK21・46・53・61より新。

第6表 土坑観察表(2)

No.	グラウンド	掘出曲	平面形状	断面形状	幅員 (m)			底面関係・備考
					長軸	短軸	厚さ	
12	X19・20	Vic堀	長方形	竪状	1.56	1.14	0.46	SK20より新。
13	W22	IV溝	長方形	竪状	2.62	1.22	0.31	
14	U20・21, V20・21	Vic堀	長方形	竪状	1.64	1.12	0.34	SK15より新。
15	V20	Vic堀	不整長方形	竪状	(2.78)	1.21	0.30	SK14より古。
16	X22・23	IV溝	不整長方形	竪状	(3.44)	1.22	0.30	
17	W・X21	IV溝	長方形	竪状	4.54	1.09	0.21	SK57, SP4・5より新。
18	W21・22	IV溝	長方形	竪状	3.15	0.75	0.27	
19	W22・23	IV溝	前円形	半円状	1.10	0.73	0.41	
20	X10・20, Y19・20	Vic堀	方形ないし長方形	竪状	(1.72)	1.11	0.33	SK12より古。ただしSK1とは同一遺物の可能性あり。
21	U22, V21・22	IV溝	長方形	竪状	5.16	0.70	0.25	
22	X22	IV溝	長方形	竪状	1.54	1.03	0.18	SK11・33より古。SK46・61より新。
23	W23	IV溝	長方形	竪状	1.09	0.82	0.18	
24	W23	IV溝	不整長方形	竪状	0.98	0.88	0.16	
25	V24	IV溝	長方形	竪状	1.62	0.88	0.16	
26	W23	IV溝	隅丸長方形	竪状	1.72	1.09	0.36	
27	X25・26	Vic堀	長方形	竪状	2.14	1.14	0.28	
28	W22	IV溝	方形	竪状	1.05	0.98	0.42	
29	W24	IV溝	前円形	竪状	0.02	0.63	0.27	
30	V24・25	IV溝	隅丸長方形	竪状	2.79	1.33	0.39	
31	V・W25	Vic堀	長方形	竪状	1.72	(1.11)	0.51	SK32と関連。
32	V・W25	Vic堀	隅丸長方形	竪状	(0.67)	0.66	0.39	SK31と関連。
33	V・W22	IV溝	長方形	竪状	4.72	1.06	0.35	SK21より新。
34	V25・26	Vic堀	円形	竪状	0.83	0.75	0.33	SD17より新。
35	X24	IV溝	長方形	竪状	2.46	1.03	0.30	
36	X23・24	IV溝	長方形	竪状	1.69	0.80	0.46	
37	X25	Vic堀	隅丸長方形	竪状	0.93	0.68	0.23	
38	V22・23	IV溝	方形	竪状	1.22	1.08	0.46	P10より古。
39	W24・25	IV溝	長方形	竪状	1.39	1.10	0.45	
40	W24	IV溝	隅丸長方形	方形状	1.50	1.18	0.60	SK60・68より新。
41	W・X25	Vic堀	隅丸長方形	竪状	2.02	0.67	0.40	P24より古。SD24より新。
42	W22	IV溝	長方形	竪状	2.34	2.00	0.30	
43	W21・22, X21・22	IV溝	長方形	竪状	(1.86)	1.25	0.13	SD16より古。
44	U・V24	V溝	長方形	竪状	0.92	(0.74)	0.69	SD1より古。
45								欠番
46	U21・22, V21・22	IV溝	前円形	竪状	(2.80)	(2.07)	0.41	SK11・21・61より古。SK53より新。
47	X・Y25	IV溝	円形	半円状	0.77	0.72	0.22	
48	U24・25	Vic堀	不整円形	竪状	1.11	1.01	0.17	P26より古。
49	U24	Vic堀	円形	竪状	(1.02)	1.03	0.23	SD1, SE1より古。
50	U24	Vic堀	円形	竪状	0.95	0.94	0.20	
51	V23	IV溝	前円形	竪状	1.26	0.93	0.20	
52	U22	IV溝	長方形	竪状	2.14	(0.97)	0.33	SD1, P31より古。
53	V21	IV溝	長方形	竪状	1.92	0.97	0.28	SK11・46より古。SK67より新。
54	W・X25	IV溝	不整長方形	竪状	1.35	1.21	0.35	
55	U23	IV溝	不整円形	半円状	0.77	0.64	0.49	SD1より古。P11より新。
56	V26	Vic堀	長方形	竪状	1.31	0.68	0.23	SD17, SK59より古。
57	W21	IV溝	長方形	竪状	1.39	1.18	0.37	SK17より古。
58	U・V22	IV溝	長方形	竪状	2.43	1.57	0.32	
59	V25・26, W26	Vic堀	長方形	竪状	2.56	1.04	0.38	SD17より古。SK36より新。
60	W24	IV溝	長方形	台形状	1.02	0.92	0.54	SK40より古。SK68より新。
61	U・V22	IV溝	長方形	竪状	2.68	1.08	0.41	SK11・21・46より古。SK46より新。
62	X25・26	Vic堀	長方形	竪状	1.01	0.87	0.25	
63	U18	Vic堀	円形	U字状	0.94	0.84	0.54	SD14と関連。
64	W23	IV溝	不整長方形	竪状	1.55	1.10	0.26	
65	X24	IV溝	円形	竪状	0.56	0.56	0.17	
66	W18	Vic堀	円形	逆台形状	0.76	0.72	0.50	SD2より古。
67	V21	IV溝	不整長方形	竪状	(1.10)	1.03	0.21	SK53より古。
68	W23・24	IV溝	不整長方形	竪状	(1.95)	1.08	0.38	SK40・60より古。
69	Q24	Vic堀	不整円形	竪状	0.74	0.71	0.12	
70	P22・23	Vic堀	円形	竪状	0.81	0.76	0.10	
71	O・P23	Vic堀	円形ないしは前円形	竪状	1.18	(0.74)	0.25	
72	W24	V溝	不整円形	逆台形状	1.03	0.98	0.32	SK84・127より新。
73	X21	V溝	円形	竪状	0.80	0.63	0.15	
74	Y22	V溝	隅丸長方形	竪状	(0.89)	(0.50)	0.11	SE5より古。SK75より新。SK125と同一遺物か。
75	Y22	V溝	不整円形	竪状	0.94	0.77	0.12	SK74より古。
76	V23	V溝	不整長方形	竪状	1.85	1.01	0.23	SK111より古。
77	V・W25	Vic堀	前円形	竪状	1.18	(0.91)	0.33	SK134・141より新。
78	V21	V溝	不整円形	U字状	0.54	0.46	0.45	SK137より新。
79	W21	V溝	隅丸長方形	竪状	0.61	0.56	0.20	SK20より新。

第7表 土坑調査表(3)

No	グリッド	検出面	平面形状	断面形状	収収 (m)			重傷関係・備考
					長軸	短軸	高さ	
80	W21	崖面	不整形	段状	1.03	1.03	0.43	SK106, SX20より新。
81	V-W24	崖面	長方形	階段	2.83	1.03	0.33	SK100・127・132より新。
82	V-W24	崖面	長方形	階段	4.54	1.23	0.15	SK91・130より古。SK193より新。
83	X22・23	崖面	不整形長方形	階段	(1.40)	1.03	0.32	SK106, P163より新。
84	W24	崖面	楕円形	階段	(2.93)	1.30	0.23	SK72より古。SD27, SK95・127, P53・99より新。
85	W24	崖面	楕円形	階段	0.58	0.50	0.32	SK94より古。
86					欠番			
87	V21	崖面	不整形	段状	0.61	0.47	0.18	SK88・102より新。
88	V21	崖面	不整形円形	逆台形状	1.43	1.16	0.36	SK87より古。
89	W22・23	崖面	方形	階段	1.04	(0.93)	0.21	SK122, P67より新。
90	X21	崖面	楕円形	U字状	1.25	0.84	0.64	SD26, SK103より新。
91	V24	崖面	楕円長方形	階段	0.97	0.60	0.20	SK82, P187・188より新。
92	V-W21	崖面	不整形	段状	1.02	0.72	0.29	
93	V-W22	崖面	楕円形	階段	1.21	0.87	0.27	SK15, P74より新。
94	V23	崖面	楕円形	階段	1.09	0.70	0.25	SK111より新。
95	W21・22	崖面	不整形円形	段状	0.91	0.88	0.23	
96	X23	崖面	長方形	階段	0.95	0.68	0.15	SK7より古。
97	V22・23	崖面	楕円長方形	階段	1.30	(0.50)	0.22	P68・76より新。
98	W-X23	崖面	楕円長方形	階段	1.35	0.84	0.18	SK10・P138・150より新。
99	W21・22	崖面	不整形	段状	1.06	0.94	0.38	
100	U22	崖面	不明	不明	(0.60)	(0.45)	0.19	
101	V-W24	崖面	不整形円形	階段	1.66	1.12	0.31	SK9より古。SK9の背掘穴含む。
102	V21	崖面	不整形	階段	2.11	1.23	0.36	SK87より古。
103	X21	崖面	楕円形	階段	(1.50)	0.93	0.09	SK90より古。
104					欠番			
105	W21	崖面	不整形円形	段状	0.87	(0.78)	0.26	SK80より古。SK20より新。
106	V23・24	崖面	楕円形	階段	1.01	0.65	0.27	SK9, SK111より新。
107	W22	崖面	円形	階段	0.77	0.66	0.09	
108	V22	崖面	楕円長方形	階段	3.57	1.10	0.20	SK131・135, SK15, P80・91より新。
109	V25	崖面	方形	階段	0.99	(0.46)	0.14	SK81より古。
110	V-W21	崖面	不整形円形	段状	1.50	1.02	0.48	P59より古。SK129より新。
111	U-V23	崖面	不整形長方形	階段	4.50	1.06	0.13	SK70・94・106より古。SK10, P06より新。
112	V20	崖面	不整形円形	階段	1.59	1.53	0.22	SK152より古。
113	U22・23	崖面	楕円形	階段	0.91	(0.50)	0.31	SK118より新。
114	W-X22	崖面	方形ないし長方形	階段	1.55	(1.10)	0.16	SK5より古。SK6より新。
115	V21	崖面	不整形	逆台形状	1.46	1.25	0.46	
116	W20	崖面	楕円形	階段	2.90	1.42	0.18	SK168, SD28より新。
117	W24・25, Y24・25	崖面	長方形	階段	(2.06)	(1.13)	0.35	SK151, P154より新。
118	U22・23	崖面	楕円形	階段	(1.62)	(1.40)	0.16	SK113・123より古。
119	X23	崖面	不整形長方形	階段	1.03	0.85	0.25	
120	V22	崖面	楕円形	階段	1.64	(0.64)	0.13	
121	W22	崖面	不整形円形	段状	0.81	0.72	0.17	SK15より新。
122	W22・23	崖面	不明	階段	(1.31)	1.02	0.21	SK89, SK17より古。
123	U-V22	崖面	楕円長方形	階段	1.25	1.18	0.34	SK118, P121・124より新。
124	V23	崖面	長方形	階段	1.35	1.07	0.24	P174より古。
125	Y22	崖面	方形	階段	(1.29)	(0.72)	0.12	SK16より古。SK74と同・近所か。
126	V-W23	崖面	楕円形	階段	1.23	0.74	0.32	SK9より古。
127	W24・25	崖面	長方形	階段	3.32	1.09	0.24	SK72・81・84より古。P106より新。
128	W22	崖面	不整形円形	階段	1.26	1.06	0.35	SK15・17より新。
129	V-W21	崖面	方形	階段	0.88	(0.62)	0.23	SK110, P69より古。
130	X22	崖面	楕円形	階段	0.72	0.54	0.23	SK162より古。
131	V22	崖面	円形	階段	(1.05)	(0.88)	0.09	SK108より古。SK144より新。
132	W24・25	崖面	不整形	階段	0.86	(0.68)	0.20	SK81より古。
133	W22	崖面	楕円長方形	階段	0.96	0.86	0.23	
134	W25	崖面	円形	階段	0.61	0.50	0.22	SK77より古。
135	V22	崖面	不整形楕円形	階段	1.63	(1.09)	0.27	SK108より古。SK154, P114より新。
136	V24	崖面	円形	階段	0.61	0.57	0.26	SK82より古。
137	V21・22	崖面	不整形	段状	3.93	2.30	0.57	SK154, SK14より古。SK78より古。
138	X25	崖面	楕円長方形	階段	1.59	0.82	0.39	SK8より古。
139	W25	崖面	楕円形	階段	0.57	0.43	0.40	
140	V22	崖面	方形	階段	(1.20)	(0.46)	0.17	
141	W25・26	崖面	楕円形	階段	1.03	0.89	0.15	SK77より古。
142	V21・22, W21・22	崖面	楕円形	階段	0.82	0.60	0.55	
143	W22・23	崖面	円形	階段	0.75	0.70	0.30	
144	V22・23	崖面	楕円形	階段	1.35	0.90	0.21	SK131より古。
145	X25	崖面	楕円形	階段	1.13	0.88	0.19	SK8, SK165, P171・172より新。
146					欠番			
147	X24・25	崖面	不整形楕円形	階段	0.97	0.63	0.19	
148					欠番			
149	Y22	崖面	楕円形	階段	1.23	0.68	0.30	SK6より古。P113より新。

第8表 上坑観察表(4)

No	グリッド	検出部	平面形状	断面形状	尺規 (m)			産産関係・備考
					長軸	短軸	厚さ	
150	W・X23	VE層	不規則円形	階段状	1.62	0.63	0.47	SK10より新。
151	X・Y25	VE層	方形	階段状	(2.62)	(1.33)	0.28	SK117より古。SK165、P143・148・154・162より新。
152	V20	VE層	不規則円形	階段状	1.61	1.24	0.27	SK12より古。
153	V24	VE層	円形	階段状	(1.60)	(0.45)	0.22	SK18より古。
154	V22	VE層	不規則円形	階段状	(2.26)	1.31	0.21	SK135・137より古。
155	X22	VE層	円形	U字状	0.68	0.58	0.34	SK162より新。
156	X22	VE層	不規則形	階段状	0.86	0.76	0.20	SK150より古。
157	W・X23	VE層	不規則形	階段状	1.44	1.34	0.35	SK118より新。
158	X23	VE層	不規則円形	階段状	0.79	0.67	0.13	SK17より古。
159	X22	VE層	円形	階段状	0.90	0.77	0.27	SK156より新。
160	X23	VE層	不規則円形	階段状	0.88	0.67	0.12	SK17、P100より古。SK167より新。
161	X22	VE層	不規則円形	階段状	1.20	0.96	0.42	SK10より古。
162	X22	VE層	円形	半円状	0.98	(0.77)	0.25	SK160より新。SK150・156より古。
163	X22・X23	VE層	円形	不規則	0.72	0.50	0.14	
164	X22・X23	VE層	円形	階段状	1.06	0.89	0.19	SK109より新。
165	X25	VE層	不規則方形	階段状	1.10	0.73	0.30	SK145・151より古。P172より新。
166	Y21	VE層	円形	逆台形状	(0.84)	(0.66)	0.44	P61・62より古。
167	X23	VE層	不規則円形	階段状	0.92	0.73	0.22	SK1、SK160より古。SK19より新。
168	W20	VE層	円形	階段状	0.98	(0.87)	0.34	SK162・164より古。P180より新。
169	X22	VE層	不規則形	階段状	0.96	0.75	0.16	

第9表 井戸観察表

No	グリッド	検出部	平面形状	断面形状	尺規 (m)			産産関係・備考
					長軸	短軸	厚さ	
1	U24	VE層	真円形	逆台形	1.68	1.56	1.00	SD1、SK49より新。
2	G・I13	VE層	円形	逆台状	1.68	1.56	0.98	
3	W19	VE層	円形	逆台状	1.52	1.48	1.08	
4	W・X21	IV層	真円形	階段状	1.90	1.51	1.45	SK17より古。SE5より新。
5	W21	IV層	真円形	U字状	1.13	(0.93)	(0.83)	SK17、SB4より古。
6	Q・R25	VE層	円形	逆台形	2.74	2.56	1.02	
7	V23	VE層	円形	階段状	1.42	1.29	0.94	SK51より新。
8	U21	VE層	真円形	階段状	1.79	1.51	0.79	
9	P22・23、Q22・23	VE層	円形	U字状	1.05	0.94	0.76	

第10表 堅穴状遺構・性格不明遺構観察表

No	グリッド	検出部	平面形状	断面形状	尺規 (m)			産産関係・備考
					長軸	短軸	厚さ	
1	P24・25	VE層	不規則円形	階段状	3.44	1.96	0.13	
2	O24・25、P24・25	VE層	不規則円形	階段状	3.16	2.38	0.16	
3	O25	VE層	不明	—	—	—	—	続化点確認
4	H3、I3・4	VE層	長方形	階段状	4.36	2.46	0.14	
5	J2	VE層	方形	階段状	2.14	(1.80)	0.14	SD12より新。
6	U19・20	VE層	不規則形	階段状	1.59	1.44	0.15	
7	T25	VE層	不規則形	階段状	1.03	0.96	0.12	SK6より古。
8	W26	VE層	円形	階段状	0.84	(0.78)	0.19	
9	S24	VE層	不規則形	階段状	2.39	1.34	0.12	SK4より新。
10	O23	VE層	不規則形	階段状	0.85	(0.41)	0.13	
11	V21	VE層	真円三内形	階段状	0.64	0.62	0.30	
12	W22	VE層	方形ないし長方形	階段状	(1.62)	(0.90)	0.22	SK13より新。
13	W22	VE層	不明	階段状	(1.10)	(0.82)	0.11	SK12より古。
14	U・V21	VE層	不明	階段状	(0.76)	(0.32)	0.26	SK137より古。
15	V・W22	VE層	不規則形	階段状	1.85	1.75	0.10	SK103・108・121・128より古。SK17より新。
16	X・Y22	VE層	不明	階段状	(0.66)	(0.60)	0.18	SK125より古。
17	V・W22	VE層	不明	階段状	(1.14)	(0.87)	0.28	SK128、SK13より古。SK122より新。
18	W・X23	VE層	不規則形	階段状	(1.70)	0.84	0.36	SK157より古。
19	W・X23	VE層	不規則形	階段状	2.33	(1.64)	0.34	SK17、SK180・187より古。
20	W21	VE層	不規則形	階段状	(3.31)	1.81	0.15	SK79・80・106より古。
21	X23・24	VE層	不規則形	階段状	(2.10)	1.22	0.20	SK79、SK167より古。
22	Y22・23	VE層	不明	階段状	—	—	0.20	AK6階段セクションで確認。

第11表 ビット観察表(1)

No	グリッド	検出部	平面形状	断面形状	尺規 (m)			産産関係・備考
					長軸	短軸	厚さ	
1	K3	VE層	楕円形	半円状	0.7	0.55	0.45	
2	O23	VE層	楕円形	U字状	0.53	0.4	0.46	SD4より新。
3	N23	VE層	円形	半円状	0.55	0.33	0.22	
4	N23	VE層	円形	半円状	0.39	0.34	0.26	
5	O23	VE層	楕円形	U字状	0.64	0.34	0.39	SD4より新。

第12表 ビット観察表(2)

No.	グッド	検出面	平面形状	断面形状	辺長 (mm)			観察面・備考
					長軸	短軸	深さ	
6	O24	Vic溝	溝内形	筒状	0.53	0.4	0.27	SD4より新。
7	U21	Vic溝	溝内形	筒状	0.7	0.58	0.35	
8	X20	Vic溝	内形	U字状	0.37	0.37	0.33	
9	X20	Vic溝	内形	U字状	0.47	0.44	0.39	
10	V22	Vic溝	溝内形	筒状	0.63	0.45	0.32	SK38より新。
11	U23	Vic溝	内形	筒状	(0.60)	0.50	0.28	SD1, SK55より古。
12					欠番			
13	V24	Vic溝	溝内形	筒状	0.38	0.22	0.23	SD1より古。
14	V24	Vic溝	内形	U字状	0.28	0.27	0.24	SD1より古。
15	V24	Vic溝	内形	U字状	0.32	0.31	0.30	
16	V24	Vic溝	内形	U字状	0.30	0.24	0.34	SD1より古。
17	W-X25	Vic溝	内形	筒状	0.45	0.40	0.22	
18	V23	Vic溝	内形	U字状	0.37	0.31	0.52	
19	V23	Vic溝	溝内形	U字状	0.39	0.27	0.36	P30より新。
20	V23	Vic溝	内形	U字状	0.30	(0.33)	0.53	P19より古。
21	X25	Vic溝	内形	U字状	0.39	0.39	0.39	
22	X25	Vic溝	内形	U字状	0.27	0.27	0.43	
23	W25-26	Vic溝	溝内形	筒状	0.41	0.32	0.30	
24	W25	Vic溝	内形	筒状	0.44	0.40	0.27	SK41より新。
25	W26	Vic溝	内形	U字状	0.33	0.30	0.33	
26	U25	Vic溝	内形	U字状	0.30	0.26	0.19	SK48より新。
27	V23-24	Vic溝	内形	筒状	0.42	0.41	0.52	
28	W22-23	Vic溝	内形	筒状	0.40	0.37	0.33	
29	W23	Vic溝	溝内形	筒状	0.38	0.31	0.29	
30	W23	Vic溝	溝内形	筒状	0.40	0.29	0.26	
31	U22	Vic溝	内形	筒状	0.48	0.47	0.39	SK52より新。
32	X25	Vic溝	溝内形	U字状	0.31	0.23	0.29	P33より新。
33	X25	Vic溝	内形	U字状	0.32	(0.29)	0.30	P32より古。
34	V21	Vic溝	内形	筒状	0.45	0.41	0.44	
35	W21-22	Vic溝	内形	U字状	0.30	0.27	0.32	
36	W22	Vic溝	内形	U字状	0.26	0.24	0.31	
37	S25	Vic溝	不規則形	筒状	0.50	(0.50)	0.50	
38					欠番			
39	P23	Vic溝	内形	U字状	0.27	0.26	0.28	P40より新。
40	P23	Vic溝	溝内形	半円状	(0.41)	0.29	0.22	P39より古。
41	P23-24	Vic溝	溝内形	半円状	0.33	0.26	0.16	
42	P23	Vic溝	内形	筒状	0.37	0.34	0.31	P44より新。
43	P23	Vic溝	内形	U字状	0.33	0.31	0.27	P44より新。
44	P23	Vic溝	溝内形	半円状	(0.47)	0.43	0.21	P42・43より古。
45	P23	Vic溝	溝内形	半円状	0.49	0.41	0.24	
46	P23-24	Vic溝	内形	U字状	0.50	0.50	0.30	
47	O23	Vic溝	溝内形	U字状	(0.47)	(0.33)	0.44	
48	X21	Vic溝	内形	U字状	0.32	0.30	0.25	
49	U21	Vic溝	内形	U字状	0.34	0.28	0.30	
50	U22	Vic溝	内形	U字状	0.30	0.24	0.40	
51	U21	Vic溝	溝内形	溝合形状	0.33	0.27	0.19	
52	U21	Vic溝	溝内形	半円状	0.53	0.40	0.25	
53	U20-21	Vic溝	溝内形	筒状	0.24	0.21	0.24	
54	U20	Vic溝	溝内形	筒状	0.41	0.28	0.12	
55	W24	Vic溝	溝内形	筒状	0.62	0.38	0.24	SK84より古。
56	X24	Vic溝	内形	筒状	0.57	0.57	0.16	
57	W23	Vic溝	内形	半円状	0.56	0.50	0.18	
58	U21	Vic溝	内形	U字状	0.32	0.30	0.47	
59	W21	Vic溝	内形	筒状	0.32	0.27	0.22	SK110・120より新。
60	U20	Vic溝	不規則形	U字状	0.39	0.28	0.31	
61	Y21	Vic溝	不規則形	半円状	0.85	0.85	0.39	SK160より新。
62	Y21	Vic溝	溝内形	逆台形状	0.43	0.30	0.18	SK160より新。
63	Y21	Vic溝	内形	半円状	0.42	0.41	0.25	
64	W24	Vic溝	内形	筒状	0.44	0.38	0.15	
65	W24	Vic溝	溝内形	筒状	0.65	0.38	0.22	P160より新。
66	W22	Vic溝	内形	筒状	0.50	0.47	0.12	
67	W22	Vic溝	内形	U字状	0.35	0.31	0.33	SK89より古。
68	V23	Vic溝	溝内形	筒状	0.39	(0.28)	0.30	SK97より古。
69	W24	Vic溝	内形	筒状	0.45	0.41	0.31	SD27より新。
70	W24	Vic溝	内形	U字状	0.41	0.38	0.42	SD27より新。
71	W25	Vic溝	内形	半円状	0.27	0.25	0.22	
72	W25	Vic溝	不規則形	筒状	0.57	0.41	0.20	
73	W22	Vic溝	内形	逆台形状	0.37	0.32	0.26	
74	W22	Vic溝	溝内形	筒状	0.72	0.50	0.06	SK93より古。
75	X24	Vic溝	溝内形	U字状	0.29	0.25	0.47	S17より新。
76	V22	Vic溝	内形	半円状	(0.51)	(0.45)	0.21	SK97より古。

第13表 ビット観察表(3)

No.	グリッド	映出面	平面形状	断面形状	寸法 (mm)			参照関係・備考
					長軸	短軸	深さ	
77	W26	Vic-1	不規則円形	半円状	0.46	0.36	0.27	
78	W26	Vic-1	円形	環状	0.67	(0.46)	0.21	
79	W26	Vic-1	丸丸方形	蹄状	0.35	0.30	0.27	
80	W26	Vic-1	円形	U字状	0.32	0.27	0.51	
81	V23	Vic-1	円形	蹄状	0.33	0.29	0.37	
82	W26	Vic-1	円形	U字状	0.27	(0.16)	0.30	
83	V25	Vic-1	楕円形	半円状	0.25	0.20	0.18	
84	V25	Vic-1	楕円形	U字状	0.37	0.30	0.28	
85	W25	Vic-1	楕円形	蹄状	0.66	0.46	0.22	P104より古。
86	W24	Vic-1	円形	蹄状	0.23	0.23	0.17	
87	W24	Vic-1	円形	蹄状	0.21	(0.09)	0.22	
88	V24	Vic-1	円形	半円状	0.59	0.55	0.29	S19より新。
89	V22	Vic-1	楕円形	蹄状	0.37	0.30	0.21	SK108より古。
90	V22	Vic-1	楕円形	蹄状	0.32	0.26	0.21	SK108より古。
91	V22	Vic-1	円形	蹄状	0.36	0.35	0.12	SK108より古。
92	W23	Vic-1	楕円形	蹄状	0.64	0.52	0.13	
93	V25	Vic-1	円形	U字状	0.22	0.19	0.22	
94	W25	Vic-1	丸丸方形	U字状	0.22	0.20	0.40	
95	W24	Vic-1	楕円形	蹄状	0.29	0.25	0.16	
96	V23	Vic-1	楕円形	蹄状	(0.42)	0.28	0.20	SK111より古。
97	W25	Vic-1	不規則形	蹄状	0.26	0.22	0.19	
98	W23	Vic-1	不規則形	U字状	0.30	0.24	0.38	
99	W24	Vic-1	楕円形	蹄状	0.51	0.40	0.31	SK084より古。
100	X23	Vic-1	楕円形	蹄状	0.62	0.46	0.22	S17, SK100より新。
101	W25	Vic-1	円形	蹄状	0.53	(0.33)	0.32	
102	X25	Vic-1	円形	U字状	0.26	0.24	0.23	
103	X25	Vic-1	円形	U字状	0.29	0.27	0.22	
104	W25	Vic-1	円形	蹄状	0.34	0.31	0.20	P85より新。
105	X24	Vic-1	円形	半円状	0.54	0.49	0.27	P136より新。
106	W24	Vic-1	方形	蹄状	0.37	0.36	0.06	SK127より古。
107	W22	Vic-1	楕円形	半円状	0.32	0.25	0.16	
108	W25	Vic-1	楕円形	U字状	0.28	0.21	0.31	
109	W23	Vic-1	円形	半円状	0.60	0.63	0.37	P120より新。
110	V21	Vic-1	円形	蹄状	0.58	0.52	0.17	
111	V21	Vic-1	不規則円形	蹄状	0.57	0.41	0.20	
112	U25	Vic-1	円形	蹄状	0.39	0.39	0.28	S01より古。
113	V22	Vic-1	不規則形	半円状	(0.60)	(0.46)	0.22	SK149より古。
114	V22	Vic-1	楕円形	半円状	0.44	0.36	0.37	SK135より古。
115	X22	Vic-1	円形	蹄状	0.46	0.43	0.23	
116	V25	Vic-1	円形	蹄状	0.39	0.34	0.2	
117	X22	Vic-1	円形	蹄状	0.36	0.31	0.32	P118より新。
118	X22	Vic-1	円形	蹄状	0.33	0.31	0.30	P117より古。
119	W23	Vic-1	楕円形	蹄状	0.31	0.24	0.15	
120	W23	Vic-1	円形	U字状	0.28	(0.19)	0.26	P109より古。
121	U-V22	Vic-1	楕円形	蹄状	0.36	0.29	0.09	SK123より古, P124より新。
122	W25	Vic-1	円形	蹄状	0.37	0.31	0.46	SD27より新。
123	V25	Vic-1	楕円形	U字状	0.32	(0.21)	0.28	
124	U22	Vic-1	円形	蹄状	(0.30)	(0.30)	0.14	SK123, P121より古。
125	V23-V4	Vic-1	円形	U字状	0.32	0.30	0.25	S19より古。
126	V21	Vic-1	円形	U字状	0.30	0.27	0.41	
127	V22	Vic-1	方形	U字状	0.28	0.21	0.29	
128	X23	Vic-1	楕円形	半円状	0.41	0.28	0.15	P129・147より新。
129	X23	Vic-1	楕円形	U字状	0.23	0.17	0.20	P128より古。
130	X23	Vic-1	楕円形	U字状	0.18	0.14	0.21	
131	X23	Vic-1	不規則形	U字状	0.22	0.21	0.28	
132	X24	Vic-1	楕円形	半円状	0.27	0.22	0.10	
133	X24	Vic-1	円形	半円状	0.58	0.50	0.20	
134	X25	Vic-1	楕円形	U字状	0.27	0.19	0.19	
135	X24	Vic-1	不規則円形	蹄状	0.45	0.38	0.18	S18より新。
136	X24	Vic-1	円形	蹄状	0.55	(0.44)	0.19	P105より古。
137	X-V24	Vic-1	楕円形	U字状	0.32	0.24	0.23	S18と類似。
138	X23	Vic-1	円形	半円状	0.57	0.49	0.22	SK08より古。
139	V24	Vic-1	不規則形	U字状	0.37	0.31	0.36	
140	U-V21	Vic-1	方形	U字状	0.24	0.24	0.32	
141	U-V23	Vic-1	楕円形	U字状	0.36	0.28	0.28	
142	W24	Vic-1	楕円形	蹄状	0.41	0.28	0.26	
143	X-V25	Vic-1	不規則円形	半円状	0.43	0.26	0.18	SK151より古, P154より新。
144	V24	Vic-1	円形	U字状	0.15	0.14	0.15	S19より新。
145	V23	Vic-1	楕円形	半円状	0.29	0.21	0.21	
146	V23	Vic-1	円形	U字状	0.27	0.24	0.23	
147	X23	Vic-1	円形	U字状	0.22	0.19	0.33	P128より古。

第14表 ビット観察表(4)

No.	グリップ	検出面	平面形状	断面形状	寸法 (mm)			重複関係・備考
					軸径	軸長	深さ	
148	Y25	切削	内形	逆台形状	0.51	0.41	0.17	SK151より古。
149	Y23	切削	内形	圓柱	0.38	0.33	0.18	
150	X-Y23	切削	内形	圓柱	0.57	0.55	0.18	
151	X23	切削	内形	圓柱	0.41	0.36	0.17	
152	X24	切削	扇形	半円状	0.40	0.33	0.28	
153	W-X24	切削	内形	圓柱	0.27	0.24	0.23	
154	Y25	切削	逆台形	半円状	0.63	(0.31)	0.17	SK117・151、P143より古。
155	X22	切削	扇形	扇状	0.65	0.31	0.18	
156	X22	切削	扇形	扇状	0.20	0.19	0.18	
157	X22・23	切削	扇形	逆台形	0.29	0.22	0.16	
158	W22	切削	扇形	扇状	0.45	0.30	0.07	
159	W-X23	切削	扇形	圓柱	0.66	0.50	0.11	SK108より古。
160	W24	切削	内形	U字状	0.24	0.22	0.36	
161	W23	切削	扇形	圓柱	0.50	0.33	0.15	
162	X-Y25	切削	扇形	逆台形	0.63	0.39	0.27	SK151より古。
163	X23	切削	内形	U字状	0.37	0.31	0.40	SK103より古。
164	W24	切削	扇形	U字状	0.25	0.19	0.26	
165	W23・24	切削	扇形	U字状	0.31	0.23	0.33	
166	W24	切削	扇形	U字状	0.30	0.21	0.36	
167	W24	切削	不整形内形	U字状	0.48	0.33	0.31	
168	W24	切削	円形	U字状	0.18	0.16	0.21	
169	W24	切削	扇形	扇状	0.52	0.31	0.16	P65より古。
170	U-Y23	切削	円形	半円状	0.35	0.30	0.18	
171	X25	切削	円形	U字状	0.36	0.31	0.42	SK145より古。
172	X25	切削	円形	U字状	0.35	0.30	0.55	SK145・165より古。
173	Y24	切削	円形	半円状	0.33	0.28	0.20	
174	Y23	切削	円形	扇状	0.24	(0.13)	0.13	SK10より古。SK124より新。
175	X25	切削	扇形	圓柱	0.37	0.30	0.24	
176	Y23	切削	円形	扇状	0.31	0.29	0.23	
177	Y23	切削	円形	U字状	0.28	0.24	0.20	
178	X25	切削	扇形	扇状	0.35	0.25	0.25	
179	W23	切削	円形	半円状	0.32	0.27	0.20	
180	X22	切削	扇形	U字状	0.48	0.38	0.34	SK109より古。
181	Y25	切削	逆台形	圓柱	0.43	0.23	0.18	
182	X-Y25	切削	内形	U字状	0.38	0.31	0.46	
183	X24	切削	内形	U字状	0.29	0.26	0.23	
184	X24	切削	内形	U字状	0.28	0.26	0.28	
185	X-Y23	切削	不整形内形	圓柱	(0.00)	0.74	0.14	
186	V25	Vic磨	扇形	U字状	0.27	0.22	0.22	
187	V24	切削	円形	半円状	0.33	0.32	—	SK101より古。
188	V24	切削	円形	半円状	0.28	0.25	—	SK101より古。
189	X25	切削	円形	U字状	0.20	0.17	0.18	
190	X25	切削	扇形	半円状	0.29	0.20	0.18	
191	X25	切削	扇形	U字状	0.61	0.30	0.25	

第15表 出土遺物観察表(1)

No.	遺物 品名	出土位置	法相 (cm・g) 形状 (外観・内観) / 砂状	胎土	特徴・装飾・文様等
1	土師器 壺	SI1 No10	口:(24.0) 高:(9.8) 底:- 最大径:- 口縁-黒色/4 底色/やや良好	砂粒、炭粒、 灰石、石英	外:口縁-黒部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内:口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。
2	土師器 瓶	SI1 No6	口:(19.8) 高:(5.5) 底:- 最大径:- 口縁部黒色 にふい黄白色/やや良好	砂粒、角閃石、 石英	外:口縁部ヨコナデ。口縁部の一部-胴部ヘラナデ。内:口縁部 ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
3	石製品 管玉	SI1	長:2.1 幅:0.4 厚:0.4 重:0.5		線状彫刻。
4	土師器 杯	SI2 No2	口:(12.8) 高:(3.6) 底:- 最大径:- 口縁-赤褐色片 灰白色/良好	砂粒	口縁部黒色。
5	土師器 台付罌	SI2 No8	口:- 高:(3.4) 底:3.4 最大径:- 各部 にふい黄白色/良好	砂粒、角閃石	外:ヨコナデ。内:ヘラナデ。
6	土師器 付付罌	SI2カマド No20	口:- 高:(3.4) 底:(5.0) 最大径:- 口縁-黒色 底色/黄白色/やや良好	砂粒、角閃石、 石英	外:口縁部ヨコナデ。口縁部ヘラナデ。内:口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。
7	土師器 壺	SI2 No4	口:(16.8) 高:(7.1) 底:- 最大径:- 口縁-黒部上段部片 にふい黄白色/良好	砂粒、炭粒、 角閃石、赤色	外:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内:口縁部ヨコナデ。胴部 ヘラナデ。

第16表 出土遺物観察表(2)

No.	類別 番号	出土位置	法量 (cm・g) 形状 (外側・内側) / 発色	出土	特徴・製法・文様等
8	土師器 甕	S12 No.4・6・21	口:16.8 高:(10.7) 底:- 最大径:- 口縁~胴部 にぶい褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外:口縁部ヨコナデ、胴部ハナメヒヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。
9	土師器 杯	S14 No.3	口:(13.0) 高:(4.4) 底:- 最大径:- 口縁~底部1/2 にぶい褐色・灰褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、石英	外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、体~底部ナデ。
10	土師器 杯	S14 No.2	口:(11.0) 高:(3.4) 底:- 最大径:- 口縁~底部2/3 にぶい褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石	外:口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部ヘナデ。内:口縁~体部 ヨコナデ、底部ナデ。
11	土師器 杯	S14	口:(13.0) 高:(3.2) 底:- 最大径:- 口縁~底部1/4 にぶい褐色・にぶい褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石	外:口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部ヘナデ。内:口縁~体部 ヨコナデ、底部ナデ。
12	土師器 甕	S14 No.1	口:- 高:(11.2) 底:(10.0) 最大径:- 胴部平 にぶい黄褐色・オリーブ黒色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、赤色粒	外:ヘナデ。内:ヘナデ。底部ヘナデ。
13	土師器 片	S15 No.9	口:(13.0) 高:(4.8) 底:- 最大径:- 口縁~体部1/4 明赤褐色/やや不良	砂粒、黄緑、 角閃石	外:口縁部ヨコナデ、体部ヘナデ。内:ナデ。
14	土師器 甕	S15 No.4	口:(17.0) 高:(8.5) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段 褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
15	土師器 甕	S15 No.3	口:(15.8) 高:(7.8) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段 褐色/良好	砂粒、角閃石、 灰石	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
16	土師器 甕	S15	口:(16.8) 高:(4.1) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段 にぶい黄褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
17	石器 板状石器	S15 No.12	長:20.6 幅:7.0 厚:2.8 重:489.7		細色片也。
18	銅器 高台付環	S16	口:- 高:(12.7) 底:(6.4) 最大径:- 体部中央~底部1/4 にぶい黄褐色/やや良好	砂粒、黄緑、 石英	タテ型。高台付。
19	土師器 甕	S16下	口:(16.0) 高:(8.6) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段1/2 明赤褐色・褐色/良好	砂粒、小砂、 角閃石、灰石、 石英	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
20	土師器 甕	S16下	口:(17.0) 高:(5.4) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段 にぶい褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石、 石英	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
21	土師器 甕	S16下	口:(15.0) 高:(12.8) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段 にぶい褐色/やや不良	砂粒、小砂、 黄緑、角閃石	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
22	土師器 甕	S16下	口:(16.6) 高:(12.8) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段1/5 褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英、赤色粒	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 上段ナデ。一部ヘナデ。胴部下段ヘナデ。
23	土師器 杯	S17カマド	口:(12.8) 高:(4.5) 底:- 最大径:- 口縁~体部下段破片 褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石	外:口縁部ヨコナデ、体部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、体部 ナデ。
24	土師器 甕	S17	口:(18.5) 高:(4.6) 底:- 最大径:- 口縁~胴部破片 浅黄褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ。
25	土師器 甕	S17下	口:(24.0) 高:(0.7) 底:- 最大径:- 口縁部破片 にぶい褐色/やや不良	砂粒、黄緑、 角閃石、灰石、 石英	外:ヨコナデ。内:ヨコナデ。
26	土師器 甕	S18	口:(17.0) 高:(3.7) 底:- 最大径:- 口縁~胴部破片 にぶい黄褐色/良好	砂粒、黄緑、 石英	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ。
27	土師器 甕	S18	口:(18.0) 高:(7.1) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段破片 にぶい褐色/やや不良	砂粒、黄緑、 角閃石、赤色粒	外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘナデ。
28	土師器 高坪	S19下	口:(19.2) 高:(4.0) 底:- 最大径:- 口縁~体部破片 赤色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外:口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内:ヨコナデ。
29	土師器 甕	S19	口:- 高:(6.7) 底:- 最大径:(14.6) 体~底部 にぶい褐色・灰褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、赤色粒	外:体部上段ナデ、体部下段~底部ヘナデ。内:ヘナデ。
30	土師器 杯	S13 No.34・62	口:(14.4) 高:(2.5) 底:(2.5) 最大径:- 底部 褐色/良好	砂粒、黄緑、 角閃石、赤色粒	外:口縁部ヨコナデ、底部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、底部 ナデ。
31	土師器 杯	S13 No.1	口:(14.4) 高:(4.7) 底:- 最大径:- 口縁~底部1/2 にぶい褐色/やや不良	砂粒、角閃石、 灰石、赤色粒	外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘナデ。内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ。

第17表 出土遺物観察表(3)

No.	種類 器種	出土位置	法号 (cm・g) 箱号 色調 (外側・内側) / 形状	胎土	胎土・底面・文様等
32	土師器 白付土	S3 No.17	口:13.0 高:(12.3) 底:- 最大径:13.1 口縁~内面 にぶい黄褐色/やや良	砂粒、重母、 角閃石、長石	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り後、部分的にミギキのヘナナ。内:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。台部直落。
33	土師器 甕	S3 No.50・63・64	口:(22.4) 高:(5.7) 底:- 最大径:- 口縁~胴部1/4 褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り後ナデ。内:ナデ。
34	土師器 甕	S3	口:(23.0) 高:(8.5) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段腹片 浅黄褐色/良好	砂粒、角閃石、 長石	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。内:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。
35	土師器 坪	SX4 No.1・2・4~7	口:12.0 高:4.7 底:7.0 最大径:- 口縁~胴部5/6 褐色/やや良	砂粒、重母、 角閃石	外:口縁~胴部上平ヨコナデ。下半~底部へう張り。内:ナデ。
36	須恵器 甕	SX5 No.1	口:13.8 高:7.8 底:8.0 最大径:15.2 底面 灰白色/良好	砂粒、角閃石、 石英	口縁部直落(右図形)。外:体部下段へう張り。底面直落へう切り。砂土付石。内:自然胎。
37	土師器 坪	SX5 No.2	口:14.2 高:3.0 底:11.8 最大径:- 底面 褐色/良好	砂粒、重母、 石英、赤色粒	外:口縁~体部ヨコナデ。底面へう張り後ナデ。内:口縁~体部ヨコナデ。底面へう張り。
38	木製 土師器	SE1	長:16.8 幅:(12.6) 厚:0.7		釘穴3ヶ所。
39	須恵器 高坪	SE3	口:- 高:(4.5) 底:- 最大径:- 口部~胴部上段 灰黄色/良好	砂粒、長石、 石英	外:口縁部直落。体部下段へう張り。内:外周口縁部直落。胴部ナデ。
40	石製 甕	ST3	長:18.6 幅:7.9 厚:1.8 底:148.2		赤褐色緑灰質。
41	須恵器 甕	ST4	口:- 高:(5.7) 底:(14.0) 最大径:- 底面1/4 黄褐色・褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外:体部ナデ。底面糸切り後胴部へう張り。内:体~底面へう張り。
42	土師器 甕	SF5	口:17.3 高:27.7 底:7.5 最大径:23.4 口縁~底面5/6 にぶい黄褐色/やや良	砂粒、石英	外:口縁部ヨコナデ。胴部下段へう張り。内:口縁部ヨコナデ。胴部上段へう張り。下段~底面ナデ。
43	土師器 高坪	SF5	口:- 高:(6.6) 底:- 最大径:- 胴部1/2 明赤褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石、長石	外:胴部上段へう張り。中段以下ナデ。内:胴部上平へう張り。下半ナデ。
44	須恵器 坪	SE6	口:- 高:(2.7) 底:6.3 最大径:- 体~底面1/2 にぶい黄褐色・黒褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石、長石	口縁部直落(右図形)。底面直落へう切り。
45	土師器 甕	SE6	口:(28.0) 高:(7.4) 底:- 最大径:- 口縁~胴部1/4 褐色/やや良	砂粒、重母、 長石、石英	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り後ナデ。内:口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。胴部底面直落1ヶ所。
46	瓦 平瓦	SE6	長:(13.7) 幅:(10.7) 厚:2.9 底面 黄褐色/良好	小砂粒、長石、 石英	点瓦:ナデ。端瓦:ナデ。内面:布目肌。
47	土師器 坪	SE7	口:(13.2) 高:5.5 底:- 最大径:- 口縁~胴部1/4 褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石、長石	外:口縁部ヨコナデ。体部へう張り。一帯ナデ。内:口縁部ヨコナデ。体部へう張り。
48	土師器 高坪	SE7	口:- 高:(5.3) 底:(13.0) 最大径:- 胴部下段~胴部1/3 褐色/良好	砂粒、角閃石、 長石、石英	外:胴部直落方向へう張り。胴部斜め方向へう張り。内:胴部直落ナデ。胴部ヨコナデ。
49	土師器 甕	SE7	口:(23.0) 高:(12.0) 底:- 最大径:- 口縁~胴部上段1/2 褐色/やや良	砂粒、重母、 石英	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。内:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。
50	土師器 坪	SE8	口:(12.0) 高:8.2 底:- 最大径:(12.6) 口縁~胴部1/3 にぶい黄褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石	外:口縁~胴部ヨコナデ。体~底面へう張り。内:口縁部ヨコナデ。体~底面へう張り。
51	土師器 甕	SE8 No.1	口:(18.3) 高:33.9 底:6.8 最大径:26.2 口縁~底面 にぶい黄褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石、石英	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。胴部下段へう張り後ナデ。胴部上段へう張り。内:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。胴部上段直落1ヶ所。
52	土師器 甕	SE8	口:(18.0) 高:(6.1) 底:- 最大径:- 口縁~底面 にぶい黄褐色/やや良	砂粒、重母、 石英	外:口縁部ヨコナデ。内:口縁部ヨコナデ。
53	土師器 高坪	SE8	口:(12.4) 高:(9.8) 底:- 最大径:- 体~胴部1/2 褐色/良好	砂粒、重母、 角閃石、石英	外:体~胴部へう張り。内:体部へう張り。胴部へう張り。穿孔4ヶ所。
54	土師器 高坪	SE8 No.2	口:- 高:(9.4) 底:12.4 最大径:- 体~胴部1/2 やや不良	砂粒、角閃石、 石英、赤色粒	外:胴部へう張り。胴部へう張り。内:胴部へう張り。胴部上段へう張り。胴部上段直落1ヶ所。穿孔4ヶ所。
55	土師器 白付土	SE8 No.1	口:(13.8) 高:(20.5) 底:- 最大径:19.0 口縁~胴部上段4/5 にぶい黄褐色・にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、重母、 角閃石、赤色粒	外:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。胴部上段へう張り。胴部上段直落1ヶ所。胴部上段平部付。内:口縁部ヨコナデ。胴部へう張り。台部ナデ。

第18表 出土遺物観察表(4)

No.	発掘 部	出土位置	法量 (cm・g) 保存 色調 (外側・内側) / 地蔵	胎土	特徴・調査・文様等
56	土師部 台付甕	S8	口: (15.8) 高: (27.8) 底: 8.7 最大径: (23.8) 口縁~台部1/2 黒褐色・灰黄褐色/やや不良	砂粒、雲母、 角閃石	外: 口縁部コナナ。割部ハケメ。台部ナシ。土師ハケメ。一部 ナシ。割部上へ中位部付。内: 口縁部コナナ。割部ナシ。
57	土師部 台付甕	S8	口: (13.0) 高: (9.0) 底: 一 最大径: (20.4) 口縁~胴部上 黄褐色・灰黄褐色/やや不良	砂粒、角閃石、 石英	外: 口縁部コナナ。割部ハケメ。一部ナシ。内: 口縁部コナ ナ。割部ハケメ。割部ナシ。
58	土師部 台付甕	S8	口: 一 高: (7.5) 底: 一 最大径: 一 胴部下位~台部上 にぶい黄褐色・灰黄褐色/やや不良	砂粒、雲母、 角閃石、石英	外: 割部~台部ハケメ。内: 胴部ヘナナ。台部ナシ。
59	灰土部 高台付甕	SD1	口: (15.6) 高: (3.8) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部破片 灰白色/良好		ロクロ製。内外面灰土施。胎土。
60	灰土部 高台付甕	SD1	口: 一 高: (2.0) 底: (6.6) 最大径: 一 体~高台部 にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、雲母	ロクロ製 (右回転)。底面凹軸糸切り後、高台付。胎土。
61	灰土部 高台付甕	SD1	口: 一 高: (2.4) 底: (6.6) 最大径: 一 体~高台部 灰白色/良好	砂粒	ロクロ製 (右回転)。底面凹軸糸切り後、高台付。胎土。
62	土師部 小壺	SD1	口: 一 高: (1.0) 底: 一 最大径: 一 口縁破片 褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石、石英	外: 8本1単位の間隔文2。その間に縦文。下に山形縦 文。内: ナシ。
63	土師部 高杯	SD1 No.1	口: 一 高: (8.8) 底: 一 最大径: 一 体部上位~胴部 褐色/良好	砂粒、雲母、 赤色粒	外: 胎土不明。胴部ミダリガキコナナ。内: 体部ヘナナ。割 部ヘナナ。
64	土師部 壺	SD1	口: (18.8) 高: (5.2) 底: 一 最大径: 一 口縁~口部1/5 黄褐色/やや不良	砂粒、角閃石、 石英	外: 口縁部コナナ。割部ヘナナ。内: 口縁部コナナ。割部 ヘナナ。
65	灰土部 高台付甕	SD1	口: 一 高: (11.1) 底: 一 最大径: 一 口縁破片 明褐色/やや不良	砂粒、雲母、 角閃石、石英	外: 胎土で不規則な区画を設け、区画内に平行波線・短光文・内 部縦文を施す。胎土交立に突起を付す。内: ナシ。
66	灰土部 高台付甕	SD2	口: 一 高: (1.9) 底: (8.0) 最大径: 一 体~高台部 灰白色/やや不良	砂粒、小礫	ロクロ製。底面凹軸糸切り後、高台付。胎土。
67	灰土部 高台付甕	SD2	口: (26.0) 高: (8.2) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部破片 灰白色/良好	砂粒、雲母	外: 口縁部コナナ。体部ナシ。内: ナシ
68	土師部 台付甕	SD2	口: (14.8) 高: (4.3) 底: 一 最大径: 一 口縁~胴部上1/5 にぶい黄褐色・灰黄褐色/やや不良	砂粒、雲母、 角閃石	外: 口縁部コナナ。割部ハケメ。内: 口縁部コナナ。割部 ナシ。
69	土師部 小壺	SD2	口: (16.0) 高: (7.5) 底: 一 最大径: 一 口縁~胴部破片 にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、角閃石	外: 口縁部コナナ。割部ヘナナ。内: 口縁部コナナ。割部 ヘナナ。
70	土師部 小壺	SD4	口: (2.2) 高: (1.5) 底: (3.0) 最大径: 0.7		チャート製。
71	灰土部 高台付甕	SD6・SK26	口: (30.0) 高: (6.5) 底: 一 最大径: 一 口縁破片 褐色/良好		ロクロ製。外周面凹軸糸切り後、内外面灰土施。胎土。
72	灰土部 高台付甕	SD6	口: (15.8) 高: (3.8) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部破片 黄褐色・灰白色/良好		ロクロ製。内周面凹軸糸切り後、内外面灰土施。胎土。
73	灰土部 高台付甕	SD6	口: 一 高: (1.9) 底: (6.4) 最大径: 一 体部下位~胴部1/4 灰白色・灰白色/良好		ロクロ製。内外面灰土施。胎土。
74	灰土部 高台付甕	SD6	口: 一 高: (1.8) 底: (6.2) 最大径: 一 高台部3/4 灰白色/良好	砂粒、長石	ロクロ製 (右回転)。底面凹軸糸切り後、高台付。胎土。
75	灰土部 高台付甕	SD6	口: 一 高: (2.2) 底: (5.8) 最大径: 一 体部上位~胴部 灰白色・黄褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	ロクロ製 (右回転)。底面凹軸糸切り後、高台付。胎土。
76	灰土部 高台付甕	SD6	口: 一 高: (1.8) 底: (6.6) 最大径: 一 体部上位~胴部1/4 灰白色/やや不良	砂粒、雲母、 角閃石	ロクロ製 (右回転)。底面凹軸糸切り後、高台付。胎土。
77	土師部 高杯	SD6 No.15	口: 高: (8.7) 底: (12.5) 最大径: 一 胴部1/2 褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外: 割部ヘナナ。割部コナナ。内: 割部ヘナナ。割部 コナナ。
78	土師部 高杯	SD6 No.3	口: (9.2) 高: (5.6) 底: 一 最大径: (10.2) 口縁~胴部1/5 褐色/やや不良	砂粒、雲母、 角閃石、長石	外: 口縁部~体部上位コナナ。体部中位~底部ヘナナ。内: 口 縁部コナナ。体~底部ヘナナ。
79	灰土部 高台付甕	SD9	口: 一 高: (3.7) 底: 一 最大径: 一 体部下位~底面破片 灰白色/良好	砂粒、石英	ロクロ製。高台付。胎土。

第19表 出土遺物観察表(5)

No.	遺物 品名	出土位置	重量 (cm・g)	新土	特徴・断片・文様等
			残存 色澤 (外観・内観) / 焼成		
80	土師器 甕	SD9 No.1	口: (19.8) 高: (10.3) 底: 最大径: 一 口縁~胴部上段破片 灰白色/やや不良	砂粒、黒母、 角閃石、赤色粒	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。
81	土師器 杯	SD17	口: (10.4) 高: (3.2) 底: (8.5) 最大径: 一 口縁~底面1/4 にぶい褐色/良好	砂粒、黒母、 角閃石、石英	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。
82	土師器 台付甕	SD18 No.1	口: 一 高: (6.2) 底: (8.4) 最大径: 一 台座1/3 にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、黒母、 石英、赤色粒	外: 台座ハケメ後一部ナデ消し。下縁部ナデ。内: 台座ヘナナデ。下縁部ナデ。
83	土師器 杯	SD23	口: 一 高: (1.8) 底: (6.0) 最大径: 一 体部下段~底面 灰白色/やや不良	砂粒、角閃石、 石英	口縁部 (右図)。底面 (右図)。
84	土師器 台付甕	SD28	口: 一 高: (3.8) 底: (8.4) 最大径: 一 台座1/3 にぶい黄褐色/良好	砂粒、角閃石	外・内: ハケメ。
85	土師器 高台付甕	SK6	口: 一 高: (1.7) 底: 一 最大径: 一 底面破片 灰白色/良好	砂粒	口縁部 (左図)。底面 (右図)。
86	甕片	SK6	長: 1.9 幅: 1.7 厚: 0.4 重: 1.0		口縁部。
87	土師器 杯	SK11	口: 一 高: (4.6) 底: (14.3) 最大径: 一 体~底面破片 褐色/良好	砂粒	口縁部。内外面活動。
88	土師器 杯	SK15	口: 3.4 幅: 1.6 厚: 0.4 重: 4.1		底面 (右図)。
89	土師器 甕	SK16	口: 一 高: (5.5) 底: 一 最大径: 一 起子破片 明褐色/良好	砂粒、赤色粒	外: 起子ナデ。内: ヘナナデ。
90	土師器 高台付甕	SK19	口: 一 高: (1.5) 底: (6.0) 最大径: 一 高台部破片 灰白色/良好	砂粒	口縁部 (右図)。底面 (右図)。
91	土師器 甕	SK22	口: (17.0) 高: (6.9) 底: 一 最大径: 一 口縁~底面破片 褐色/良好	小砂粒、角閃石	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。
92	土師器 杯	SK27	口: (13.3) 高: (3.3) 底: (9.0) 最大径: 一 口縁~底面 黄褐色/良好	砂粒	口縁部。底面 (右図)。
93	土師器 杯	SK33	口: 一 高: (1.4) 底: (6.0) 最大径: 一 底面1/2 黄褐色/良好	砂粒	口縁部 (右図)。底面 (右図)。
94	土師器 甕	SK34	口: (21.4) 高: (5.4) 底: 一 最大径: 一 口縁~底面破片 明褐色/良好	砂粒、角閃石	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。内: ナデ。
95	土師器 高台付甕	SK40	口: 一 高: (9.9) 底: 一 最大径: 一 脚座~高台部上段 明褐色/良好	砂粒、角閃石、 赤色粒	外: ヘナナデ。内: 脚座部ナデ。中~下段ヘナナデ。胴部ナデ。
96	土師器 甕	SK46	口: (16.0) 高: (8.1) 底: 一 最大径: 一 口縁~底面1/4 明褐色/良好	砂粒、角閃石、 赤色粒	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。
97	土師器 打製石片	SK48	長: 10.4 幅: 5.4 厚: 1.3 重: 89.0		底面 (右図)。
98	土師器 甕	SK49	口: 一 高: (7.4) 底: 一 最大径: 一 底面破片 明褐色/良好	砂粒、角閃石	外: 底面による褐色文、又は5字文。底面には平行波線を施し、 底面に波線を施す。内: ナデ。
99	土師器 甕	SK49	口: 一 高: (4.3) 底: 一 最大径: 一 口縁部破片 明褐色/良好	砂粒、角閃石	外: 口縁部に5字文。底面から底面をのび、底面は平行波 線で埋める。内: ナデ。
100	土師器 甕	SK55 No.1	口: (20.0) 高: (17.0) 底: 一 最大径: 一 口縁~底面 浅褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英、赤色粒	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。
101	土師器 高台付甕	SK59	口: 一 高: (2.4) 底: (9.0) 最大径: 一 高台部1/4 灰白色/良好	砂粒	口縁部 (右図)。底面 (右図)。
102	土師器 杯	SK60	口: 一 高: (4.9) 底: 一 最大径: 一 底面破片 明褐色/良好	砂粒、角閃石、 赤色粒	口縁部。底面 (右図)。
103	土師器 杯	SK69	口: (4.2) 高: (2.3) 底: 一 最大径: 一 口縁~底面1/4 灰褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	口縁部。底面 (右図)。
104	土師器 杯	SK69	口: 11.8 高: 3.3 底: 8.1 最大径: 一 底面破片 にぶい褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外: 口縁部ヨコナデ。体~底面ヘナナデ。内: 口縁部ヨコナデ。 体~底面ナデ。

第20表 出土遺物観察表(6)

No	遺物 品名	出土位置	法量 (cm・g) 保存 色澤 (外側・内側) / 状態	土質	特徴・調査・文様等
105	土師器 鉢	SK69	口: (11.4) 高: (3.8) 底: (7.4) 最大径: 一 口縁~底縁1/4 にぶい褐色/良好	砂粒, 炭屑	外: 口縁部ヨコナデ, 体部ナデ。底部ヘラ張り。内: 口縁~体部 ヨコナデ, 底部ナデ。
106	土師器 杯	SK71	口: 一 高: (2.8) 底: (6.8) 最大径: 一 体部下縁~底部 灰白色/良好	砂粒	ロクロ成形 (右図転)。底部回転糸切り。
107	土師器 杯	SK76	口: 一 高: (2.6) 底: (6.7) 最大径: 一 体部下縁~底縁1/4 灰白色/良好	砂粒, 炭屑	ロクロ成形。底部回転糸切り。
108	土師器 高杯	SK81	口: 一 高: (1.8) 底: 一 最大径: 一 外部下縁破片 褐色/良好	砂粒, 炭屑, 角閃石	外: ヨコナデ・ナデ, 突脚付。内: 体部下縁~底面粗いヘラミ ガキ。
109	土師器 盃	SK82	口: (16.6) 高: (15.9) 底: 一 最大径: (21.4) 口縁~胴部中段 灰褐色・やや良	砂粒, 炭屑, 角閃石, 石英, 赤色粒	外: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 胴部 ヘラナデ。
110	土師器 杯	SK84	口: (12.6) 高: (5.4) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部1/4 褐色/良好	砂粒, 炭屑, 角閃石, 石英	外: 口縁~体部上半ヨコナデ, 下半ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナ デ, 体部ヘラナデ。
111	土師器 小瓶丸底	SK84	口: (17.2) 高: (5.0) 底: 一 最大径: 一 口縁~底部1/5 にぶい褐色・褐色/良好	砂粒, 炭屑, 石英, 赤色粒	外: 口縁部上半ヨコナデ, 下半ナデ。体部ヘラ張り後, 部分的に ヘラミガキ。内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。体~底部ヘラナ デ後ヘラミガキ。
112	土師器 盃	SK84	口: (18.0) 高: (4.8) 底: 一 最大径: 一 口縁~胴部破片 にぶい褐色・にぶい褐色/やや不良	砂粒, 炭屑, 角閃石, 長石, 赤色粒	外: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 胴部 ヘラナデ。
113	土師器 鉢	SK88	口: (20.4) 高: (9.3) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部1/4 洗青色/やや不良	砂粒, 角閃石, 長石	外: 口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 体部 ヘラナデ。
114	土師器 盃	SK101 No1	口: (18.8) 高: (24.0) 底: 一 最大径: (22.1) 口縁~胴部内段 にぶい褐色/良好	砂粒, 角閃石, 長石	外: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 胴部 ヘラナデ。
115	石部 台石か	SK102	長: 34.4 幅: 14.5 厚: 12.2 重: 9890.0		輝綠岩製。表・裏面磨り肌。
116	土師器 盃	SK103	口: 一 高: (5.4) 底: (8.3) 最大径: 一 胴部下縁~底縁1/2 褐色/やや良	砂粒, 角閃石, 長石, 赤色粒	外: 胴部ヘラ張り, 下腹ナデ。底部ヘラ張り。内: ヘラナデ。
117	土師器 高杯	SK117	口: 一 高: (8.2) 底: 一 最大径: 一 胴部 にぶい褐色/良好	砂粒, 炭屑, 角閃石, 長石	外: 胴部上へ中位ナデ, 下位ヘラナデ。内: ヘラナデ
118	土師器 盃	SK130	口: (18.6) 高: (4.5) 底: 一 最大径: 一 口縁~胴部破片 にぶい褐色・にぶい褐色/やや不良	砂粒, 炭屑, 角閃石	外: 口縁~胴部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。内: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。
119	土師器 盃	SK133 No1	口: (17.0) 高: (6.4) 底: 一 最大径: 一 口縁~胴部 洗青色・にぶい褐色/やや不良	砂粒, 炭屑, 角閃石	外: 口縁~胴部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。内: ナデ。
120	土師器 盃	SK137	口: (11.9) 高: (3.4) 底: 一 最大径: (13.8) 口縁~底縁1/4 灰白色/やや良	砂粒, 炭屑, 角閃石	ロクロ成形。外: 体~底面回転ヘラ張り。
121	土師器 高杯	SK137	口: (16.2) 高: (12.5) 底: 一 最大径: 一 外~胴部破片 褐色/やや良	砂粒, 炭屑, 長石	外: 杯部不明瞭。胴部ヘラナデ。内: 杯部破片状ヘラミガキ。 胴部ヘラナデ。
122	土師器 高杯	SK137	口: 一 高: (6.4) 底: (10.6) 最大径: 一 胴部1/2 にぶい褐色/やや良	砂粒, 角閃石, 石英	外: 胴部ヘラ張り。内: 胴部ヘラナデ。
123	土師器 盃	SK137	口: (20.0) 高: (11.6) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部上段1/3 にぶい褐色/やや良	砂粒, 角閃石, 赤色粒	外: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 胴部 ヘラナデ。
124	土師器 盃	SK138	口: (21.7) 高: (3.7) 底: 一 最大径: 一 口縁部破片 灰白色/良好	砂粒	ロクロ成形。
125	土師器 杯	SK141	口: (15.0) 高: (4.3) 底: 一 最大径: 一 口縁~体部1/4 明赤褐色/やや良	砂粒, 角閃石, 長石	外: 口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 体部 ヘラミガキ。
126	土師器 杯	SK141	口: (12.6) 高: (4.7) 底: 一 最大径: 一 口縁~底部1/2 褐色・明赤褐色/やや良	砂粒, 炭屑, 角閃石	外: 口縁部ヨコナデ, 体~底部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコナデ, 体部ヘラナデ・ナデ。
127	土師器 杯	SK145	口: (11.0) 高: (6.4) 底: 一 最大径: 一 口縁~底部1/4 赤褐色/やや良	砂粒, 炭屑, 角閃石, 石英	外: 口縁部ヨコナデ, 体部ナデ。底部ヘラ張り。内: 口縁部不明 瞭。体~底部ヘラナデ。
128	土師器 盃	SK145	口: (16.3) 高: (7.5) 底: 一 最大径: 一 口縁~胴部1/4 にぶい褐色/やや良	砂粒, 炭屑, 角閃石	外: 口縁部ヨコナデ, 胴部ナデ。胴部ヘラ張り。内: 口縁部ヨコ ナデ, 胴部ナデ。

第21表 出土遺物観察表(7)

No	館蔵 番号	出土位置	法量 (mm・g)	胎土	特徴・装束・文様等
			残存 色面(外側・内側)／施成		
120	土師器 高坪	SK150	口:— 高:(8.1) 底:(12.0) 最大径:— 外壁下位へ胴部1/3 にぶい褐色／やや良	砂粒、黄緑、 内肉石、赤色粒	外:胴部ハケム後ヘラミガキ。胴部ハケム後ヘラミガキ。胴部コ コナデ後ヘラミガキ。内:胴部不明。胴部ヘラミガキ。短形コ コナデ。
130	土師器 坪	SK151	口:(12.0) 高:(4.8) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部1/4 褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石	外:口縁部ココナデ。体部ナデ。内:口縁へ胴部方向の粗いヘ ラミガキ。
131	土師器 坪	SK156	口:(14.0) 高:(4.4) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部1/5 褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石	外:口縁部ココナデ。体部上ナデ。下位ヘラミガキ。内:口縁部 ココナデ。体部斜め方向のヘラミガキ。
132	土師器 不明	SK153	口:— 高:(4.4) 底:— 最大径:(8.6) 胴部1/4 にぶい黄褐色／良好	砂粒、黄緑	外:胴部上位へ胴下位ココナデ。胴部下位ヘラミガキ。内:ナデ。
133	土師器 高坪	SK157	口:(18.0) 高:(11.8) 底:— 最大径:— 外壁下位へ胴部1/3 褐色・明褐色／やや良	砂粒、黄緑、 内肉石、赤色粒	外:胴部ココナデ後中心部方向の粗いヘラミガキ。ド位ナデ。 胴部ヘラミガキ。内:口縁部ココナデ。体部斜め方向のヘラミガ キ。胴部ヘラミガキ。
134	土師器 高坪	SK157	口:(20.0) 高:(5.0) 底:— 最大径:— 外壁上位1/4 褐色・明褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石	外:口縁部ココナデ。砂粒粗いヘラミガキ。内:口縁部ココナデ。 体部ヘラミガキ。
135	土師器 不明	SK157	長:34.3 幅:16.0 厚:10.0 重:7860.0		デザイン不明。表面粗い。上位のみに施す。
136	土師器 壺	SK160	口:(10.0) 高:(4.6) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部1/5 にぶい褐色／やや良	砂粒、黄緑、 内肉石、赤色粒	外:口縁部ハケム後ココナデ。胴部ヘラミガキ。内:口縁部ハケム 後ココナデ。
137	土師器 壺	SK161	口:(18.0) 高:(11.0) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部1/5 にぶい褐色・褐色／やや良	砂粒、黄緑、 内肉石、石英	外:口縁部ココナデ。胴部上半不明。下半ヘラミガキ。内:口縁 部ココナデ。胴部上半不明。下半ヘラミガキ。
138	土師器 壺	SK165	口:(8.0) 高:(8.8) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部上位1/4 灰褐色・にぶい褐色／やや良	砂粒、黄緑、 内肉石	外:口縁部ココナデ。胴部ヘラミガキ。内:口縁部ココナデ。胴部 ヘラミガキ。
139	土師器 壺	SK166	口:(18.0) 高:(4.7) 底:— 最大径:— 口縁部1/3 褐色・にぶい褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石、石英	外:口縁部ココナデ。胴部ヘラミガキ。内:口縁部ココナデ。胴部 ヘラミガキ。
140	土師器 高坪有耳	SK1 No2	口:13.8 高:3.3 底:6.8 最大径:— 口縁へ底部4/5 灰褐色／良好	砂粒、石英	ロクロ成形(右回)。底部回転糸切り後、高台貼付。
141	土師器 高坪	SK1 No1	長:13.8 幅:4.0 厚:3.1 重:306.2		重転舞石(右回)。
142	土師器 壺	SK2 No1	口:(20.2) 高:(13.6) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部1/3 (口上位置) にぶい褐色／やや不良	砂粒、黄緑、 石英	外:口縁部ココナデ。胴部ヘラミガキ。内:口縁部ココナデ。口 縁へ胴部ナデ。胴部ヘラミガキ。
143	土師器 高坪有耳	SK3 No3	口:— 高:(4.3) 底:(8.0) 最大径:— 体へ底部1/2 灰褐色／良好	砂粒、石炭	ロクロ成形(右回)。底部回転糸切り後、高台貼付。
144	土師器 高坪	SK3 No8	口:— 高:(7.2) 底:11.2 最大径:— 胴部5/6 褐色／良好	砂粒、内肉石、 石英	外:胴部ヘラミガキ。内:胴部上位ヘラミガキ。下位ナデ。
145	土師器 坪	SK0 No2	口:12.3 高:3.2 底:9.5 最大径:— にぶい褐色／良好	砂粒、内肉石、 石英	外:口縁部ココナデ。体へ底部ヘラミガキ。内:口縁部コ コナデ。体へ底部ナデ。底付着。
146	土師器 壺	SK7	口:(10.6) 高:(7.5) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部上位 褐色／良好	砂粒、内肉石、 石英	外:口縁部ココナデ。胴部ヘラミガキ。内:口縁部ココナデ。胴部 ヘラミガキ。
147	土師器 坪	SK0	口:(11.4) 高:3.2 底:(7.0) 最大径:— 口縁へ底部破片 灰褐色／良好	砂粒、黄緑、 石英	ロクロ成形(右回)。底部回転糸切り後、高台貼付。
148	土師器 高坪	SK0	口:(10.0) 高:(3.4) 底:— 最大径:— 胴部破片 灰褐色／良好	砂粒	ロクロ成形。
149	土師器 壺	SK0	口:— 高:(9.4) 底:(3.5) 最大径:— 胴部下位へ底部 褐色・にぶい赤褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石	外:胴部下位へ底部ヘラミガキ。底付着。内:胴部下位へ底部ヘラ ミガキ。
150	土師器 坪	SK18	口:(13.8) 高:(3.7) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部破片 褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石	摩耗のため不明。
151	土師器 壺	SK19	口:(18.8) 高:(5.5) 底:— 最大径:— 口縁へ胴部破片 にぶい褐色／良好	砂粒、内肉石、 石英、赤色粒	外:口縁部ココナデ。胴部ハケム。内:口縁部ココナデ。胴部ハ ケム後ヘラミガキ。
152	土師器 壺	PG	口:— 高:(23.0) 底:— 最大径:(24.0) 胴部1/5 褐色・にぶい黄褐色／良好	砂粒、黄緑、 内肉石	外:胴部ヘラミガキ。内:胴部上へ中位ハケム。下位ナデ。

第22表 出土遺物観察表(8)

No.	発見 場所	出土位置	法量 (cm・g) 形状 (外側・内側) / 地蔵	胎土	紋様・刻印・文様等
153	赤生土層 遺	P6	口:- 高:(11.4) 底:- 最大径:- 断面形状/良好	砂粒、雲母	外: 沈着で面文を施す。R1線文を施す。
154	土師器 台付罐	P9	口:(14.0) 高:(4.3) 底:- 最大径:- 口縁へ肩部1/4 にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、内開石、 赤色粒	外: 口縁部コナナ。肩部ハケム。内: ナズ。
155	土師器 杯	P16	口:(12.2) 高:(3.6) 底:(6.0) 最大径:- 口縁へ肩部1/5 灰オリーブ色/良好	砂粒、雲母	口縁部。底部底面切。
156	土師器 杯	P16	口:(12.2) 高:(3.2) 底:- 最大径:- 口縁へ肩部1/4 明褐色/ぶい褐色/良好	砂粒、雲母	外: 口縁へ体部上半コナナ。下半ナズ。底部へラ削り。 内: 口縁へ体部コナナ。底部ナズ。
157	土師器 盃	P37	口:(13.0) 高:(11.9) 底:- 最大径:(13.6) 口縁へ肩部1/2 明赤褐色/良好	砂粒、石英、 赤色粒	外: 口縁部コナナ。肩部上へ中位ハケム。下位へラ削り。 内: 口縁部ハケム。底部ナズ。
158	土師器 勾玉	P37	長:4.0 幅:2.8 厚:1.7 重:15.6 光沢 にぶい黄褐色/良好	砂粒、内開石、 石英	平づく。穿孔1ヶ所。
159	土師器 台付罐	P38	口:- 高:(7.0) 底:(12.0) 最大径:- 有部 にぶい褐色/やや不良	砂粒、内開石	外: ハケム幾ナズ。内: ナズ。
160	土師器 鉢	P76	口:(12.0) 高:(6.0) 底:(4.5) 最大径:- 口縁へ肩部1/4 明赤褐色/良好	砂粒、赤色粒	外: 口縁部コナナ。体へ底部へラ削り。内: ナズ。
161	土師器 盃	P98	口:- 高:(40.8) 底:- 最大径:(70.0) 断面1/2 灰白色/やや不良	砂粒、雲母、 内開石、長石、 赤色粒	外: ナズ。内: 肩部上ナズ。中位ハケム工具によるタタキ。
162	石製 石鏡	P92	長:2.1 幅:1.5 厚:0.4 重:0.9		黒曜石製。
163	土師器 杯	P100	口:(14.0) 高:(4.1) 底:- 最大径:- 口縁へ底部1/4 明赤褐色/良好	砂粒、雲母、 赤色粒	外: 口縁部コナナ。体へ底部削り幾ナズ。内: ナズ。
164	土師器 盃	P109	口:- 高:(3.1) 底:(11.2) 最大径:- 有部 にぶい褐色/良好	砂粒、赤色粒	外: 不明。内: ナズ。地蔵部穿孔2段8ヶ所。
165	土師器 台付罐	P158	口:(11.6) 高:(4.3) 底:- 最大径:(14.6) 口縁へ肩部上平 黒褐色/やや不良	砂粒、雲母、 内開石、赤色粒	外: 口縁部コナナ。肩部ハケム。内: 口縁部コナナ。肩部ナズ。
166	土師器 盃	V22 IV層	口:- 高:(3.0) 底:- 最大径:- 口縁へ肩部1/4 灰色/良好	白色粒	口縁部。
167	土師器 盃	W23 IV層	口:(14.1) 高:(4.3) 底:(3.5) 最大径:- 口縁へ底部9/10 明褐色/良好	砂粒、雲母、 石英、赤色粒	外: 口縁部コナナ。体へ底部へラ削り幾ナズ。内: 口縁部コナナ。 体へ底面凹文状の粗いタタキ。
168	土師器 杯	X23 IV層	口:(12.0) 高:(3.5) 底:- 最大径:- 口縁へ底部1/2 明褐色/良好	砂粒、雲母、 内開石	外: 口縁部コナナ。体へ底部へラ削り。内: ナズ。
169	土師器 盃	W23 IV層	口:(17.0) 高:(5.6) 底:- 最大径:- 口縁1/2 明赤褐色/良好	砂粒、雲母、 内開石、赤色粒	外: コナナ。内: ナズ。全体的に磨き悪い。
170	土師器 盃	W23 IV層	口:(22.0) 高:(14.2) 底:- 最大径:- 口縁へ肩部1/4 明褐色/良好	砂粒、雲母、 内開石、赤色粒	外: 外周コナナ。肩部ヘラナズ。内: 外周コナナ。肩 往部へラ削り。底部コナナ。
171	土師器 盃	W21 IV層	口:- 高:(3.1) 底:(16.9) 最大径:- 口縁1/4 明褐色/良好	砂粒、内開石、 赤色粒	外: ヘラミガキ。内: 口縁部へラ削り。肩部コナナ。
172	土師器 盃	W23 IV層	口:- 高:(3.0) 底:(14.0) 最大径:- 口縁へ底部へラ削り 明褐色/良好	砂粒、雲母、 内開石	外: 下部底へ口縁部ヘラミガキ。肩部底面凹文状ヘラミガキ。 内: 口縁部ヘラナズ。肩部ナズ。
173	土師器 盃	W23 IV層	口:- 高:(10.3) 底:(18.6) 最大径:- 口縁へ底部へラ削り 明赤褐色/良好	砂粒、雲母、 赤色粒	外: 口縁部ナズ。肩部コナナ。内: 口縁部ナズ。体部へラ削り幾ナズ。 下半へラ削り。肩部コナナ。
174	土師器 特殊盃	W23 IV層	口:- 高:(3.1) 底:- 最大径:- 口縁へ底部へラ削り 明褐色/やや不良	砂粒、内開石、 白色粒	外: 内: ナズ。穿孔2ヶ所残存。受け部下に5〜6ヶ所穿孔。
175	土師器 盃	W23 IV層	口:(16.8) 高:(13.8) 底:- 最大径:(24.2) 口縁へ肩部上平1/3 明赤褐色/やや不良	砂粒、雲母、 長石	外: 口縁部コナナ。肩部へラ削り。内: 口縁へ口縁ヘラナズ。
176	土師器 盃	W24 IV層	口:(22.0) 高:(17.5) 底:- 最大径:- 口縁へ肩部中位1/4 明赤褐色/やや不良	砂粒、雲母、 赤色粒	外: 口縁部コナナ。口縁へ底部へラ削り。内: ナズ。

第23表 出土遺物観察表(9)

No	種別 品名	出土位置	法量 (cm・g) 保存 色票 (外側・内側) / 底面	胎土	特徴・調査・文書等
			色票 (外側・内側) / 底面		
177	土師器 壺	W23 IV層	口: (13.0) 高: (6.3) 底: 一 最大径: 一 口縁~頸部1/2 明褐色/良好	小砂粒、雲母、 石英、赤色粒	外: 口縁~頸部ヘミガキ。内: 口縁部ヘミガキ。底~唇部ヘミガキ。
178	土師器 壺	W24 IV層	口: (17.0) 高: (6.9) 底: 一 最大径: 一 口縁~頸部1/2 にぶい赤褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	外・内: ココナデ。
179	縄文土器 深鉢 断面式	W21 IV層	口: 一 高: (6.0) 底: 一 最大径: 一 断面破片 赤褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	断面を帯状に区画し、内部に浮き彫り的な渦巻文を配する。
180	石製 紡錘車	W23 IV層	長: 4.2 幅: 4.5 厚: 1.1 重: 23.8		泥紋磨製。
181	石製 打穀石杵	W23 IV層	長: 18.4 幅: 9.6 厚: 3.4 重: 671.7		砂岩製。
182	須恵器 杯	VI層	口: (13.8) 高: 3.3 底: (7.5) 最大径: 一 口縁~底面1/4 灰色/やや良	砂粒、白色粒	ロクロ成形。底面回転糸切り。
183	須恵器 杯	VI層	口: (10.6) 高: 3.5 底: (6.2) 最大径: 一 口縁~底面1/4 灰色/良好	砂粒、白色粒	ロクロ成形 (右側)。底面回転糸切り。
184	須恵器 杯	R25 VI層	口: 12.2 高: 4.4 底: 7.6 最大径: 一 定形 灰色/灰白色/良好	砂粒	ロクロ成形 (右側)。底面回転糸切り後、両縁部ヘタ張り。
185	須恵器 壺	X19 VI層	口: 一 高: (2.4) 底: 一 最大径: 一 断面破片 灰色/良好	砂粒	ロクロ成形。外側部3本1半位の放射状文。
186	土師器 杯	R25 VI層 No3	口: (12.3) 高: 3.9 底: 一 最大径: 一 口縁~底面1/10 にぶい褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	外: 口縁部ココナデ。底~底面ヘタ張り。内: 口縁~唇部ココナデ張り。ヘタミガキ。底面ナデ。
187	土師器 杯	W23 VI層	口: (11.5) 高: 4.8 底: 5.0 最大径: 一 口縁~底面1/2 にぶい褐色/やや良	砂粒、雲母、 長石、赤色粒	外: 口縁部ココナデ。底面~底面ヘタ張り。内: 口縁部ココナデ。底~唇部ナデ。
188	土師器 台付甕	VI層	口: (14.3) 高: (3.7) 底: 一 最大径: 一 口縁~唇部1/2 にぶい灰色/良好	砂粒、雲母	外: 口縁部ココナデ。側部ハケメ。内: ナデ。
189	土師器 台付甕	VI層	口: 一 高: (5.2) 底: 一 最大径: 一 側面下部~台座上位 にぶい褐色・にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、石英、 白色粒	外: 腹ハケメ張り。内: 側部ヘタナデ。台座ナデ。
190	土師器 台付甕	R25 VI層	口: 一 高: (6.9) 底: 10.0 最大径: 一 台座3/4 にぶい褐色/良好	砂粒、雲母、 長石	外: 台座ナデ後、上位に腹ハケメ。部分的にナデ消し。内: ナデ。
191	土師器 壺	O25 VI層	口: 17.2 高: (7.6) 底: 一 最大径: 一 口縁~側面上位 明褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石、赤色粒 磨面骨片	外: 口縁部ココナデ。側部ヘタ張り。内: 口縁部ココナデ。側部ナデ。
192	土師器 壺	VI層	口: (14.3) 高: (5.1) 底: 一 最大径: 一 口縁~唇部1/2 灰褐色・にぶい黄褐色/やや良	砂粒、雲母、 角閃石、赤色粒	外: 口縁部ココナデ。底~唇部ハケメ。内: 口縁部ハケメ。側部ヘタナデ。
193	土師器 小型壺	R25 VI層 No2	口: (6.4) 高: (4.2) 底: 一 最大径: (7.3) 口縁~側面中位1/4 にぶい褐色/やや良	砂粒、角閃石、 石英	外: 口縁~側部ココナデ。側部ハケメ。内: 口縁部ココナデ。側部ナデ。
194	土師器 壺	VI層	口: 一 高: (3.0) 底: 一 最大径: 一 断面破片 褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	外: 平肩細文2条。その間に山形細文。下位に竹筭細文。
195	縄文土器 深鉢	R25 VI層	口: 一 高: (6.3) 底: 一 最大径: 一 口縁部破片 暗褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外: 口縁山状突起。把手凹溝。断面に紅銅文。口縁直下に波状渦巻文を施し、2条1組の波帯で文様を施す。内: ナデ。
196	石製 磨石	O22 VI層	長: 3.6 幅: 3.6 厚: 4.0 重: 7.6		蛇紋岩製。
197	陶器 灯明皿	C7 VI層	口: (9.5) 高: 2.2 底: 4.8 最大径: 一 口縁~底面1/2 褐色・オリーブ色/良好		ロクロ成形。外側部ヘタ張り。底面・尖底部。
198	須恵器 杯	H4 VI層 No12	口: (11.8) 高: 3.5 底: (7.0) 最大径: 一 口縁~底面1/2 灰色/良好	砂粒、白色粒	ロクロ成形。底面回転糸切り後ナデ。
199	須恵器 杯	E3 VI層 No19	口: 一 高: (1.7) つまみ径: 5.8 つまみ~唇部 灰白色/良好	砂粒、白色粒	ロクロ成形。つまみ部付。
200	須恵器 壺	E4 VIa層	口: (18.4) 高: (2.0) 底: 一 最大径: 一 1/4 灰白色/良好	砂粒	ロクロ成形。
201	土師器 杯	H3 VI層	口: (12.8) 高: 3.2 底: 一 最大径: 一 口縁~底面1/3 にぶい褐色/やや良	砂粒、雲母、 角閃石	外: 口縁部ココナデ。底~底面ヘタ張り。内: 口縁~唇部ココナデ。底面ナデ。

第24表 出土遺物観察表 (10)

No.	発掘 層	出土位置	法量 (cm・g) 形状 色調 (外側・内側) / 造成	胎土	特徴・調査・文様等
202	上御遺 跡	J2 VI層 No.13	口:16.4 高:6.1 底:17.5 最大径:一 口縁へ底部2/3 にぶい黄褐色/良好	砂粒、雲母	外:口縁へ底部上位コナデ。中位へ底部近いハケミ状へラミ。内:口縁部コナデ。底部ナデ。下部部分的にへラミガキ。底部ナデ。
203	上御遺 跡	R25 VI層	口:9.0 高:(2.9) 底:一 最大径:一 受け部 明褐色/良好	砂粒、角閃石、 赤色粒	外:口縁部コナデ。外部へハケミ状へラミガキ。内:口縁部コナデ。底部へラミガキ。底部下位黄褐色。
204	上御遺 跡	J2 VI層 No.13	口:(24.7) 高:(20.1) 底:一 最大径:一 口縁へ底部 にぶい褐色・にぶい黄褐色/良好	砂粒、角閃石、 石英	外:口縁部コナデ。へラミ状。底部へラミ。内:口縁部コナデ。底部ナデ。
205	上御遺 跡	H4 VI層 No.8	口:(23.2) 高:(6.1) 底:一 最大径:一 口縁部1/3 灰褐色・褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	外:口縁部コナデ。内:口縁部コナデ。底部へラミ。
206	上御遺 跡	J2 VI層 No.13	口:(26.8) 高:(8.8) 底:一 最大径:一 口縁へ底部上位破片 褐色/良好	砂粒、雲母、 角閃石	外:口縁部コナデ。へラミ状。底部へラミ。内:口縁部コナデ。底部コナデ。底部へラミ。
207	弥生上層 遺跡	B5 VI層	口:一 高:(4.7) 底:一 最大径:一 胴部上位破片 にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、石英	胴部にハケミ文を施す。多量長方形文様の内側に波状線を描く。
208	弥生上層 遺跡	C4 VI層	口:一 高:(3.5) 底:一 最大径:一 口縁部破片 にぶい黄褐色/やや不良	砂粒、長石、 石英	口縁部外側にハケミ文。胴部に波線を6段以上描く。穿孔1ヶ所残存。
209	加土遺片	C6 VI層	長:0.8 幅:5.8 厚:2.0 底:67.6		褐色黄岩。
210	弥生上層 遺跡	A区 表土	口:(13.0) 高:3.4 底:一 最大径:(14.5) 口縁へ底部1/3 にぶい黄褐色/良好	砂粒、角閃石	外:口縁部コナデ。底部ナデ。底部ナデへラミ。内:コナデ。
211	瓦 平瓦	A区 掘孔	長:(9.4) 幅:(9.7) 厚:2.9 破片 黄灰色/良好	小砂粒、石英	凸面:ナデ。凹面:糸切り肌。布目肌。

第VI章 自然科学分析

第1節 高関高根遺跡の土層とテフラ

(1) はじめに

関東平野北西部に位置する高崎市とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の地積年代を知ることができるようになっていく。

そこで、発掘調査の際に、層位や年代が不明な上層や遺構が検出された高崎市高関高根遺跡においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、採取した試料を対象にテフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、上層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、調査区西壁、SD1、SD2、SD6の4地点である。

(2) 土層の層序

調査区西壁

調査区西壁では、下位より黒灰色土（層厚5cm以上）、灰褐色土（層厚15cm）、黒灰褐色土（層厚0.7cm）、成層したテフラ層（層厚8.3cm）、灰色砂（層厚4cm）、黄色シルト層（層厚2cm）、灰褐色土（層厚9cm）、黄色土（層厚7cm、Ⅱ層下部）、灰色土（層厚4cm、Ⅱ層上部）が認められる（第60図）。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.3cm）、褐色粗粒軽石を含む灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚1cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）から構成される。このテフラ層は、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、荒牧、1968、新井、1979）に同定される。発掘調査では、このAs-Bの直下から水田の可能性のある凹凹が検出されている。

SD1

SD1 Cセクションの覆土は、下位より暗灰色土（層厚8cm、8層）、灰色土（層厚8cm、7層）、黒灰褐色土ブロックに富む灰色土（層厚27cm、6層）、暗灰褐色土ブロックを少し含む灰色土（層厚11cm、3層）、黒灰褐色土ブロック混じりでやや色調が黒っぽい暗灰色土（層厚16cm、2層）、白色軽石混じり暗灰褐色土（層厚10cm、軽石の最大径16mm、1層）からなる（第61図）。

さらに上位には、下位より亜角礫混じり灰褐色土（層厚7cm、礫の最大径17mm、Ⅲb層）、亜角礫混じりで灰色がかった褐色土（層厚19cm、礫の最大径41mm、Ⅱc層）、黄灰色土（層厚3cm）、黄色がかった灰色土（層厚2cm、以上Ⅱa層）、白色軽石に富む灰白色砂層（層厚10cm、軽石の最大径11mm）、白色軽石を含む灰色土（層厚5cm）、円礫層（層厚22cm、礫の最大径138mm、以上Ⅰ層：盛土）が認められる。これらのうち、Ⅰ層中に認められる白色軽石は、比較的発泡が良く光沢をもつことから、1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A、荒牧、1968、新井、1979）に由来すると考えられる。

SD2

SD2 B セクションの覆上は、下位より黒灰褐色土ブロックに富む灰色土(層厚 19cm, 2層)と暗灰褐色土(層厚 25cm, 1層)からなる(第 62 図)。その上位には、さらに下位より灰褐色土(層厚 3cm, III b層)、灰色がかった褐色土(層厚 19cm, II c層)、黄灰色土(層厚 5cm)、黄色がかった灰色土(層厚 2cm, 以上 II a層)、白色軽石に富む灰白色砂層(層厚 10cm, 軽石の最大径 11mm)、亜円礫じり盛土(層厚 29cm, 礫の最大径 118mm, I層)が認められる。これらのうち、I 層中に認められる白色軽石は、比較的発泡が良く光沢をもつことから、As-A に由来すると考えられる。なお、SD2 の下位には、亜円礫を含む黄色泥流堆積物(礫の最大径 92mm)が認められ、井戸の壁でのその厚さは 48cm を超える。この堆積物は、層相から井野川泥流堆積物(早田, 1990)に相当すると考えられる。

SD6

SD6 D セクションの覆上は、下位より暗灰褐色土(層厚 7cm)、色調が黒っぽい暗灰色土(層厚 14cm)、砂混じり暗灰色土(層厚 21cm)、白色粗粒火山灰混じり灰褐色土(層厚 21cm)、亜円礫じり盛土(層厚 58cm, 礫の最大径 98mm)が認められる(第 63 図)。

(3) テフラ検出分析

分析試料と分析方法

調査区西壁、SD1、SD2、SD6 において基本的厚さ 5cm ごとに採取した試料のうちの 19 点に、発泡調査担当者により SD6 の B セクション 5 層から採取された試料を加えた合計 20 試料についてテフラ検出分析を行い、軽石や火山ガラスなどテフラ粒子の特徴やその産出状況の把握を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

分析結果

テフラ検出分析の結果、3 種類の軽石を検出することができた(第 25 表)。それらのうち最下位にある軽石(最大径 2.3mm)は、灰白色でスポンジ状に良く発泡している。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。中位の軽石(最大径 8.9mm)は、白色でさほど発泡が良くない。斑晶に、角閃石や斜方輝石が認められる。上位の軽石は、比較的良く発泡した淡褐色の軽石(最大径 8.4mm)で、斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。これらの軽石が含まれている試料には、それぞれの細粒物である軽石型ガラスが含まれている。なお、軽石が認められない場合にも、これらの軽石型ガラスが検出されることがある。

調査区西壁では、試料 4 に灰白色軽石やその細粒物である灰白色の軽石型ガラスが含まれている。試料 2 には、灰白色軽石型ガラスのほかに白色の軽石型ガラスも認められる。SD1 覆上では、いずれの試料からも淡褐色の軽石や軽石型ガラスが検出された。その中では、試料 23 にこれらのテフラ粒子が含まれているが、その下位の試料 25 でも比較的多く認められる。また、多くの試料で、白色の軽石や軽石型ガラスが検出されるが、とくにその顕著な濃集は認められない。

SD2 覆上においても、いずれの試料からも淡褐色の軽石や軽石型ガラスが検出された。その中では、最下位の試料 9 により多くのこれらテフラ粒子が含まれている。また、白色の軽石あるいは白色の軽石型ガラ

スがいずれからも検出されたものの、とくにその顕著な濃集は認められない。

SD6 覆土でも、いずれの試料からも淡褐色の軽石や軽石型ガラスが検出された。全体として、下位ほどその量は多いように見える。白色の軽石あるいは白色の軽石型ガラスも、同じようにいずれからも検出されたものの、とくにその顕著な濃集は認められない。

(4) 屈折率測定

測定試料と測定方法

テフラ検出分析の対象となった試料のうち、SD1 覆土最下位の8層から採取された試料25に含まれる淡褐色軽石のガラス部について、実体顕微鏡下でハンドピッキングの後に軽く粉砕して、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）により、火山ガラスの屈折率（ n ）の測定を実施した。

測定結果

屈折率測定の結果を第26表に示す。火山ガラス（32粒子）の屈折率（ n ）は、1.522-1.503である。

(5) 考察

テフラ検出分析で検出されたテフラのうち、灰白色軽石およびその細粒物である灰白色の軽石型ガラスについては、その岩相から4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石（As-C、荒牧、1968、新井、1979、灰廣、1988、若狹、2000）に由来すると考えられる。また、白色軽石およびその細粒物である白色の軽石型ガラスについては、その岩相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳淡川テフラ（Hr-FA、新井、1979、坂口、1986、早山、1989、町山・新井、1992）に由来すると考えられる。さらに、SD1において屈折率測定の対象になった淡褐色軽石や、その細粒物である淡褐色の軽石型ガラスについては、岩相や火山ガラスの屈折率などから、As-Bに由来すると考えられる。

以上のことから、調査区西壁で認められた土層のうち、試料4が採取された土層あるいはその下位に、As-Cの降灰層があると考えられる。また、試料2が採取された土層はHr-FA降灰後に形成されたと推定される。溝状遺構に関しては、SD1、SD2、SD6のいずれもがAs-B降灰後に埋没が始まっていると考えられる。流水によるテフラの流失や溝状遺構内の堆積物の除去が行われていないとすると、これらの溝状遺構の層位は、As-Bより上位でAs-Aより下位にあると推定される。

(6) まとめ

高崎市高岡高根遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、いわゆる井野川泥流堆積物の上位に、下位より浅間C軽石（As-C、4世紀初頭）、榛名二ツ岳淡川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B、1108年）、浅間A軽石（As-A、1783年）などのテフラ層やテフラ粒子を検出できた。本調査区において検出された溝状遺構のうち、SD1、SD2、SD6についてはAs-BとAs-Aの間に層位があると考えられる。

〈文献〉

- 新井房夫（1979）「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナルNo.157』P41-52
荒牧重雄（1968）「浅間火山の地質」『地質研究専報No.45』P65
町田 洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」P276 東京大学出版会
町田 洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス」P336 東京大学出版会

- 坂口 一 (1986) 『榛名ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器』『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』P103-119 群馬県教育委員会編
- 早田 勉 (1989) 『6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害』『第四紀研究27』P297-312
- 早田 勉 (1990) 『群馬県の自然と風上』『群馬県史 通史編1 原始古代1』P37-129 群馬県史編さん委員会編
- 友廣哲也 (1988) 『古式土師器出現期の榛相と浅間山C軽石』『群馬の考古学』P325-336 群馬県埋蔵文化財調査事業団編
- 若狭 徹 (2000) 『群馬の弥生土器が終わるとき』『人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流』
P41-43 かみつけの里博物館編

第25表 テフラ検出分析結果

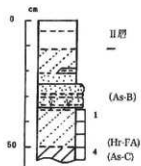
地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
調査区西壁	2				*	pm	灰白,白
	4	*	灰白	2.3	*	pm	灰白
SD1	3	*	淡褐	3.4	**	pm	淡褐,白
	7	**	淡褐,白	5.2,3.9	**	pm	淡褐,白
	9	**	淡褐,白	2.2,2.2	***	pm	淡褐,白
	11	**	淡褐,白	8.4,2.8	***	pm	淡褐,白
	13	**	白,淡褐	8.9,2.8	***	pm	淡褐,白
	15	**	白,淡褐	4.2,3.2	**	pm	淡褐,白
	19	**	淡褐	4.9	**	pm	淡褐,白
	23	***	淡褐,白	3.4,3.0	***	pm	淡褐,白
	25	**	淡褐	5.4	**	pm	淡褐,白
SD2	3	*	淡褐	3.2	**	pm	淡褐,白
	7	**	淡褐,白	4.1,6.2	**	pm	淡褐,白
	9	***	淡褐	5.8	***	pm	淡褐,白
SD6	2	*	淡褐	3.1	**	pm	淡褐,白,灰白
	6	*	淡褐	2.9	**	pm	淡褐,白
	10	*	淡褐	4.7	**	pm	淡褐,白
	14	**	淡褐	5.1	**	pm	淡褐,白
	16	**	淡褐,白	2.9,2.2	**	pm	淡褐,白
	3層	**	淡褐,白	4.9,2.1	***	pm	淡褐,白

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, 最大径の単位はmm.

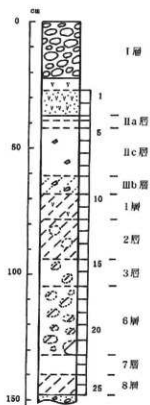
第26表 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラスの屈折率	測定点数
SD1	25	1.522-1.530	32

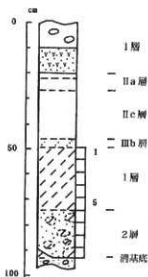
屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置 (MAIOT) による。



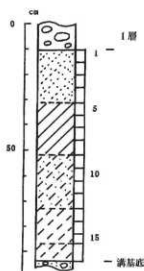
第 60 図 調査区西壁の上層柱状図
(数字はテフラ分析の試料番号)



第 61 図 SD1の土層柱状図
(数字はテフラ分析の試料番号)



第 62 図 SD2の上層柱状図
(数字はテフラ分析の試料番号)



第 63 図 SD6の土層柱状図
(数字はテフラ分析の試料番号)

凡 例

	礫石
	龍眼火山灰
	御飯火山灰
	黒灰黒～黒褐色土
	黄灰～黄灰褐色土
	灰褐色土
	褐・黄～灰褐色土
	土塊ブロック
	柱状堆積物
	層
	砂
	シルト

第2節 高関高根遺跡におけるプラント・オパール分析

(1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

(2) 試料

分析試料は、調査区西壁から採取された計3点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

(3) 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C ・6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。

(4) 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類 (穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な 6 分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 1 および図 1 に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

(5) 考察

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。ただし、密度が 3,000 個/g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個/g として検討を行った。

調査区西壁では、As-C を含む黒灰色土 (試料 3)、As-C および Hr-PA を含む灰褐色土 (試料 2)、As-B

直下の黒灰褐色土（試料1）について分析を行った。その結果、試料2と試料1からイネが検出された。密度は、試料2では3,000個/g、また試料1では3,800個/gといずれも比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(6) まとめ

プラント・オパール分析の結果、調査区西壁ではAs-CおよびHr-FAを含む灰褐色土とAs-B直下層の2層準からイネが比較的多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

〈文献〉

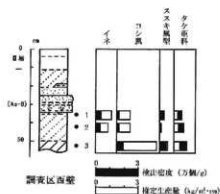
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213。
 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、p.15-29。
 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学、17、p.73-85。

第27表 プラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）		調査区西壁		
分類群	学名	1	2	3
イネ	<i>Oryza sativa</i>	38	30	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	15	15	45
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	23	7	45
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	53	67	90

推定生産量（単位：kg/m²・cm）

イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.11	0.88	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.95	0.95	2.83
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.28	0.09	0.56
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.25	0.32	0.43



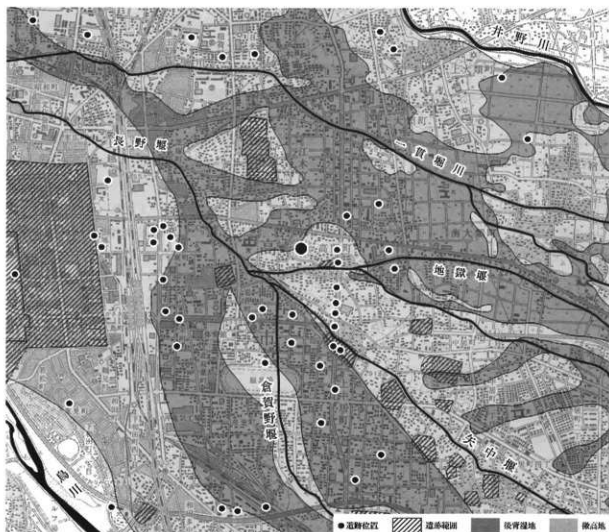
第64図 プラント・オパール分析結果

第Ⅶ章 ま と め

高岡高根遺跡では、数多くの遺構・遺物が検出された。検出された遺構の内訳は、竪穴住居跡9軒、竪穴状遺構2基、溝28条、土坑164基、井戸9基、性格不明遺構20基、ピット259基、As-B下水田1面である。出土遺物は、整理箱で40箱程である。本遺跡は、A・C区の一部において2面調査を行ったこともあり、遺構の様相が掴み難い状況となっている。よって本章では、一部記述内容が前章までと重複することとなるが、遺跡の概要を再度記述する。

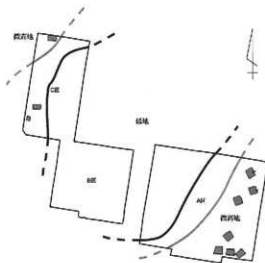
第1節 遺跡の立地

本遺跡は、前橋台地西部の烏川と井野川に挟まれた、高崎台地とも呼称される地域に位置する。高崎台地は、後背湿地と呼ばれる低地と微高地が複雑に入り組んだ地形を呈しており、その状況は本遺跡周辺でもみられる。第65図は、第1図の一部に地形区分を重ねた図である。^(注1) 遺跡周辺の地形を概観すると、北西から南東に向かって何条もの後背湿地が広がっており、現在の長野県水系や一貫堀川などの位置も、これとおおそ一致する。このことから長野氏が長野堰の基礎を築いたとされる以前から、北西から南東に向かう自然流路が、いくつも存在したことが推定される。本遺跡は、そのような後背湿地の一つを北側に臨む、



第65図 遺跡周辺の地形

微高地の縁辺に位置している。調査区内における微地形をみると、A区の東側とC区の北西部に微高地がみられ、その間の旧水田部分が低地となっている。古代の高関高根遺跡は、北から延びる舌状の小支谷を挟んで北西と南東に微高地があり、その上に少数ながらも竪穴住居・竪穴状遺構が展開している状況であったといえる。そして低地部では、水田が営まれていた。今回の調査ではAs-B下水山のみが確認されたが、古墳時代以前にも、この辺りで水田が営まれていた可能性は十分ある。中世以降は長野堰を始めとする灌漑水路が整備され、遺跡の東約180mには高関屋敷の存在が推定されている。近世以降は、現正泉寺を中心に集落が形成され、その周辺は水田や畑地となった。



第66図 遺跡内の微地形

第2節 主な遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡・竪穴状遺構

本遺跡では、9軒の竪穴住居跡と2基の竪穴状遺構が検出された。低地を挟んで北西側のC区では、SI3、SX4.5が検出され、時期は8～9世紀代が想定される。これらに伴うと思われる遺構は他には確認されておらず、集落の詳細については今後周辺における調査事例の増加が待たれる。

低地の南東側にあたるA区東側では、SI1.2.4.5～9が検出された。いずれも遺存状態が悪く、遺物も少ないため時期については不明な点が多いが、SI1.2.4は6世紀以降、SI7は7世紀以降と考えられる。包含層から5世紀代の遺物が大量に出土しているが、その時期の住居跡は確認されていない。5世紀代の遺構としては、SE5.9が確認されているのみで遺構密度も薄いことから、集落の中心は南東側にあるものと推測される。本遺跡の南東約400mにある高関村前遺跡では、弥生時代中～後期や古墳時代の竪穴住居跡・畠跡などが検出されていることも、そのことを裏付けているといえる。

(2) 溝状遺構

本遺跡では、28条の溝状遺構を検出した。溝は大規模な方形区画溝と、微高地と低地の境界付近に位置する小規模な溝の2種類に大別できる。

方形の区画溝はSD1.2.6からなり、SD2.6は2条でL字の区画をなしている。この区画溝の特色としては、SD1の北辺がV24グリッド辺りで若干蛇行し、正確な方形を呈していないこと、外側の溝は2条の溝からなり、しかもSD2のみ深度がかなり浅いことが挙げられる。外側の溝(SD2.6)と内側の溝(SD1)が同時に掘削されたものか、時間差があるものかは不明であるが、SD1がA-2区内の長方形土坑の一部と重複していることから、SD2.6が先行する溝の可能性はある。また、覆上は黒褐色土主体で、比較的一括に埋め戻されたような印象を受けた。この溝は明黄褐色の井野川泥流層を5～60cm程掘り込んで構築されているが、遺構覆土には掘り上げた廃土の流入はみられない。そのことから、この区画溝に伴う土塁などは存在せず、廃土はかなり遠方まで搬出されたものと思われる。溝が掘削された時期は、第VI章にもあるように、As-B降下以後からAs-A降下以前の間が想定されている。基本層序からみると盛土であるIV層上整地後、As-B混土であるIII層上堆積前である。区画内の遺構は、出土遺物の様相から、SK11以外は近世まで下ると思われるものはない。また区画溝から出土した遺物で、最も新しい時期の71は、SD6とSK26から出土した産地不詳の陶器の甕で、13世紀前葉頃のものである。^(註2) このことから区画溝の廃絶は13世紀前葉以

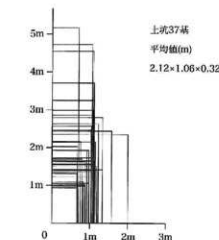
降となり、区画溝を含めたA-2区第1面の遺構群は、中世におさまる年代、下っても近世初頭までのものと思われる。

小規模な溝は、低地と微高地の境界に沿うような形で掘削されており、A・C区で検出された。この溝は、大規模な溝と同様As-B降下以降に掘削されており、その時微高地側にはAs-Bは存在しておらず、意図的に除去された可能性もある。これらの溝は、As-Bが遺存する区域とそれ以外の境界に掘削されているが、その性格・機能については不明点が多い。溝が機能していた時期は、SD2・6・19がほぼ同時に埋没していることから、中世におさまる年代、下っても近世初頭までと思われる。

(3) 土坑

ここでは、A-2区第1・2面の土坑について記す。第1面では、長方形・方形の土坑が主体であった。V章にもあるように、A-2区の西側と東側で、主軸方位に若干の違いがみられる。西側の土坑については、区画溝に類似した主軸方位であり、一連の遺構群と考えられる。東側の土坑は、溝の主軸方位とは若干ずれる傾向にある。基本的には両者とも、区画溝内の同時期の土坑群と考えているが、微妙な主軸方位の違いが何に起因するのか、今後の検討課題である。

これらの土坑は、規模が判明しているもので長軸0.92～5.16m、短軸0.66～2.00m、深さ0.12～0.69mである。覆土は黒褐色土主体で、一括して埋め戻されているような状況であった。遺物は非常に少なく、縄文から中世までのものが出土しているが、前述のように、平安時代以前の遺物は混入と考えられる。現状判明していることは、これらの土坑はA-2区内にのみ存在し、区画溝とほぼ同時期に機能していたと考えられることである。土坑の性格であるが、土坑墓や俗に「イモ穴」と呼ばれるような貯蔵穴などが考えられる。前者に関しては、埼玉県の薬師堂根遺跡で類似した土坑群が検出されている。ここでは、15～16世紀を中心とする渡来銭や皿類などが副葬品として出土している、長軸1～5m程の長方形・方形土坑が大規模区画溝の内側で多数検出されている。本遺跡の土坑群からは、薬師堂根遺跡のような副葬品は出土していないが、土坑の形状・規模は非常に似ている。後者に関しては、溝に区画された範囲



第67図 第1面 長方形・方形土坑の規模 (S=1/100)

に「イモ穴」群が検出された事例は、管見の限りない。土坑の性格については、以上のような可能性は考えられるものの、遺跡から得られる情報では確証を得るには至らなかった。

第2面の土坑は、SK101・152以外の土坑について、V章でおおまかに分類した。傾向としては、第1面で検出された長方形土坑に類似した土坑が17%、円形・楕円形土坑が40%、採土坑の可能性のある土坑（以下採土坑）が30%、その他13%であった。採土坑と分類したものに、円形・楕円形土坑や性格不明遺構などのなかにも土取り行為の痕跡が含まれている可能性は高い。土取りと思われる範囲は、A-2区第2面においてVIc層が遺存していなかった部分、SD1内側の中央部分で、その面積は約300㎡になる。掘削深度は浅く、0.1～0.6m程度である。掘削深度が浅い理由としては、湧水点が浅く、1mも掘ると水が湧くことが考えられる。しかしA-2区は、礫混じりの井野川泥流層上に立地しており、粘土が得られるような場所ではない。どのような目的があって泥流層土を採取したのか、今後の検討課題である。採土坑の時期であるが、SI7よりも古い採土坑があることから、古墳時代まで遡る可能性はある。また第2面の遺構覆土からは、

As-Bの純層などは確認されていないことから、採土坑はAs-B降下時にはある程度埋没していたか、降下後ある程度してから掘削されたと考えられる。どちらにしてもSD1で囲われた、極めて限定的な範囲で行われた行為であることは、注目に値する。

(4) 包含層

本遺跡で確認された主な包含層は、IV層とVIa～VIc層である。それ以外にC区北側のみにおいて、III層土を除去し遺構確認を行っている際に、少量の肥前産磁器などの近世遺物が出土しており、III層出土遺物と判断した。攪乱・耕作などによって後世に混入した可能性もあるが、III層土の堆積時期が近世期まで下る可能性もあるといえる。

IV層土は砂質の強い黒褐色土で、A-2区の中央部にのみ堆積していた。自然科学分析を行っていないため確認はないが、As-Bが混入している可能性もある。出土遺物は古墳時代中期前半頃のものが主体であるが、SD1との重複関係から、中世以降SD1などが掘削される前に盛土されたと考えられる。A-2区中央部は、第2面において採土坑と思われる遺構などが密集しており、IV層土を盛土する以前は、相当凹凸が激しかったものと推測される。そのため、SD1などの区画溝を掘削する前に、IV層土を用いて整地したものと思われる。IV層土が盛土された時期は、SD1に先立つ整地層と推定されるため、中世以降近世初頭までの間と考えられる。IV層土からは、古墳時代中期頃の遺物が多く出土しており、遺存状態の良い高坏が目立った。IV層土が調査区外から持ち込まれた客土と推定しているものの、そこに含まれる遺物があまり壊れていないという現象は、やや不自然に感じる。現在この疑問に対する解答は用意できていないが、今後の検討課題としてここに記す。

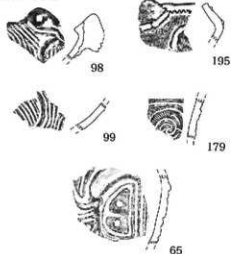
VI層土は、上層にのみ古墳～平安時代の遺物を包含していた。しかしVI層土の堆積自体は平安時代まで遡るものではなく、これらの遺物は後世の耕作などによって混入したものと思われる。第VI章でも示したように、VI層上下位はAs-C降下後、上位はHr-Fa降下後に形成されたものと推定されている。VIc層に設定したトレンチ内でSE9が検出されており、調査時にはVIc層下VII層上面の遺構と判断したが、前記のテフラ分析の結果から、VIc層中位から掘り込まれた可能性がでてきた。出土遺物が5世紀前半頃のものが中心であったことから、この可能性は高いと思われる。

(5) 出土遺物

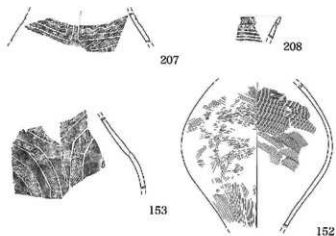
本遺跡では整理箱で40箱程の遺物が出土し、そのうち211点を図示した。ここでは主要な遺物を抜粋し、その様相について述べる。

縄文時代の遺物としては、中期の上器片と石器が少量出土している。弥生時代の遺物は、中期中葉頃の土器が少量出土しているが、後期の遺物は確認できていない。P6からは、東北部の南御山Ⅱ式の系譜を引く壺(153)が出土している。^(註3) 古墳時代の遺物が最も多く、出土遺物の大半は中期のものである。前期は遺構、包含層ともに一定量出土しているが、図示したもののほとんどはSE8出土遺物であった。中期は、高坏はそれほど多くないが、高坏が比較的多く出土している。高坏はいずれも柱状の脚部を有するもので、坏部や裾部に綾をもつ個体がある。壺は、口縁部に綾をもつものが目立った。また稀少な遺物として、初期須恵器の破片(166)が1点出土している。^(註4) 後期になると出土量は減少する。須恵器の坏、土師器の横微坏・甕などが出土している。奈良・平安時代は8～10世紀頃の遺物が出土しているが、出土量は多くない。灰釉陶器が数点出土しており、いずれも黒笹14号窯式である。^(註5) また図示していないが、須恵器の羽釜片も包含層などから出土している。中世以降になると、遺物はほとんどなくなる。

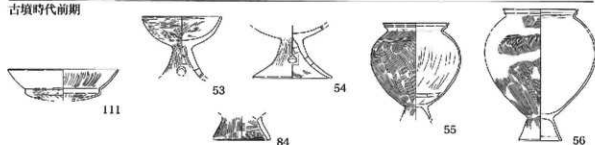
縄文時代中期



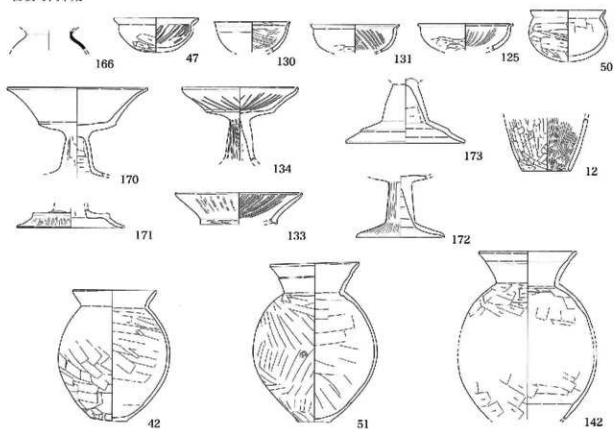
弥生時代中期



古墳時代前期

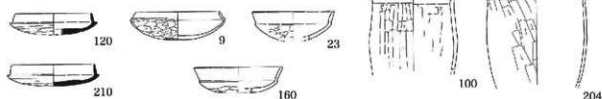


古墳時代中期

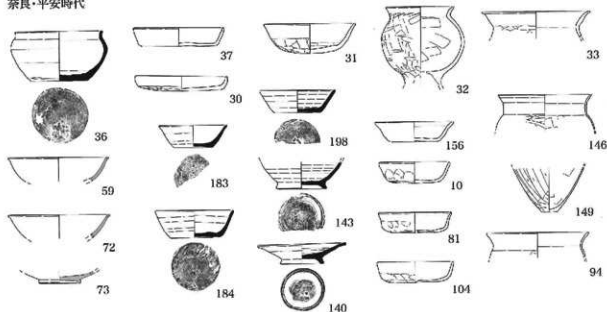


第68圖 主要出土遺物一覽(1)

古墳時代後期



奈良・平安時代



中世以降



第69図 主要出土遺物一覧(2)

第3節 小結

ここでは、高岡高根遺跡の時代毎の概要を述べる。縄文時代の遺構は、SK152がその可能性が高いといえる以外、検出されなかった。しかし、包含層などから当該期の土器・石器が多く出土しており、近隣に集落遺跡などが存在している可能性は高い。弥生時代の遺構は確認されていないが、弥生時代中期の上層などが少量出土している。高岡堰村遺跡・高岡村前遺跡などでも当該期の遺構・遺物が検出されており、同じ微高地上に集落が存在している可能性がある。

古墳時代になると、遺構数が増加する。堅穴住居跡は古墳時代後期のものが検出されているが、SE8のように前期に遡る井戸もあることから、古墳時代全般にわたって微高地上に集落が展開していた可能性が高い。またこの頃から、A-2区の一部では、土取り行為が行われていたと思われる。古墳時代後期後半以降、奈良・平安時代になると遺構・遺物数が減少する。この現象は高岡村前遺跡などでも確認されており、集落が移動したものと考えられている。その時期の遺構としては、A-2区で7世紀代以降のSI7、C区で8～9世紀頃のSI3、SX4・5が検出されているのみである。生産遺構としてAs-B下水田が検出されたが、第V章

続する堀跡」や近世の掘立柱建物が報告されていることから、近世まで継続して使用されていた可能性は高いが、屋敷の起源については15世紀まで遡る可能性が高い。戦国期の反町城に比定されている上中居辻築師Ⅱ遺跡の発掘調査では、15世紀もしくはそれ以前にまで遡る堀跡が検出されている。また、古い段階の矢中堀とみられるSD38が検出されており、15世紀に整備された水路と推定されている。以上のことから長野県を始めるとする灌漑用水路は少なくとも15世紀には存在しており、その流域に立地する城館の多くも、15世紀まで遡る可能性が高いといえる。本遺跡の東に位置する高関屋敷も、その使用者が角田氏であるか否かは別にして、15世紀には成立していた可能性が高いだろう。

そこで、本遺跡と地獄塚・高関屋敷との関係について考えてみる。本遺跡の区画された区域の時期は不明ではあるが、近世の遺構がほとんどないことから、高関屋敷と同時期、もしくはそれ以前に構築されたものと考えられる。地獄塚との関係については不明であるが、区画溝に帯水の痕跡がないことから、区画溝が構築された時期には地獄塚はある程度整備されていたと推測する。^(注6) 次に、区画内の遺構の性格として、どのようなものが考えられるであろうか。区画内には掘立柱建物などはなく、長方形・方形土坑が主体であったため、いわゆる城館ということは考えにくい。土坑群の性格は貯蔵穴や墓坑などが考えられるものの、確証は得られていない。今後近隣を更に調査することによって、区画内の性格及び地獄塚・高関屋敷との関係も明らかになってくるものと思われる。そして調査事例が増えることによって、中世後期の長野県流域が、どのように開発・経営されていたのかも見えてくるものと期待する。

(注1) 第65図は、『繪図観音山古墳Ⅰ』の第4図の地形区分を引用・トレースし、河川・堀は現況のものをトレースした。

(注2) 井上喜久男氏の御教示による。

(注3) 大木幹一郎氏の御教示による。

(注4) 田口一博、榎本原真岡氏の御教示による。

(注5) 井上喜久男氏の御教示による。

(注6) 区画溝が区画のみを目的とするものではなく、雨水等を排水する目的も有していたと考えたと、その排水先は地獄塚が考えられる。

引用・参考文献

- 高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』1999
- 高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』2000
- 高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』1996
- 高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編4 中世Ⅱ』1994
- 高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編14 寺社』2003
- 群馬県史編さん委員会 『群馬県史 通史編1 原始古代Ⅰ』1990
- 群馬県史編さん委員会 『群馬県史 通史編2 原始古代Ⅱ』1991
- 田中広明 「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向-群馬・埼玉県を中心として-」『東国土器研究 第4号』1995 東国土器研究会
- 坂口一・三浦京子 「奈良・平安時代の土器の編年・住居の重複と共存関係による土器型式組列の検討」『群馬県史研究 第24号』1986 群馬県史編さん委員会
- 坂口一 「東国須恵器の一様相-関東甲信地方における出現期の須恵器について-」『考古学雑誌 第74巻 第1号』1988 日本考古学会 「群馬県における古墳時代中期の土器の編年-共存関係による土器型式組列の検討-」『研究紀要4』1987 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 桜岡正信 「7世紀以降の土師器坪の面期とその要因について-群馬県地域を中心として-」『群馬考古学手帳2』1991 群馬土器観会
- 樋口定志 「中世居館の再検討」『東京考古5』1987 東京考古談話会
- 「中世方形館を巡る諸問題」『歴史評論2』1988 歴史科学協議会
- 「中世東国の居館とその周辺 -南関東におけるいくつかの発掘調査事例から-」『日本史研究330』1990 日本史研究会
- 「中世居館研究の現状と問題点」『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集 考古学と中世史研究』1991 名著出版
- 「方形館はいかに成立するのか」『争点 日本の歴史 4巻』1991 新人物往来社
- 藤沢良祐 「瀬戸窯跡群-歴史を刻む日本の代表的窯跡群-」2005 同成社
- 茂木由行 「群馬県における鬼高式土器の編年」『群馬県考古通信 第9号』1984 群馬県考古学談話会
- 山崎一 「群馬県古城墓址の研究 下巻」1972 群馬県文化事業振興会
- 「群馬県古城墓址の研究 上巻」1978 群馬県文化事業振興会
- 「群馬県古城墓址の研究 補遺編 上下巻」1979 群馬県文化事業振興会
- 若狭徹・深沢敦仁 「北関東西部における古墳出現期の社会」『シンポジウム新潟県における高地性集落の解体和古墳の出現』2005 新潟県考古学会
- 高崎市文化財調査報告書 第42集 『江木諏訪西遺跡』1995 高崎市教育委員会
- 高崎市文化財調査報告書 第52集 『高岡東沖Ⅱ遺跡』1996 高崎市教育委員会
- 高崎市文化財調査報告書 第128集 『高岡村前遺跡』1993 高崎市教育委員会
- 高崎市文化財調査報告書 第135集 『高岡村前Ⅱ遺跡・高岡東沖・村前遺跡』1995 高崎市教育委員会
- 高崎市文化財調査報告書 第187集 『栄町Ⅲ遺跡』2003 高崎市教育委員会
- 高崎市文化財調査報告書 第198集 『上並榎八反田遺跡』2005 高崎市教育委員会
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第197集 『矢田遺跡VI』1996 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第230集 『下芝五反田遺跡-古墳時代-』1998 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第242集 『錦貫観音山古墳Ⅰ』1998 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第200集 『薬師堂根遺跡』1998 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- かみつけの里博物館 『高崎藩の考古学』2005
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 『年代のものさし-陶器の須恵器』2006

写 真 图 版



A区第1面全景（上が北）



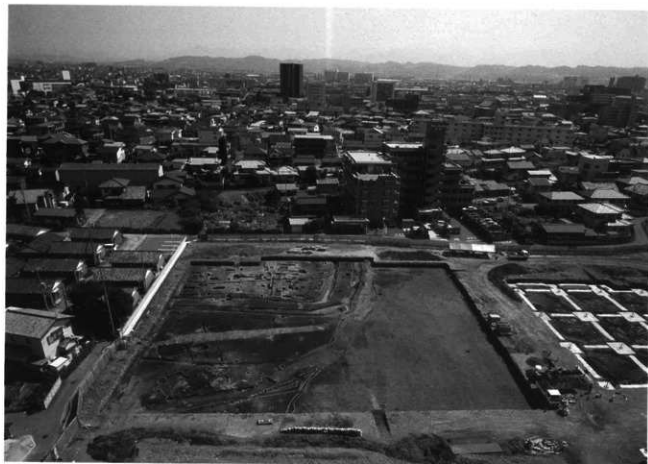
B・C区全景（上が北）



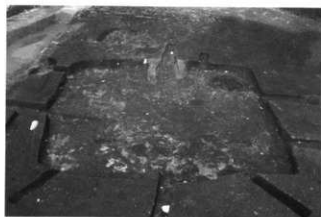
A-2区第1面全景（上が北）



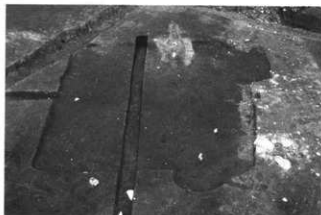
A-2区第2面全景（上が北）



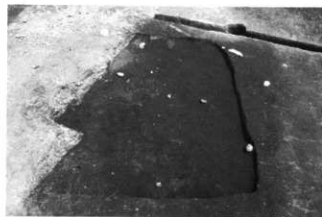
A区第1面全景（北から）



SI1 全景（西から）



SI2 全景（西から）



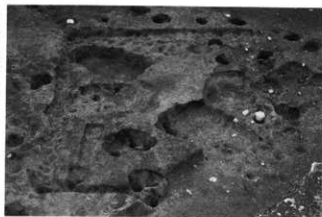
SI4 全景（南西から）



SI6 全景（南から）



SI7 全景 (西から)



SI8 全景 (南西から)



SI3 全景 (西から)



SX4 全景 (西から)



SX5 遺物出土状況全景 (東から)



SD1・6 全景 (西から)



SD1・2 全景 (南から)



SD1 南壁セクション (北から)



SD2 Aセクション (南から)



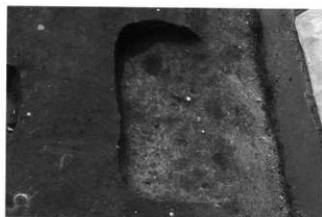
SD6 Aセクション (東から)



SD3~5全景 (西から)



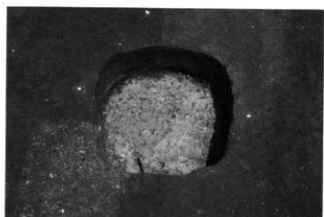
SD16全景 (西から)



SK5全景 (東から)



SK6全景 (南から)



SK11全景 (南から)



SK12全景 (東から)



SK13 全景 (北から)



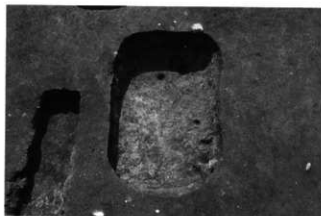
SK18 全景 (西から)



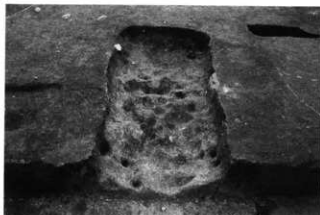
SK19 全景 (西から)



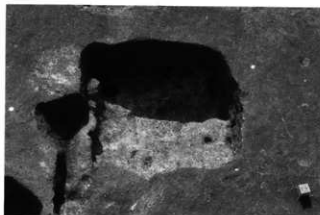
SK21 全景 (南から)



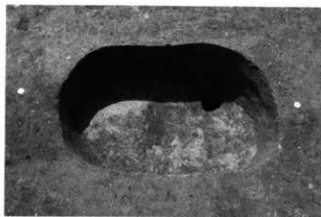
SK26 全景 (東から)



SK27 全景 (東から)



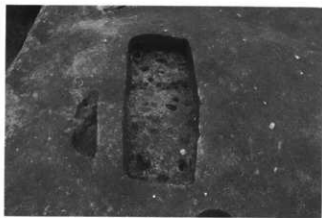
SK28 全景 (東から)



SK29 全景 (東から)



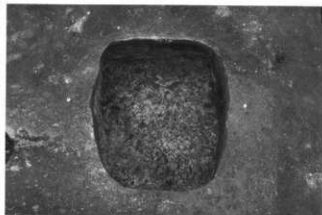
SK33 全景（南から）



SK35 全景（東から）



SK39 全景（西から）



SK40 全景（南から）



SK41 全景（東から）



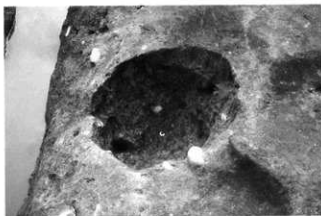
SK42 全景（西から）



SK43 全景（南から）



SK52 全景（北から）



SK55 全景 (南西から)



SK56 全景 (西から)



SK57 全景 (南から)



SK58 全景 (南から)



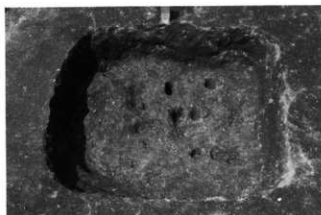
SK59 全景 (東から)



SK60 全景 (南から)



SK61 全景 (南から)



SK62 全景 (南から)



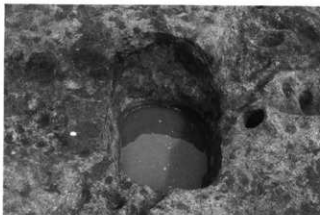
SK69 全景 (南から)



SK81 全景 (南から)



SK89 全景 (南から)



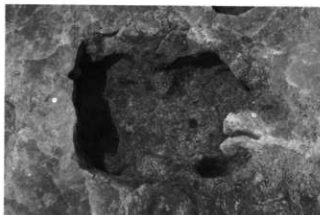
SK90 全景 (南から)



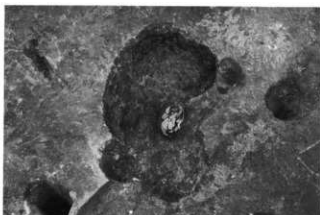
SK91 全景 (南から)



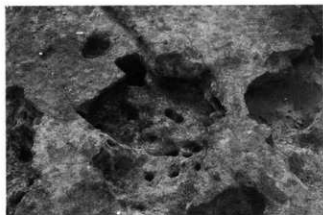
SK95 全景 (西から)



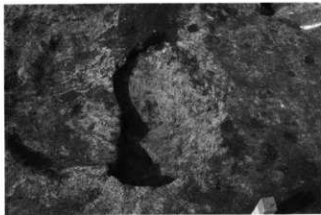
SK99 全景 (東から)



SK101 遺物出土状況全景 (南西から)



SK110 全景 (西から)



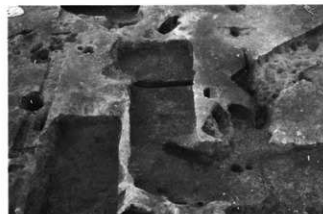
SK113 全景 (南から)



SK119 全景 (西から)



SK123 全景 (西から)



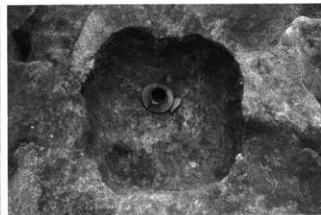
SK127 全景 (東から)



SK128 全景 (西から)



SK129 全景 (南から)



SK113 遺物出土状況全景 (東から)



SK135 全景 (南から)



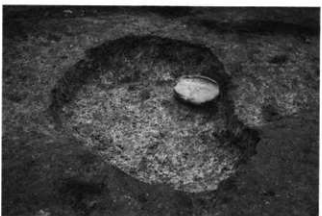
SK138 全景 (南から)



SK142 全景 (東から)



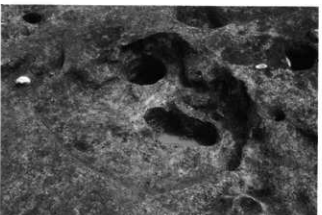
SK150 全景 (東から)



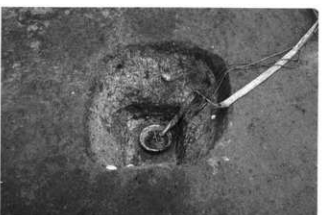
SK152 遺物出土状況全景 (東から)



SK157 セクション (西から)



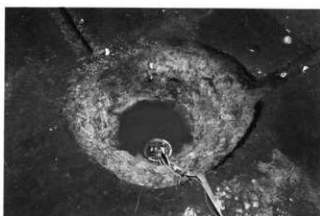
SK161 全景 (西から)



SE1 全景 (西から)



SE5 全景 (南東から)



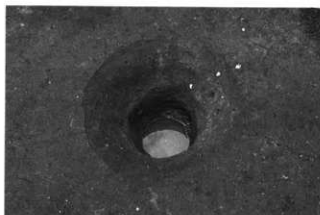
SE6 全景 (南から)



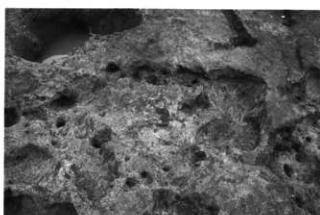
SE8 全景 (東から)



SE9 遺物出土状況全景 (南から)



SE2 全景 (東から)



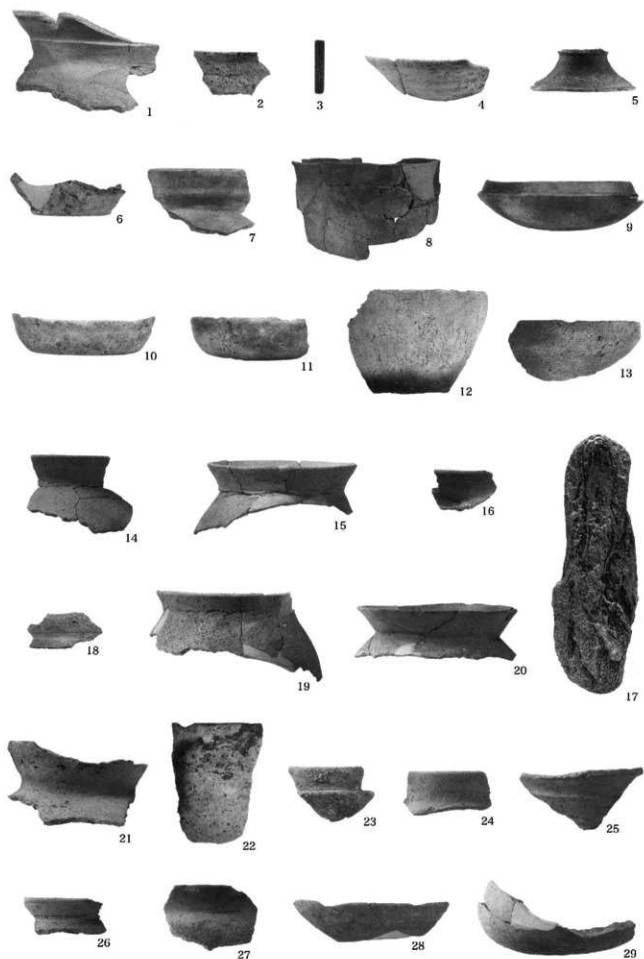
SX20 全景 (東から)



P6 遺物出土状況全景 (南から)



P88 遺物出土状況全景 (東から)





30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



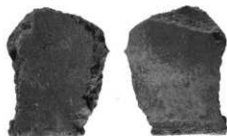
43



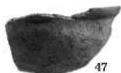
45



44



46



47



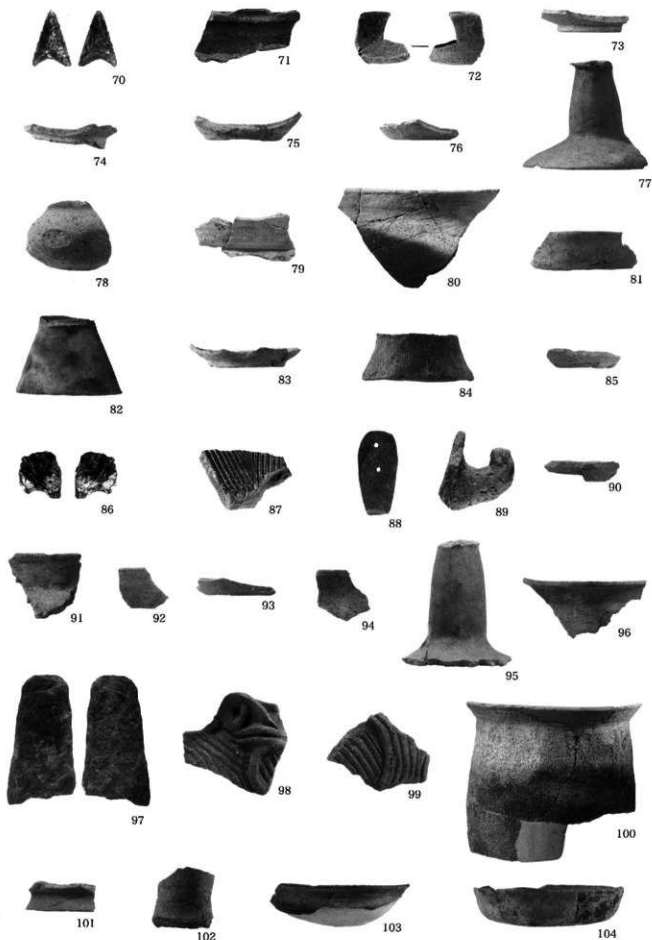
48

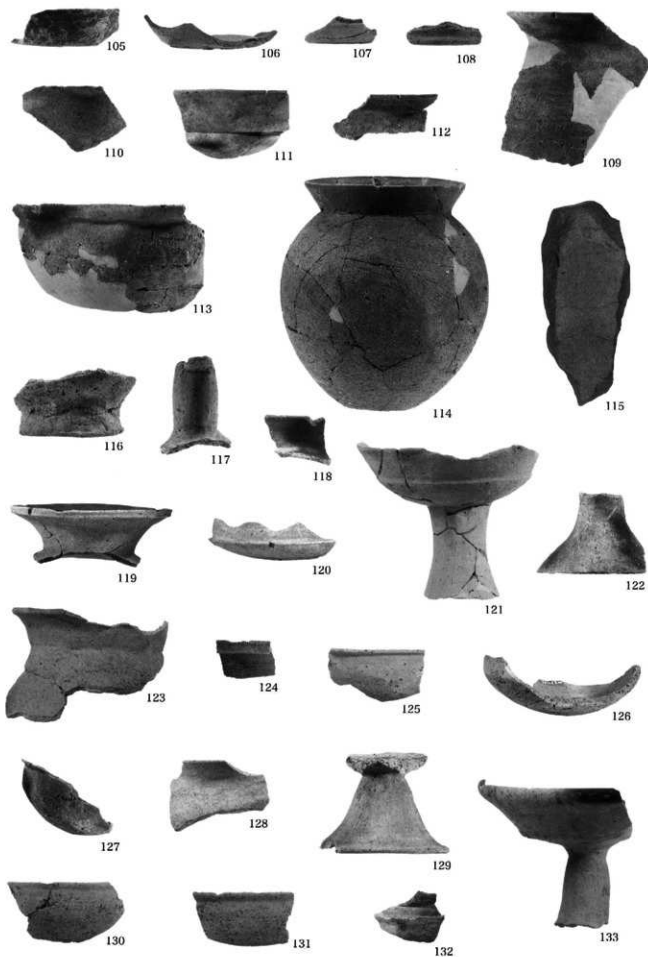


49

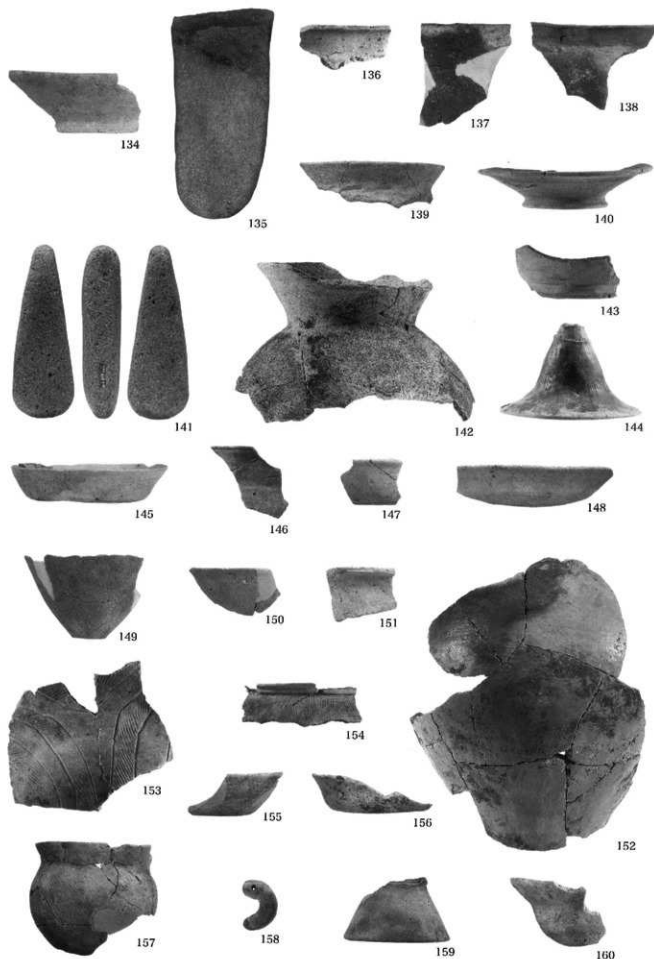


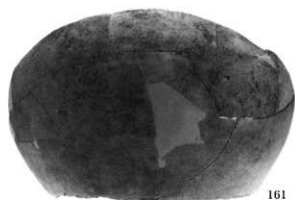
出土遺物 № 50 ~ 69





出土遺物 № 105 ~ 133





161



162



163



164



165



166



167



168



169



171



170



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



182



183



184



185



186



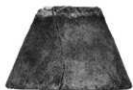
187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



197



198



199



200



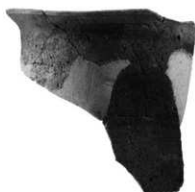
201



202



203



204



205



206



207



208



209



210

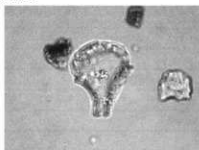


211

植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真



イネ



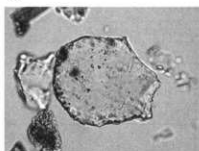
イネ



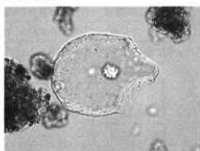
イネ(側面)



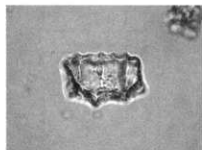
ヤビ族型



ヨシ属



ヨシ属



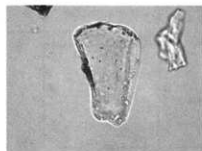
ネザサ節型



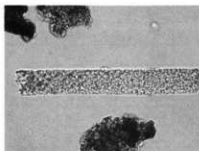
ススキ属型



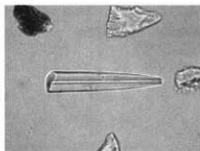
ススキ属型



イネ科A(くさび型)



棒状珪酸体



海綿骨針

50μm

報告書抄録

フリガナ	タカゼキタカネイセキ
書名	高岡高根遺跡
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第244集
編著者名	菊池康一郎・福井流星
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高岡市高松町35番地 1
発行年月日	2009年7月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
タカゼキタカネイセキ 高岡高根遺跡	タカゼキタカネイセキ 高岡市高岡町高根 250番地 250番地他	102024	419	36°19'34"	139°01'28"	2008.6.6～ 2008.9.3	6214.86㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高岡高根遺跡	集落・水田・その他	古墳～ 平安時代	竪穴住居跡 9軒	土師器・須恵器	
			竪穴状遺構 2基		
			井戸 3基		
			水田 1面		
		中・近世	溝 23条	土師器・須恵器・ 灰釉陶器・陶器	大型方形区画溝
			土坑 70基		
			井戸 4基		
		不明	溝 5条	縄文土器・弥生土器 ・土師器・須恵器	
			土坑 94基		
			性格不明遺構 20基		
			井戸 2基		
			ピット 253基		

高関高根遺跡

—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成21年7月31日 印刷

平成21年7月31日 発行

編集・発行／ 高崎市教育委員会

高崎市高松町35番地1

TEL 027-321-1291

印刷／ 細谷印刷有限会社
